

Ⅱ. 受入市町村・体験調査員報告レポート

ここでは、受入市町村担当者、及び、体験調査員（地域づくりインターン）から提出されたレポートの紹介を行います。

【レポート掲載ページ】

福島県昭和村	15
静岡県東伊豆町	29
兵庫県加西市	43
島根県邑南町	57
岡山県吉備中央町	79
徳島県美馬市	93
長崎県南島原市	107

福島県昭和村

体験内容（受入レポートから）

大芦地区地域資源調査
カスミソウ選花体験
からむし織の体験・体験生との交流

報告者

市町村 : 本名 久喜（総務課企画係）
体験調査員：及川 一輝（千葉大学大学院）
鄭 叡智（立教大学）

福島県 昭和村 「からむし織とカスミソウの里」

インターン受け入れレポート

担当 総務課企画係 本名久喜

【受入期間】 平成21年 8月23日（日）～平成21年 9月 6日（日）

【体験調査員】 及川一輝（オイカワ カズキ） 岩手県出身

千葉大学大学院園芸学研究科1年

鄭 叡智（ジョン イエジ） 韓国出身

立教大学観光学部交流文化学科3年

【昭和村の概要】

昭和2年11月、大芦村・野尻村の合併により当時の年号にあやかり昭和村が誕生しました。福島県会津地区のほぼ中央に位置し、周囲を1,000m級の山々に囲まれ209.34km²と広大な面積を有していますが、その9割が山林で、只見川の支流である野尻川・玉川・滝谷川の3本の河川が流れる標高400m～800mの平坦地に10の集落で構成された農山村です。



人口は昭和30年に4,810人を記録しましたが、現在は約3分の1の1,500人まで落ち込み、特に村内の学校は小学校1校児童数46名、中学校1校生徒数21名で、小学校では複式学級が2クラスあり、複式解消事業として村単独で講師を付け教育を行っているところです。また、65歳以上の比率も54%と高く、国内でも少子・高齢化率が非常に高くなっている地域です。

気象は日本海型で、冬期間は降雪が多く最高積雪は2mにも達し、特別豪雪地帯にも指定されています。基幹産業は農業ですが、夏季は冷涼で主たる耕作地は平均気温22.1度、最高気温27.4度、最低気温15.5度と日較差が大きく、7～9月の平均降水量は510mmと少なめで、これらの気象条件が夏秋季の宿根カスミソウ栽培に適していることから一大産地に成長してきました。また、四季折々に美しく変化する豊かな自然を守りながら600有余年にも渡り綿々と受け継がれてきた本州唯一の「からむし」生産地でもあり、地域資源を活用し、平成6年度から『からむし織体験生「織姫・彦星」事業』を展開しています。

*「からむし」：イラクサ科の多年草植物で、別名「苧麻（ちょま）」または「青苧（あおそ）」とも呼ばれ越後上布や小千谷縮布の原料として出荷され、本州唯一の生産地として、「からむしだけは絶やすなよ」と言い伝え守られてきた。

【受入の目的】

高齢化率50%超の過疎地域住民との交流をとおり、都市部に生活する若者から見た現状を踏まえ、調査員として感じたこと考えたことについて提言をいただき、本村の活性化に結びつけて、さらに調査員との末永い交流を構築していく。

【受入内容】

- ・ 体験内容～NPO法人芋麻倶楽部が取り組んでいる事業に参画
 村民との交流（自宅や事業所訪問）を主体に聞き取り調査を実施
 （高齢化率の高い地域での農業問題や空き家対策、観光資源開発等について）
- ・ 活動の拠点～過疎高齢化の進んでいる大芦地区を中心に活動
- ・ 宿泊形態～古民家を借り自炊生活

【スケジュール】

日 程	体 験 内 容		活動場所
	午 前	午 後	
8月23日	移 動・入 村	村内散策・簡易刈インターン	-
8月24日	関係者挨拶・刈インターン	ワークキャンプとの合流	大芦・小野川
8月25日	地域資源調査説明	調査区内視察	大 芦
8月26日	地域資源調査	地域資源調査	大 芦
8月27日	地域資源調査	地域資源調査	大 芦
8月28日	地域資源調査	地域資源調査	大 芦
8月29日	休日（週末ワークキャンプ自由参加）		大 芦
8月30日	休日		大 芦
8月31日	地域資源調査	地域資源調査	大 芦
9月 1日	地域資源調査	地域資源調査	大 芦
9月 2日	地域資源調査	地域資源調査	大 芦
9月 3日	カスミソウ選花体験	からむし織体験生との交流	下中津川・喰丸
9月 4日	地域資源調査取纏め	調査員報告会	大芦・下中津川
9月 5日	会津地方観光視察	ワークキャンプメンバーとの送別会	会津・小野川
9月 6日	帰 郷	-	-



地域での歓迎会



国際ワークキャンプメンバーと

【活動内容】

1) 大芦地区地域資源調査

当該地域は昭和村合併前の大芦村として中心地であったが過疎・高齢化が進み、年齢別構成では年少人口が5.1%、生産年齢人口が39.5%、老年人口にあつては55.4%(75歳以上でも38.7%)と地域内では半数以上の方々が高齢者で締めている。このような状況下にあるため、集落支援への取り組みも視野に、地域における農業問題や、空き家対策、更には観光交流事業に対し、限られた時間内で地域住民に協力を依頼し、聞き取り調査を実施した。

2) 農業体験



同時期にNPO法人苧麻倶楽部によって、国際ワークキャンプ(日本、アメリカ、韓国、台湾、スペイン等)の受入により農業ボランティア等を実施していたことから、国際交流を併せて当該事業にも参加し、草刈り機の操作やカスミソウ栽培農家へ出向き、選花作業の体験を実施した。

3) からむし織の体験と織姫との交流

「からむし」は越後上布や小千谷縮布の原料供給地として、昭和村では600有余年にわたり綿々と受け継がれて栽培されている貴重な文化遺産である。

昭和村では平成6年度より「からむし織体験生」として、今までに84名の織姫・彦星を受け入れ、栽培から糸づくり、織りに至るまで約1年間の体験交流事業を展開している。このため、本年度の受け入れ者(北は宮城県、南は広島県と全国各地から4名)であるからむし織体験生からも農山村での生活文化や産業の振興について聞き取りを行い交流を深めた。

【昨年度との比較】

本年度の受入には体験拠点の選定を行ったことから、当該地域に居住しての活動のため地域住民との交流も芽生え、特に調査に伴う移動等では不便を来さなかった。

【昨年度との比較】

プログラムの作成にあたっては、受入先であるNPO法人苧麻倶楽部が主体的に取り組みを進め、宿泊施設についても活動拠点地内の古民家を事前に確保することができ、スムーズにインターン生を迎え入れることができた。

また、新たな受入地となった大芦区長はじめ区民が快く若者を迎え入れ、交流事業の展開が図れた。

【受入の成果】

1) 受入の成果・評価

織姫事業による交流事業が長年続いたこともあって、地域住民が都会の若者を快く受け入れ、孫の代との会話に花が咲いたと喜んでいただけた。

今回の事業による聞き取り調査結果からは、地域の方々が考える農業事情や観光交流事業に対する意欲が高く、村勢を図るうえでの現況把握ができた。

宿泊先は空き家となった農家住宅を借り受け、国際ボランティア参加者との共同自炊生活により、国際交流も兼ねた田舎暮らしを体験していただいた。

地域内での聞き取り調査結果を踏まえて、庁内の関係部署には今後の事務事業展開に繋がられるよう諸問題を提起することができた。



生活拠点の古民家にて

2) 計画と実施の違い

当初の予測では、高齢者世帯が多いことから聞き取り調査実施に向け在宅者が多くあるものと想定していたが、自家用の農菜園や医療機関への通院などで、不在が多く、体験調査員には迷惑をかけてしまった。

休日も返上して週末ワークキャンプに参加していただき、ボランティア要員として活発に活動していただいた。

3) 今後の期待・展望

昨年に引き続き本事業による体験調査員の受入を実施してきたが、都市部在住の若者は以前にも増して地方に対する熱い想いと視線が強まってきているように感じる事ができた。

特に、今回の調査員結果を踏まえ当該調査活動地域を例に存亡を訪ねたとき、行政が目標とする地域活性化を図る前に、地域基盤の健全化（地域内循環による若者の定住策）を目指していかないと地域集落の機能が働かず、10年後には間違いなく消滅してしまう。と忌憚のない意見が飛び交い、過疎・少子高齢化の進む我が昭和村にとって厳しい現状を訴えられ、今後の地域づくりに向けた大きな問題提起となった。

これは、地域を純粹に見ていただいた結果であり、今後もインターン参加者とは絆を大切に交流を続け、若者との交流機会の拡大を図りながら継続を図ってきたい。

平成 21 年度 国土交通省 若者の地方体験交流事業 体験調査レポート

派遣地域：福島県昭和村

体験期間：8 月 23 日～9 月 6 日（15 日間）

千葉大学大学院 園芸学研究科 環境園芸学専攻

修士 1 年 及川 一輝

1. 参加動機

元々地域づくりに興味があり将来は自分の地元に帰り、そういった仕事に就ければと考えている。また、卒業論文でグリーンツーリズムについて取り上げ、修士論文でも同様に取り上げるつもりである。そのグリーンツーリズムの可能性を探るべく論文を作成しているのだが、そのためにも地方の実状や取り組みについて身をもって感じる事が重要であると考えている。そこで、大学の掲示板で当事業を知ったことが参加に至ったきっかけである。

2. 目的

参加動機でも述べたが、地方の実状や取り組みを実際の体験をもとに知ることが最も大きな目的である。また、今まで学んできたことが地域のために使えるものか、今後どういふことを学んでいけばいいかを知ることも重要である。

3. 昭和村概要

昭和村は福島県の南西部に位置し人口は 1,600 人余り、高齢化率は 50% を超えている（2009 年 7 月 1 日現在）。耕地は標高 400～800m に広がっており、冬期間は積雪が多く、日本海性の気候を有しており、夏期は冷涼で主たる耕作地は平均気温 22.1 度、最高気温 27.4 度、最低気温 15.5 度と日較差が大きく、7～9 月の平均降水量は 510mm と少なめである。

主要産業としてカスミソウ栽培があり、6 月から 10 月の東京中央卸売市場におけるシェアの半分を占めている。また、伝統産業として本州唯一の「からむし」生産があり、からむし織体験生「織姫・彦星」事業を展開している。



4. スケジュール

8月23日	日	AM	(来 村)	8月31日	月	AM	大芦地区地域資源調査
		PM	村内関係者挨拶			PM	大芦地区地域資源調査
		夜	フリー			夜	フリー
8月24日	月	AM	オリエンテーション	9月1日	火	AM	大芦地区地域資源調査
		PM	村内周辺散策			PM	大芦地区地域資源調査

		夜	歓迎会			夜	フリー
8月25日	火	AM	調査打ち合わせ	9月2日	水	AM	大芦地区地域資源調査
		PM	調査及び地域住民との交流会			PM	大芦地区地域資源調査
		夜				夜	フリー
8月26日	水	AM	大芦地区地域資源調査	9月3日	木	AM	カスミソウ選花研修
		PM	大芦地区地域資源調査			PM	おり姫と交流
		夜	フリー			夜	民泊
8月27日	木	AM	大芦地区地域資源調査	9月4日	金	AM	地域資源調査取り纏め
		PM	大芦地区地域資源調査			PM	報告会(役場)
		夜	フリー			夜	
8月28日	金	AM	大芦地区地域資源調査	9月5日	土	AM	周辺散策
		PM	大芦地区地域資源調査			PM	周辺散策
		夜	フリー			夜	送別会・報告会
8月29日	土	AM	休暇	9月6日	日	AM	帰省
		PM	(週末ワークキャンプ開催)			PM	
		夜				夜	
8月30日	日	AM	休暇				
		PM	(週末ワークキャンプ開催)				
		夜					

5. 活動内容紹介

・大芦地区地域資源調査

村内でも著しく高齢化が進み、空き家、耕作放棄地等の問題が見られる大芦地区での聞き取り調査を行った。内容は、耕作地、地区内の農業について、空き家問題、都市農村交流等の現状、意識調査である。8月25日に調査打ち合わせを行い、8月26日から9月2日まで(8月29・30日を除く)の7日間で地区内の約80戸から調査のご協力を頂いた。

事前に当事業担当者に回覧板にて通知をしていただいていたが、直接お宅に訪問する調査なので断られることも考えていた。しかし、ほとんどのお宅が親切に接して下さったため、調査は順調に進行し楽しく進めることが出来た。

・ワークキャンプメンバーの活動に参加

NPO 苧麻倶楽部が受け入れているワークキャンプメンバーと、草刈り、薪割り、田んぼの稗抜きを行った。ワークキャンプには様々な国からの参加者が多くいたため、語学の勉強にもなり予想外の体験も出来た。活動中には地域住民との交流や地域の料理をご馳走になったりとお世話になった。

・カスミソウ選花研修

カスミソウ栽培は昭和村の主要産業である。朝収穫したカスミソウを選花し、出荷出来る状態にするまでの過程を拝見させていただき、また実際に作業にも参加させていただいた。選花作業は見ていただけだと簡単にこなしているように感じたが、実際にやってみるとそれが直接出荷されるということもあり一々聞きながらの作業になってしまった。お世話になったのは昨年研修を受け、今年から実際に栽培を行っている方である。そのため、この村に移住してきた理由、カスミソウ栽培の魅力と大変さ、村に住んでみての感想等、多くの興味深い話を聞くことが出来た。

作業の邪魔にはなってしまったが、カスミソウに実際に触れることが出来、また多くの話を聞かせていただいたので収穫が多い体験だった。



6. 地域への提案

調査結果

調査打ち合わせ日：8/25

実施日程：8/26～28、8/31～9/2（7日間）

調査件数：80戸

調査結果から

- ・高齢化率が非常に高く農業後継者がいないため、地域住民の意見にもあったが、あと10年、20年したら大芦地区は存続不可能になってしまう。一番の理由として、大芦地区含め昭和村に就職先がないことがある。働ける場がなく、若者は都市へ流出してしまい、その結果さらに産業の需要がなくなり、過疎化・地域産業の撤退が進行し、悪循環に陥ってしまう。
- ・休耕地が全耕作地の45%を占め、また、その休耕地を無料で貸し出してもいいという人がほとんどだった。
- ・都市農村交流を望む声は87%と多い。
- ・過疎化の進行により空き家が増え、安く借りられる住居が多くある。

提案

『活性化ではなく健全化』

昭和村及び大芦地区の現状から、地域の活性化の前にまず健全化をしなければならない。地域活性化とはその地域のコミュニティの動きを活発にすることであり、過疎対策や雇用創出が問題になっている時点でまだその段階ではない。健全化とは、地域に子供が生まれその子供が大人になり、またその地域

で子供を産めるという基盤がある状況である。そこで、まずは健全化を目指さなければならない。

① 半農半Xが実現できる場所

現金収入を得ることが出来るXを持った人に限定して募集する。

この地域の利点として、以下が挙げられる。

- ・安く借りられる空き家がある。
- ・地代なしで借りられる耕作放棄地がある。

ここで農業の位置付けだが、自明のことではあるが調査結果や昭和村のみなさんの話から生業としては成り立たない。そこで、こういった土地を農業としてではなく農的な生活が出来る場所として提案する。新規就農で自給生活をしてみたいという需要はあり、自給生活が出来る基盤がすでに大芦地区には用意されている。半農半Xが実現出来る基盤がある場所として他地域と差別化し新住民を募集する。

② 語学研修要素が入ったグリーンツアー

滞在中はワークキャンプメンバーと共に活動することが多くあり、そこで参加者の出身国が多様であることに驚かされた。また、外国出身の参加者とともに2週間生活することで、私自身はかなり英語の勉強になった。

そこで、ワークキャンプに参加する外国人の多さをグリーンツアーに活かすのである。もはや国際化という言葉も平然と馴染んだ世間で語学力は非常に重要なことである。そこで、英語が必須能力となっているような社会人、教育熱心な親をターゲットに語学研修目的のグリーンツアーを企画するのである。経営的に見ると厳しいグリーンツーリズムだが、そこに語学研修要素を入れることによって付加価値を付けることが出来る。

7. 感想

目的であった地方の現状を知るという点で、昭和村の特に大芦地区は社会構造からの解決が求められるような厳しい現実があった。地域で生まれた若者にとって、職場がないために村に残るという選択の可能性が非常に低いこと、それに対して親も「村に帰ってこいと言うことが出来ない」という現状である。しかしそれは、この地域が活気も働く場所もなく、魅力がない場所であるという意味ではない。昭和村に到着した当初は、想像を超える田舎で15日間もいるのかと感じたが、実際に滞在してみて15日間は本当に短く、残すべき田舎だと感じた。地域の住民を始めとし、当事業の担当者やNPO 苧麻倶楽部の方々にお世話になっていくうちに、初対面で誰だかも分からない私に対して本当に良くしてくださった。何よりもみなさんが昭和村に誇りを持ち、楽しんで生活しているように感じられた。

この場を借りて、お礼を申し上げます。15日間という短い期間でしたが、私にとっては一生忘れられない15日間でした。昭和村で学んだことを今後自分の生まれた土地に持ち帰り、活かしていきます。共に地域のことを考えながら、日々頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

「からむし織りの里」昭和村

派遣地域：福島県大沼郡昭和村

派遣期間：2009年08月23日から2009年09月06日までの15日間

体験調査員氏名：鄭 叡智（ジョン イェジ）

立教大学 観光学部交流文化学科 3年

派遣地域の概要

昭和村は、福島県の西部に位置し、総面積 209.34 km²を有する農産村で、南は越後山脈である帝釈荒海連峰より北に進んだ駒止産地から Y 字に張り出した御前ヶ岳(1,233m)、博士山(1,482m)、志津倉山(1,203m)と西脈としての黒岩山、大妻山に囲まれた盆地状の中にあり、ほとんどが山岳地帯となっている。人口は 1,632 人（平成 17 年）で、老年人口比率は約 52.4%(平成 17 年)であり、かなり高齢化が進行している地域でもある。四季がはっきりしていることが特徴で、雪国体験プログラムがあるほど冬の積雪量が多い。基幹産業は農業で、カスミソウの生産面積は日本一である。地域の固有文化としては 600 年の伝統を持つ「からむし織り」（苧麻とも言われるイラクサ科の多年草で、茎の皮から繊維を採り、糸を製して越後縮などの布を織る）があり、織姫制度といった後継者養成制度を設けるなど伝統文化にも力を入れている。

（参考：「からむし織りの里」昭和村：村制施行 80 周年昭和村勢要覧、昭和村資料編）

体験内容

大芦地区地域資源調査 からむし織の体験及び織姫さんとの交流
 ワークキャンプとの交流 農作業やカスミ草選花研修 ホームステイ及び地域自然・文化体験

スケジュール

日程		内容		体験場所及び宿泊先
日付	曜日	(上段:午前)		
		(中段:午後)		
		(下段:夜間)		
8月23日	日	AM	(来 村)	昭和村内 ワークキャンプハウス
		PM	オリエンテーション、村内散策	
		夜	フリー	
8月24日	月	AM	関係者挨拶、オリエンテーション	役場、昭和村内、小野川分校 ワークキャンプハウス
		PM	関係者挨拶	
		夜	歓迎会	
8月25日	火	AM	地域資源調査概要説明	役場、昭和村内 ワークキャンプハウス
		PM	村内散策	
		夜	フリー	
8月26日	水	AM	大芦地区地域資源調査	大芦地区 ワークキャンプハウス
		PM	大芦地区地域資源調査	
		夜	フリー	
8月27日	木	AM	大芦地区地域資源調査	大芦地区 ワークキャンプハウス
		PM	大芦地区地域資源調査	
		夜	フリー	
8月28日	金	AM	大芦地区地域資源調査	大芦地区 ワークキャンプハウス
		PM	大芦地区地域資源調査	
		夜	フリー	
8月29日	土	AM	フリー	大芦地区 ワークキャンプハウス
		PM	週末ワークキャンプ参加	
		夜	フリー	
8月30日	日	AM	フリー	からむし織りの里 ワークキャンプハウス
		PM	織姫さんインタビュー	
		夜	フリー	
8月31日	月	AM	大芦地区地域資源調査	大芦地区、役場 ワークキャンプハウス
		PM	調査関係意見交換	
		夜	フリー	

9月1日	火	AM	大芦地区地域資源調査	大芦地区 ワークキャンプハウス
		PM	大芦地区地域資源調査	
		夜	フリー	
9月2日	水	AM	大芦地区地域資源調査	大芦地区 ワークキャンプハウス
		PM	大芦地区地域資源調査	
		夜	フリー	
9月3日	木	AM	カスミソウ選花研修	カスミソウ選花場、織姫研修場 温泉、ホームステイ
		PM	織姫さんとの交流	
		夜	温泉体験、民泊	
9月4日	金	AM	地域資源調査取りまとめ	役場、昭和村内 ワークキャンプハウス
		PM	体験調査員報告会(役場)	
		夜	村内散策	
9月5日	土	AM	総括	大芦地区、会津若松、小野川分校 ワークキャンプハウス
		PM	会津地方観光	
		夜	送別会	
9月6日	日	AM	帰省	
		PM		
		夜		

活動紹介

大芦地区地域資源調査

今回の事業でメインとなる活動である。昭和村は昭和2年に野尻村と大芦村が合併し現在の昭和村になっているが、今回の調査は大芦地区を対象とし、農地の活用、農業後継者、耕作放棄地、空き家、観光・交流事業に関する村民の意識を聞き取りする形で調査を行った。調査の結果は報告会でも報告したが、特に注目したい結果は以下の通りである。今回の調査は約70件を対象としたが、その内のおよそ87%が農業の後継者がいないという結果が出た。そして、今後の農業の形も自分ができる分だけ農業を続けると答えた数が52件もあり、何らかの対策がない場合休耕地が増えていくという厳しい現状が伺えた。しかし、耕作放棄地の活用や空き家、観光・交流事業に関する事項に関しては好意的な回答が多かったため、今後の事業の推進において村人の協力も期待できると考えた。

からむし織の体験及び織姫さんとの交流

「からむし織」は春から冬までの長い期間にかけて製造が行われるが、からむし織の交流館でコースターを作るなどの一部の作業を体験することができた。また、織姫としてからむし織の研修をしている方々との交流の時間も持った。

ワークキャンプメンバーとの交流

昭和村には、ワークキャンパーとして来村している世界各国（アメリカ、韓国、スロヴァキア、台湾、スペインなど）からの若者がいて、同じ宿舎や共同作業などによって交流することができた。

農作業やカスミソウ選花研修

ワークキャンプの活動にも参加し農作業体験をした。また、地域特産物であるカスミソウの選花作業にも参加し、農業者との交流も持った。

ホームステイ及び地域自然・文化体験

地域住民との交流会やホームステイをすることで地域の文化をたっぷり味わった。また、村内や周辺地域を観光することで昭和村の自然や文化に触れることができた。



左から

- ・からむし織体験
- ・ワークキャンプや地域住民との交流
- ・農作業体験
- ・聞き取り調査での地域住民

参加動機

学校の掲示を通じて今回の「地域づくりインターンシップ」を知った。本事業は、現在私が研究しているテーマや興味を持っているテーマとの関係が深い事業だったので、参加することにした。

現在、私は観光や文化人類学を専門として勉強している。私の研究テーマは「文化を利用して地域をどのようにプロモーションするか」である。今回私が派遣された福島県の昭和村は本州雄一の「からむし織り」の産地で、特有の文化を持っている地域であり、私にとっては意味深いところである。

また、「地域の観光化による地域内の人々の意識」といったテーマにも、現在観光事業にも力を入れている昭和村は最適の場所であった。

以上の二つのテーマをメインとし昭和村を体験したいということと、少しながらも地域づくりに貢献したいということを目的に、今回の事業に取り組んだ。

体験の成果

まず、少子高齢化に伴う地域の過疎化問題や耕作放棄地の増加を食い止めるために、様々な人が昭和村で努力していることが分かった。昭和村のために頑張っている人々は役場の関係者だけではなく、NPOの方々、村の住民、更に村外の方々もこの地域のために奮闘していることが分かった。現在、各自治体は地域活性化や地域づくりのために様々な事業を行っているが、このような事業に一番大事なのは地域を愛し応援する人々の存在ではないかと考えた。

また、昭和村の豊かな自然環境（四季がはっきりしていること、綺麗な空気、美味しい水、素敵な夜空など）、優しい人々、そして、「からむし織り」といった素晴らしい文化まで、二週間という短い間ではあったが味わうことが出来て嬉しく思った。

本事業に参加することで考えて行きたいと思った箇所については、聞き取り調査作業を含め村に住むことによって直接体験することができた。

まず、「文化を利用して地域をどのようにプロモーションするか」という課題に関しては、「からむし織り」といった昭和村の伝統を例として考えてみることができた。「昭和村からむし織りの里」といったキャッチフレーズからも分かるように、昭和村は「からむし織り」を利用し、「織姫制度」や作品のギャラリーでの展示、からむし織りフェアなどで、「からむし織り」だけではなく昭和村を発信していることが分かった。さらに、地域伝統文化や地域産業との間の「からむし織り」の位置づけへの悩みも伺えた。

また、「地域の観光化による地域内の人々の意識」といったテーマに関しては、観光・交流事業についてのアンケート調査により村人の意識を把握することができた。アンケートの結果は、「観光・交流事業は必要である」と応えた村人が約87%、「観光・交流事業推進にあたり協力できる」と応えた村人が約57%であった。この結果は私の予想を上回る数値でもあり、かなりの村人が観光・交流事業に関して好意的であることが分かった。また、観光・交流事業に関してのアイデアや問題点を含め、地域の人々の率直な意見も聞いた。現状として少子高齢化や過疎化問題といった難問が昭和村の課題としてはあるが、地域の人々の観光・交流事業への高い意識が伺えたので、今後の事業推進の可能性がみえた。

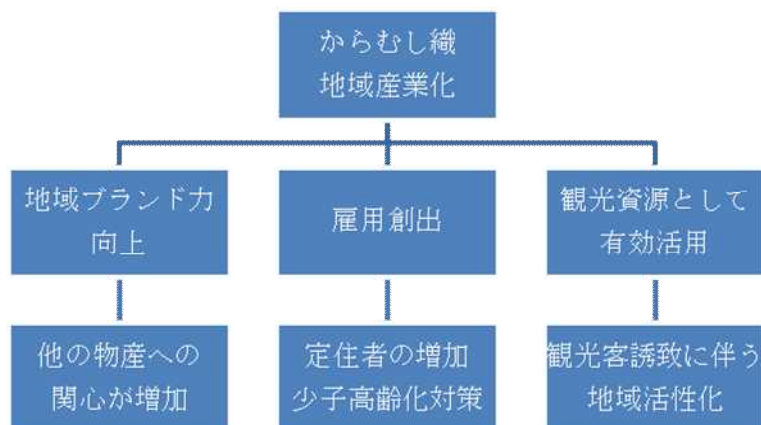
最後に、昭和村の国際的環境について述べる。昭和村を訪問する前には、「昭和村に訪問する外国人って珍しいものだろう」と漠然と思っていた。しかし、実際訪問した昭和村は、国際ワークキャンプメンバーを始め定住者の方々まで多様な国籍の方が集まっている所で、私のイメージを覆す国際的な地域であった。さらに、「からむし織り」の関係で韓国の舒川郡との交流関係を持っていることも分かり、静かな環境の中での活発な交流が行われている地域であることが分かった。

地域への提案

大芦地区地域資源調査で、昭和村の少子高齢化や過疎化問題の原因でもあり、解決策でもあることとして「雇用の場」があることが分かった。確かに、少子高齢化や過疎化問題は地方ではしばしばある問題で、「雇用の場」の問題も昭和村だけに極限している問題ではない。しかし、他の地域では真似できない昭和村独自の資源を利用すれば、このような問題を食い止めることができるのではないかと考え、以下のことを提案する。

昭和村からむし織りのブランド化

～からむし織りのブランド化による付加価値の創出～



私が提案したいのは「昭和村からむし織のブランド化」である。からむし織のブランド化により付加価値を創出することが本提案の目標である。

左の図は提案の展開を図式化したものである。からむし織を地域産業化すれば、地域のブランド力は向上し、産業化により雇用も創出することができる。さらに、昭和村の観光資源としても有効活用もできると考えられる。また、このような効果のみならず、

図式の下に書いてあるような付加価値も創出できると考えられる。それでは、どのようにからむし織をブランド化すればいいのか。以下では、私が思う、からむし織をブランド化する方法を紹介する。

まず、昭和村の「からむし織」は世の中でどのように位置づけをしているのか考えてみた。昭和村のからむし織は人間国宝制度や織姫制度などの国の支援を受けている伝統文化である。そして、本州唯一の生産地であり、高品質で技術者も保有している。しかし、値段が高く供給量にも上限があり、世界的不況の中で一般洋服や繊維に値段で勝負することは難しい。さらに、現在の販売ルーツが少ないのも問題である。しかし、最近の消費者の間には、価値があるものには出費を惜しまない消費傾向や増えている。また、着物マニアはもちろんのことで、オーガニックブームやLOHASの台頭は、からむし織の市場の拡大可能性を見せてくれるのではないかと考えた。

したがって、このようなニーズを確保するための戦略をとることで、からむし織のブランド化、そして、地域への付加価値を創出することができるのではないかと考えた。

その具体的戦略とは、プティックのような形で都心部からむし織の店を開くことである。そのターゲットとは上に述べたような顧客層で、からむし織の特徴上受注型商品の販売を中心とし事業を展開することが望ましいと考えた。また、からむし織に関する専門知識を持っている方の接客も必要であると考えられる。

上に述べたことは、私が思う、からむし織のブランド化の一つの方法である。したがって、ブランド化する方法はこのような方法に限っているわけではない。重要なことは、からむし織のブランド化による地域への付加価値の創出ではないか。また、伝統文化と伝統産業の間のバランスを保つことも大事だと考えた。

静岡県東伊豆町

体験内容（受入レポートから）

観光イベント従事
観光関係者ボランティア会議出席
農業体験（トマト・ワサビの収穫）
漁協イベント補助
着地型観光商品体験

報告者

市町村　　：遠藤　尚男（企画調整課）
体験調査員：椎名　愛理（東京女子大学）
　　　　　　田中　靖子（慶応義塾大学）

地域づくりインターン事業 in 東伊豆町 2009.8.6 ~ 8.19

静岡県 東伊豆町 企画調整課 遠藤尚男



椎名愛理

東京女子大学 文理学部 3年

田中靖子

慶応義塾大学 総合政策学部 3年

地域の概要

東伊豆町は静岡県の伊豆半島東海岸の中央に位置し、天城の山なみを背に伊豆大島を始めとした伊豆七島を望み、豊かな自然に恵まれた人口約 14,500 人のまちです。

総面積 77.83k m²、林野率約 75%、平均気温約 17℃、地形は主として丘陵をなし、海に面していくつかの平地が点在しています。また、海岸沿いの 6 つの温泉郷（大川温泉・北川温泉・熱川温泉・片瀬温泉・白田温泉・稲取温泉）を縫うように鉄道と国道が通っています。

第 3 次産業の就業者割合は約 78%、ニューサマーオレンジなどの柑橘類や、カーネーションなどの花卉類を中心とした農業と、キンメダイや天草を特産とした漁業をベースに、美しい自然環境と豊富な温泉、海の幸、山の幸に恵まれた観光産業が主幹産業となり、年間 100 万人を超える方が宿泊しています。

受け入れ目的

東伊豆町では「みんなが安心して暮らせる町、笑顔があふれる町」をキャッチフレーズに、様々な政策を実施しています。今回の事業ではインターンの 2 人が実際に地域に滞在して、若者の視点から東伊豆町を客観的に見つめることで、気づいたことや感じたことを意見や提案として受け止め、今後のまちづくりに役立てていきたいと考えています。また、昨年このプログラムに参加した OG 2 名も 3 日間合流し、地域住民との交流を深めました。

受け入れ内容

体験内容：観光イベント、農業体験、漁業体験、地域行事など

宿泊形態：ホームステイ、公共宿泊施設

スケジュール

月日（曜日）	内 容
8月6日（木）	東伊豆町到着 プログラムスタート 片瀬温泉 炎艶美
8月7日（金）	雛のつるし飾り制作体験 稲取温泉ちびっこフェスタ
8月8日（土）	稲取漁協 磯の体験学習 天草干し場見学
8月9日（日）	休 日
8月10日（月）	農協 トマト収穫体験 インターンOG中武・庄司合流 徳造丸「ところてんづくり」体験 東海ホテル「湯苑」日帰り温泉体験
8月11日（火）	ガラスアート体験 稲取温泉 ボランティア会議傍聴
8月12日（水）	築城石（畳石）見学 旧稲取灯台見学 中武・庄司離町
8月13日（木）	片瀬 盆踊り大会
8月14日（金）	熱川バナナワニ園見学
8月15日（土）	夏休み風車見学会 クロスカントリーコース
8月16日（日）	かにのひっこくり体験 シラヌタ大杉ハイキング 農協 わさび収穫体験 稲取温泉 星空観察会
8月17日（月）	熱川幼稚園 保育実習 熱川 クリアキャンドル制作体験 細野高原マウンテンバイク 農協青年部と交流会
8月18日（火）	報告会準備
8月19日（水）	体験報告会



活動紹介

観光イベント従事

地元の観光協会主催の花火大会にスタッフとして参加しました。子ども会の役員さん達と一緒に、暑い中、熱い鉄板で焼きそばづくりに挑戦するなど、ハードな体験を。その後はカキ氷を作ったり、打ち上げ花火を鑑賞したり、観光客や地域住民と交流する良い機会になりました。



観光関係者ボランティア会議出席

稲取温泉では、全国公募により就任した観光協会の渡辺事務局長が中心となり、観光地の再生に向けて様々な事業を繰り広げています。今回はボランティアメンバーによる全体会議を傍聴させていただきました。地域を担うメンバーの熱意に触れ、感じることも多かったのではないのでしょうか？

農業体験（トマト・ワサビの収穫）

農家のご協力により、トマトの収穫をさせていただくことに。比較的涼しい陽気でしたが、約4時間、収穫し、磨きながら選別、さらに草むしりと、農業の厳しい仕事を体験。さら減多にできないワサビの収穫も体験しました。このほかにも農協青年部との交流会なども行いました。



漁協イベント補助

漁協が主催する「磯の体験学習会」に参加。このイベントは漁師さんたちが子供たちに素潜りを教え、海の楽しさ、厳しさ、美味しさを学んでもらおうと企画されたもの、おかげで2人はサザエのつぼ焼きやキンメダイのみそ汁などを堪能することに。美味しさを学ぶことができました。

着地型観光商品体験

- ・ 雛のつるし飾りの制作体験
- ・ ガラスアート、クリアキャンドル体験
- ・ 細野高原マウンテンバイク
- ・ かにのひっこくり（カニ漁）
- ・ 星空観察会



受け入れで苦勞した点、良かった点

昨年に引き続き 2 年目の事業ということで、担当としても今年は昨年より余裕がありました。

宿泊についても観光地にとって夏場は最も忙しい時期で、その上、お盆も重なり身内が帰省する家庭も多く、昨年はホームステイ先の確保に苦勞しましたが、今年は 5 軒で受け入れていただきました。



また、地域の受け入れについても、前例があるため、「今年も来てくれたの！」などたいへん気持ちよく迎え入れていただきました。特に、昨年のインターン生 2 人（立教大学 4 年：中武彩香さん、城西国際大学 4 年：庄司奈津子さん）も期間中、2 泊 3 日の行程で応援に駆けつけましたが、地域の方から「おかえり」と声をかけられるなど、とても温かく迎えられて 2 人とも大感激。宿泊場所も昨年泊まったホームステイ先に今年もお世話になってしまいました。

最後にインターン事業全般については、今年も町の産業団体連絡会（商工会・観光協会・漁協・農協・町で組織）の全面的な協力を仰ぐことができ、数多くのイベントや行事からのオファーが。結果、またもや盛り沢山の体験内容になりました。

受け入れの成果・評価

今年も地域に溶け込むには地域の輪に加わり、多くの汗をかくことが必要だと考え、あらゆるイベントや行事に参加し、たくさんの人々と触れ合うことを心掛けました。

また、2 年目ということで、事業の認知度も高く、住民の方には、本当に温かく迎えていただきました。インターンの 2 人にとっては慣れない土地での過密スケジュールで、



苦勞したと思いますが、地域住民と一緒に汗をかくことで、多くの人たちの努力が地域を支えていることをより強く感じることはできたのではないのでしょうか。また、都会の若者が地域の活動の中に加わることは非常に少ないため、受け入れをした団体等もいろいろな意味で刺激になりました。

簡単に事業の成果を出すことはできませんが、期間中での意見交換や報告会で発表のあった提言も含めて、今後のまちづくりに役立てることで、その成果に繋げていきたいと思います。

関係者の皆様、田中さん、椎名さん、本当にありがとうございました。

平成 21 年度 国土交通省 若者の地方体験交流支援事業
「地域づくりインターン」報告レポート

派遣地域→静岡県東伊豆町

派遣期間→8月6日～8月19日（計2週間）

体験調査員→椎名 愛理（東京女子大学 文理学部社会学科経済学専攻3年）

派遣地域の概要

東伊豆町は静岡県東部、伊豆半島東海岸中央部に位置し、稲取、白田、片瀬、奈良本、大川、北川の6地区に分かれており、地勢は平地が少なく全般的に丘陵性をなしている点が特徴的である。年平均気温は17℃で、温暖且つ夏冬の気温差が少なく、人々の生活に適しており、また農作物、植物の生育にも適した環境であるといえる。特産物として金目鯛やカーネーション、山葵、ニューサマーオレンジが有名で、特に金目鯛の品質は最高ランクに位置する。また温泉地としても有名な町であり、第三次産業の従事者が人口の7割を超えるという特色を持つ。

参加動機

私は大学で経済学を専攻しており、地域の経済格差や産業の衰退、人口減少といった問題に対し、どのような対策が必要であるのか興味を持っていた。様々な地域において上記したような問題が起こっていることは既に学んでいたが、実際に現地に赴いて現状把握をすることが今後の学びに必要であると考え、今回のインターン事業に参加した。エントリーしている地域の中で、観光業が主な産業であるという特徴をもつ東伊豆町に興味を持ち、派遣地域に志望した。

体験内容

- 地域内イベント運営の補助
- 農作業体験
- 各観光名所の見学 ほか

スケジュール

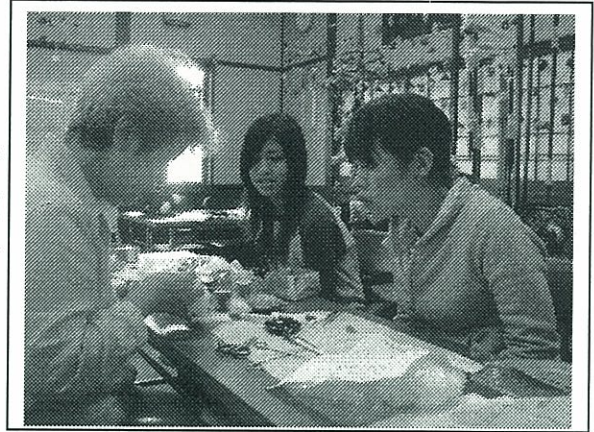
日付	曜日	午前	午後	夜
8月6日	木	町案内	町長表敬訪問 片瀬の花火大会補助	民泊
7日	金	雛のつるし飾り製作体験 みかんワイン工場見学	ちびっこフェスタ補助	民泊
8日	土	磯の体験学習補助	役場職員との懇親会	公共施設 泊
9日	日	休日 白浜海岸の観光	花いっぱい温泉	公共施設 泊
10日	月	トマト農園の補助 温泉体験 ところてん調理体験	役場職員との懇親会	民泊
11日	火	ガラスアート体験	町長と夕食会 地域の元気再生事業中間報告会	民泊
12日	水	稲取灯台の見学・ 石切り場見学		民泊
13日	木	資料整理	盆踊り大会スタッフ	民泊
14日	金	休日	バナナワニ園 資料整理	民泊
15日	土	風車見学	風車見学	民泊
16日	日	蟹のひっこくり体験	わさびの収穫作業 しらぬたの大杉見学 星空見学	民泊
17日	月	クリアキャンドル作成 幼稚園見学	細野高原マウンテンバイク 農協青年部との懇親会	民泊
18日	火	体験報告会の予行練習	資料整理	民泊
19日	水	体験報告会	離町	

体験内容紹介

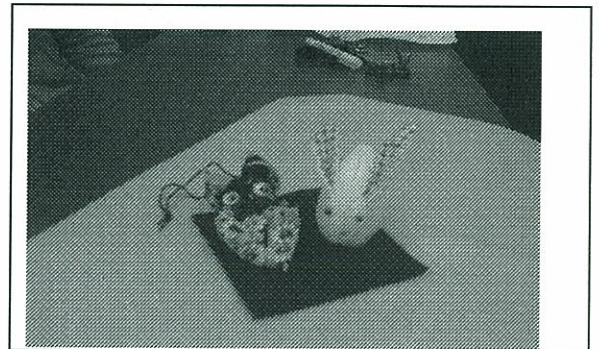
●雛のつるし飾り製作体験

雛のつるし飾りは、東伊豆町伊豆稲取温泉に江戸時代から伝わる風習で、桃の節句に端切れで作ったぬいぐるみを、竹ひごの輪から雛壇の両側につるす飾りである。飾りにはそれぞれ娘の無病息災や良縁を願う意味が込められている。

私は数ある飾りの中から「福ろう、不苦労」の意味をもつフクロウを作った。全てのパーツを一つ一つ手作りするため、細かい作業が多く集中力が必要であった。三時間ほどかけて完成した。作り終えた作品は持ち帰ることができ、体験型観光を楽しみたい観光客にお勧めしたい思い出づくりである。



(天井からぶら下がる飾りは圧巻の美しさ)



(完成したフクロウとうさぎ)

●磯の体験学習

磯の体験学習は、海で貝を取って遊ぶことが少なくなった子供たちに、海に潜って貝を取るという体験を通して海の恵みの大切さや、海の怖さを学んでもらう機会のある場である。当日は小学校高学年と中学生が参加し、皆たくさん貝を取っていた。

海遊びという文化を今の子供たちに伝えていく貴重なイベントであると感じた。参加者を地元の子供たちに限らず、観光で東伊豆を訪れている子供たちも対象にすることで、東伊豆の良さをより実



感じてもらうことができるであろうとも思った。

●ガラスアート体験

ガラスアートを体験した11日は、本来は磯へ出てかのにひっこくりを行う予定だった。しかし早朝の地震の影響で海へ出ることができず、急遽ガラスアートの体験を行うこととなった。

ガラスにガラスを乗せて焼くことで模様を作る体験で、私はストラップ作りに挑戦した。天候に左右される屋外の観光スポットに対し屋内の施設の場合、天候が悪く外へ出られなくなった観光客の集客に向いていることに気がついた。このような施設が駅の近くや旅館の近くにあれば、より使いやすい、楽しみやすい観光スポットになるだろうと感じた。



地域への提言

①「客層に見合ったアピールポイント、施設づくりの重要性」

私は東伊豆に到着し、町を見て回っている中で観光客として訪れている人々の客層から、女性客が集中しやすい観光地であると感じた。女性客が多いと仮定するならば、女性が求めるサービスや商品を集散的に開発、販売していくことが東伊豆町の経済の活性化につながるのであるが、そこにもう少し詳細な計画をもちこむことが重要であると思う。それは例えば町の名産を利用した商品を開発する際のターゲティングで、「女性客」という大まかな括りではなく、何歳代の女性をターゲットとするのか明確に定める、年齢を定めたいえで年齢に合わせた商品の価格を設定していくといった細かいマーケティングの必要性である。また、女性客だけでなく団塊世代の観光客を集客する場合には、お年寄りが利用しやすい施設づくりが必要になる。駅の階段をスロープにすることでお年寄りも旅行の荷物を引いて移動しやすくするなどの配慮が必要になる。

②「急な予定の変更に柔軟に対応できるまちづくり」

今回のインターンは、地震の影響で急に予定を変更せざるを得なくなったが、観光客が天候の影響で予定を変更する必要がある場合、宿泊先である旅館やホテルの近くに屋内施設を設けることで、移動の手段も問題なく、滞在期間を充分満足してもらうことができる。その際の施設で雛のつるし飾りの製作体験や、ところてん作りの体験を行えると、町のアピールにもなって良いと思う。

地域づくりインターン事業 体験調査レポート

インターン概要

派遣地域 : 静岡県東伊豆町

派遣期間 : 8月6日～19日(14日間)

体験調査員 : 慶應義塾大学 総合政策学部 3年 田中靖子

東京女子大学 文理学部社会学科 3年 椎名愛理

(計2名)

体験内容 : 着地型観光の体験、農業体験、漁業体験など

(東伊豆町役場 HP より引用)



受入目的 : 東伊豆町では様々な着地型観光に取り組んでいるにも関わらず、年々観光客が減少している。そこで、インターンの2人に東伊豆に滞在して様々な体験を経験してもらうことによって、若者の視点から東伊豆町や東伊豆町の観光を客観的に見てもらい、気づいたことや感じたことを今後のまちづくりに役立てていきたい。

派遣地域の概要



東伊豆町は静岡県の伊豆半島東海岸の中央に位置し、天城の山並みを背に伊豆大を始めた伊豆七島を望み、豊かな自然に恵まれた人口約14,300人の町です。東伊豆町は大川・北川・熱川・片瀬・白田・稲取の6つの地域によって構成されており、各地区にはそれぞれ豊かな温泉が湧出している。

総面積約78km²、林野率約75%、平均気温16℃、地形は主として丘陵をなし海に面していくつかの平地が点在している。

第3次産業の就業者割合が70%を超えており、ニューサマーオレンジなどの柑橘類や、カーネーションなどの花卉類を中心とした農業と、金目鯛や天草で知られる漁業をベースにして美しい自然環境と豊富な温泉・海の幸・山の幸に恵まれた観光産業が主幹産業となっている。

また、「かにのひっこくり」や「雛のつるし飾り」などの東伊豆町の独自性を活かした着地型観光にも力を入れている。

(写真: 雛のつるし飾り)



体験スケジュール・内容

体験日	体 験 内 容	
	午前	午後
8/6	伊豆大川駅に到着 インターン打ち合わせ	町内案内 町長・副町長訪問 片瀬夏祭り「炎艶美」補助
8/7	雛のつるし飾り制作体験	ちびっこフェスタ補助
8/8	磯の体験学習	役場の方々と交流
8/9	休 日	
8/10	トマト収穫体験 去年のインターン生と合流	心太作り体験 担当課の方々と懇親会
8/11	地震発生 ガラスアート制作体験	町長と会食 旅館組合会議に参加
8/12	旧稲取灯台見学 畳石見学	名物の肉チャーハンを食べ 町長面談
8/13	資料整理	盆踊り大会補助
8/14	資料整理	熱川バナナワニ園見学
8/15	風車見学会補助	風車見学会補助 ←
8/16	かのにのひっこくり体験	わさび収穫体験 星空見学会
8/17	幼稚園見学 クリアキャンドル制作体験	細野高原マウンテンバイク 観光協会会長を訪問 農協青年部と交流
8/18	報告会準備	報告会準備 送別会
8/19	報告会 東伊豆町離島	



活動内容の紹介

インターン期間中の様々な体験の中で、着地型観光体験や東伊豆の独自性が活かされていた体験プログラムを5つ取り上げて紹介する。(日付順)

日付	活動内容
8/7	 <p>< 雛のつるし飾り制作体験 > 雛のつるし飾りとは、稲取温泉で江戸時代から伝わる雛壇の横につるしを飾るという風習であり、つるし飾りの制作を実際に体験してもらう着地型観光体験の一つである。これは女性に限らず、男性にも人気がある。指導員の方が丁寧に指導してくれたため楽しみながら作ることができた。また年1回、雛のつるし飾りまつりも開催されている。</p>
8/10	<p>< ところてん作り体験 > ところてんは東伊豆町の特産物の一つである。それは東伊豆町ではところてんの原料になる天草が多く獲れるためである。この体験は天草からところてんを実際に自分で作ってみようというものであり、完成までに30分程要したが、思っていた以上に大変な作業であった。また完成品は一つ一つ味が異なるため、非常に体験しがいがあった。</p> 
8/16	 <p>< かにのひっこくり体験 > この体験はかにを東伊豆の海で獲るものであり、私が最も印象に残っている着地型観光体験である。その理由は、かにが獲れた時、言葉では言い表せない喜びや感動を味わうことができたからである。その一方で、獲れなかった場合でも悔しさから再度リベンジしようとする気持ちになり、再び観光客が訪れるきっかけになるのである。また、最後にかにのお味噌汁を味わうことができたのも大満足であった。</p> <p>< わさびの収穫体験 > わさびは東伊豆および伊豆半島の特産品の一つである。わさびは水のきれいな所でしか育たないため、わさびの収穫風景を都会では目にすることはできない。この体験を通して、わさびが市場に並ぶまでにどのような過程を経ているかを学ぶことができた。また、生わさびの味覚にも触れることができた。</p> 
8/17	 <p>< 細野高原マウンテンバイク体験 > これも東伊豆の着地型観光体験の一つである。自転車に乗るのが久しぶりであったため若干の不安もあったが、体験には指導員が付き添ったため安全であった。主に下り坂を走るのので、力もそこまでは必要なく気軽に走行中の景色や心地よい風を楽しみながら走ることができた。さらに、途中におやつ休憩があり、それも楽しみの一つであった。</p>

参加に至るまでの経緯

< 体験事業の参加動機 >

私は、途上国の経済状況の改善を考える開発経済学と、地域の経済を考える地域経済学を学んでいる。2つの学問には「その地域の独自性を活かす」という共通の視点がある。しかし、それを大学の講義だけで理解するには限界があるため、実際にある地域に訪れ、地域の独自性を活かすことがどういうことなのかを見てみたいと考え参加した。

< 地域選択の理由 >

地域を選択する際の大きな要因になったのは、「東伊豆町のおもてなしの心」である。いくつかの地域に問い合わせをしたところ、東伊豆町の対応が一番丁寧かつ親切だった。それは東伊豆町全体におもてなしの心が浸透しており、その心が対応にも表れていたのだろう。

地域への2つの提案

	1) 観光客の現状把握の強化	2) 観光のターゲットや目標の明確化・共有
現状	観光客数を把握するために、入湯客数を利用している。しかし、観光客の性別や世代に関するデータはない	団体や人によって若干の差異が見られる =きちんと共有できていない状態である
提言内容	観光客を性別や世代の観点からだけでもより詳細に把握する	観光のターゲットや目標を明確にし、それを町全体で共有する機会を設ける
提言理由	観光客の性別や世代などが分かれば、観光客減少のためにピンポイントな対策が可能である	町でターゲットや目標がバラバラであれば、一丸となって協力してまちづくりを行うことはできない
具体的方法	・既存のQRコードのアンケートを利用 アンケートの項目に性別や世代に関するものを追加する ・ホテルや旅館との協力 実現にはハードルが非常に高いが、把握にはそれらの協力が必須である	・町の会報に掲載 町全体に配る冊子にそれらを掲載することで、観光に携わる人だけでなく町民全員が知ることができる ・話し合いの場の機会を設ける 観光に携わる人々が参加できる話し合いの場を月に1度は設けることが必要であろう

体験に参加した感想・評価

本当に貴重で良い経験をさせて頂きました。書籍を通して何かを学ぶことも大切ですが、それ以上に直接自分の肌で学ぶことの必要性や大切さをしみじみと感じました。それと同時に、人とのコミュニケーションの重要性にも改めて気づくことができました。そして、何よりも家族のように迎入れてくれた東伊豆町の方々に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。



兵庫県加西市

体験内容（受入レポートから）

エコ教室＆薪作り体験
農家体験
北条鉄道「長駅」夕涼み会 運営補助
北条鉄道枕木交換・車両清掃
いこいの村はりま ホテルスタッフ体験
市内散策
宇仁郷まちづくり協議会 活動参加

報告者

市町村 : 高橋 知弘（ふるさと営業課）
体験調査員：笠松由佳里（同志社大学）
片平枝里（中央大学）

平成 21 年度若者の地方体験交流支援事業

(地域づくりインターン事業) 受入レポート

兵庫県加西市	経営戦略室・地域振興部	ふるさと営業課
担 当	ふるさと営業課	高橋 知弘
受 入 期 間	8月19日～9月1日	
体 験 調 査 員	笠松由佳里(同志社大学3年)・片平枝里(中央大学3年)	

加西市の概要

加西市は、兵庫県のほぼ中央に位置し東西12.4 km、南北19.8 kmの広がりを持つ人口約5万人の小規模都市で、姫路市や加古川市に隣接しています。

市北部と南部は200～500mの山が連なり緑豊かな自然環境です。中部は北部山地を源とするいくつかの河川とその間に形成された台地が広がり、播磨内陸地域最大の平坦地を形成しています。またこの一帯にはため池が数多く点在し、県内でも有数の密集地帯となっています。

気候は瀬戸内式に属し、冬季の降水量が少なく年間平均気温が16前後と温暖で暮らしやすいところです。

産業は稲作を中心とした農業が盛んですが、ぶどう(地域ブランド「ゴールデンベリーA」)や大根、トマト、いちごなどの栽培も行われています。また、加西市は戦後三洋電機の創業地として発展した企業城下町でもあり、金属製品製造業を中心とした工業もさかんです。しかし近年、市街中心部にある三洋電機の北条工場が閉鎖し、その跡地に大型ショッピングセンターが建設され、市街地は大きな転換期を迎えています。また、今年度は三洋電機のリチウムイオン電池工場の加西進出が決まり、来年7月の稼働が予定されており、製造業においても新たな展開を迎えようとしています。



体験調査員受入の目的

都市の若者に加西市での生活を体験してもらい、都市部に住むものの意見や若者独自の感性を活かし意見や提案を地域住民に伝えることで、市民が地域を活性化するために何をすべきか考えるきっかけにしたいと考えています。それ加えて、引き続き都市と農村の交流を図っていく上で地域住民が都市住民を受け入れるための体制整備や意識の醸成に役立てたいと考えています。

また、体験調査員には事業終了後も加西市を宣伝する役割を担っていただき、また今後もこの事業を継続することで、市外との交流人口やUJインターン者の増加を図りたいと考えています。

体験スケジュール

月 日	場 所	内 容	宿 泊
8月19日	エコファクトリー	午後 エコ教室、オリエンテーション	市職員宅
20日	原始人会	午前 コミュニティーバス体験乗車 午後 農家体験（大豆畑の草刈）	原始人会 交流館
21日	原始人会	終日 農家体験（木工教室建設資材の選定） （甘酒仕込み）	原始人会 交流館
22日	原始人会 MORE 地球家族	午前 農家レストランスタッフ体験 午後 北条鉄道「長駅」夕涼み会準備	原始人会 交流館
23日	原始人会	終日 農家レストラン「土17日（どいなか）屋 台」スタッフ体験	原始人会 交流館
24日	MORE 地球家族	午前 北条鉄道「長駅」夕涼み会準備、酒蔵見学 午後 市長面談／休養	いこいの村 はりま
25日	北条鉄道 北条旧宿場町	午前 北条鉄道枕木交換、車両清掃 午後 「北条の宿はくらんかい」準備	いこいの村 はりま
26日 27日	いこいの村 はりま	終日 ホテルスタッフ体験 （風呂掃除、配膳、フロント業務など）	いこいの村 はりま
28日	善防園 MORE 地球家族	午前 薪作り体験 午後 長駅夕涼み会	いこいの村 はりま
29日	市内	終日 市内観光施設案内（ボランティアガイド）	八王子神社 山本宮司宅
30日	宇仁郷まちづ くり協議会	午前 朝市手伝い、協議会の取り組み説明 午後 休養	八王子神社 山本宮司宅
31日	市役所	終日 休養日（レポート作成）	オクタウン加西
9月1日	市役所	午前 報告会	オクタウン加西

主な活動紹介

エコ教室&薪作り体験

加西市では、近畿圏内の自治体に先駆けて平成17年よりバイオマスタウン構想を発表し、廃食用油の回収やBDFの精製、バイオマス飼料（エコフィード）、木質バイオマスの活用、バイオガスなど様々な環境活動に取り組んでいます。

今回は、啓蒙活動の一環として開催するエコ教室に調査員も参加してもらい、加西市の環境活動を理解してもらいました。また、木質バイオマスの活用として、里山整備によって出た木材の出荷を手伝ってもらいました。



【エコ教室の様子】



【薪作り体験】

28日から昨年度のインターン調査員の三浦君が合流しました。

原始人会での農家体験

都市農村交流を中心に活動するまちおこし団体「原始人会」にて農家体験をしていただきました。来年度より都市住民を対象に豆腐作り、味噌作り体験の実施を計画しており、その準備段階として大豆の栽培をしています。農薬を極力使わないため雑草が多く、その草刈を手伝ってもらいました。その他、新たな畑の整備や里山に入って木工教室の建築資材の選定、特産のどぶろく・甘酒作り、農家レストランのスタッフ体験などまちおこし活動のお手伝いをしてもらいました。



北条鉄道「長駅」夕涼み会

北条鉄道の各駅にはステーションマスターと呼ばれるボランティア駅長が約30名おり、それぞれの駅長が各駅を利用し様々な催しを実施しています。今回は、「長駅」の駅長による夕涼み会の準備をお手伝いしていただきました。調査員には駅舎の清掃準備をはじめイベントの告知など、当日は紙芝居や歌の披露などもしていただきました。



北条鉄道枕木交換・車両清掃

田舎でも都市部でもなかなか体験することができない今回の目玉体験でした。バラスをスコップで除去し、何十キロもある枕木を入れ替える作業は予想以上に体力を要する作業でしたが、鉄道職員から説明と指導を受け、この作業が安全運行のためにいかに大切な作業か理解できたようです。

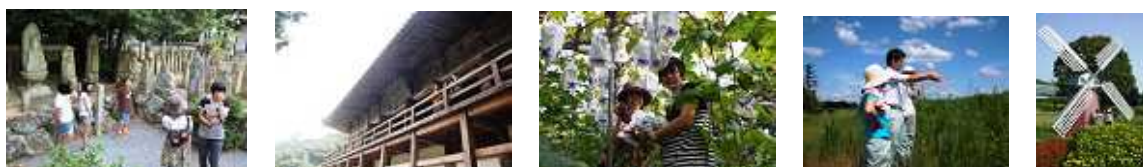


いこいの村はりま ホテルスタッフ体験

風呂掃除、配膳、フロント受付業務などを体験してもらいました。都市部でクオリティーの高いサービスを受けているだけあって、厳しい意見もたくさんいただきました。ホテルスタッフにも良い刺激になったのではないかと思います。

市内散策

加西市観光ボランティアガイド、小学生ボランティアガイド及び市職員の案内で市内の観光施設（北条の宿かいわい、五百羅漢、法華山一乗寺、ぶどう園、奥山寺、フラワーセンターなど）を散策し、現状を把握してもらいました。



【五百羅漢】

【法華山一乗寺】

【ぶどう狩り】

【鶉野飛行場】

【フラワーセンター】

宇仁郷まちづくり協議会

都市農村交流、UIJターンの促進を中心に活動をしているまちづくり団体での活動に参加してもらいました。芦屋市の協議会と共同でぶどう狩りツアーを実施予定でしたが、選挙等の関係で予定がずれてしまい朝市のお手伝いのみとなりました。

宇仁郷の代表者からまちづくりの取り組みを話していただく時間が取れ、活動内容、趣旨目的などを理解してもらいました。



【朝市の様子】

昨年との比較

昨年度は、非常に体力を要する作業が多く、加西市の観光地に関する基本的な知識を得る機会が少なく、レポート作成の時間も十分取れなかったことを反省し、今年度はスケジュールに幅を持たせ、加西市全体を見学する機会を設け、体験の合間で体験調査員に考える余裕を作りました。

また、まちづくり活動に重点をおいて体験してもらい、団体の代表や主要な方と話す機会を持つことで、まちづくりの現状や課題についてより深く理解してもらえたかと思えます。

苦労した点

選挙や新型インフルエンザの関係で予定していたぶどう狩りイベントが1週間延期になり、調査員の2人は楽しみにしていたのですが、代替のスケジュールとなってしまいました。スケジュール調整の結果、丸1日の休養日が取れず調査員に大変な思いをさせてしまいました。

宿泊に関しては、調査員が女性ということもあり、受け入れ場所探しに苦労しました。市の担当にも女性を配置し、ケアするとともに、受け入れ側にもお客様扱いにならないよう留意しました。

成果と課題

まちづくり活動を中心に体験していただく予定でしたが、加西全体のことをよく理解してもらいたいという思いから様々なところに出向くことになりました。体験期間中は、多くの人に出会い、多くのことを聞き、整理しきれないくらいの情報量だったかもしれません。また、体力的にも非常に厳しかったかもしれませんが、報告会においても調査員の2人は、課題をよく整理し、それぞれの団体が取り組む事業において貴重な意見をいただきました。

片平さんからは、日常的に交流できる拠点の整備、イベントを通じてのまちづくり意識の醸成、学校教育を活用しての地域力の向上、人の繋がりを作ることの必要性など、笠松さんからは、地域住民のおもてなし力の向上、点で存在する観光地を線で結ぶ「ついでに観光」の推進など非常に的を射た意見や提言をいただきました。それぞれの団体からまちづくりへの思いや現状、これからの課題などを抽出することができたのではないかと思います。報告会に参加した受け入れ団体や市の職員からも市が抱える課題を改めて認識することができたと高い評価をいただきました。

学生からの率直な感想、意見、提言であったこともあり、協力を頂いた各団体も今回の提言を受け、改善事項や新規事業への展開を考える良い機会作りとなり意識改革になったと思います。今後とも地域住民とともに加西市のまちづくり活動に活かしていけるよう努力してまいります。

平成 21 年度国土交通省地域づくりインターン報告書

派遣地域：兵庫県加西市

派遣期間：8月19日～9月2日

体験調査員：笠松由佳里

(同志社大学 法学部政治学科 三回生)



加 西 市 概 要

兵庫県南部、播州平野の中央に加西市は位置する。市域面積は 150.44 km² であり、その多くは田畑、住宅、山林そして原野と続く。平成 20 年度のデータによると、加西市の人口は、49,549 人である。

中国自動車道が市の東西を横断し、大阪や神戸から車で約 1 時間、また京都からは約 1 時間 30 分でアクセスすることが出来る。また、神姫バスが市内と周辺市町を結び、北条鉄道は JR と接続しており、市民の足となっている。

自然環境は、「暮らしやすい。」と市民が自慢するほど良い。冬は降水量が少なく、平均気温も 16 前後と温暖である。また、山林が広がり緑豊かである。

右図の市章のマークは北条町で多く見られる。これは、加西の「力」を二つ組み合わせて円形に図案化し、「西」をかたどった市章で「和と団結」および明るく豊かに躍進する「平和都市」加西を象徴している。加西市のキャラクターマークは根日女であり、播磨国風土記による根日女の恋伝統をモチーフに、「花のまち、夢のまち、はずむ未来」を表現している。根日女ちゃん人形、温泉施設「根日女の湯」、玉丘古墳、そして根日女のワインなど、様々なところで根日女は活躍し、市民に愛されている。市花はサルビアというシソ科の真赤な花が印象的な一年草で葉の緑が調和された草花であり、花と緑につつまれた田園文化都市加西を象徴している。フラワーセンターでたくさんのサルビアを見ることが出来る。



加西市が誇る国指定文化財は、法華山一乗寺、酒見寺多宝塔、玉丘古墳群、東光寺の田遊び(鬼会)である。また、市の祭りや伝統行事としては、加西サイサイまつり、北条節句祭り、日吉神社大祭、獅子舞、五百羅漢千灯会が挙げられる。

参 加 動 機

大学で地域の方々を招いて行うイベントを主催し、その際に多くの方が協力してくれたことや、参加者がイベントを楽しんでいたことにとってもやりがいを感じ、この経験を通して地域の人々と交流し地域全体を盛り上げていく地域づくりに大変興味を持つようになりました。そこでこの夏休みを利用し地域づくりインターンに参加しようと考えました。

加西市を選んだ理由は、「原始人会」という団体の名前のインパクトが大きかったこと、また担当の方と電話でお話させて頂いた時にとっても熱い思いが伝わってきたことが挙げられます。そして私は京都に住んでいるということもあり、比較的近い地域である兵庫の市を選ぶことでいつでも足が運べるのではと思ったからです。

体	験	内	容
---	---	---	---

- ・ 原始人会での活動（雑草刈り、原始人会の夏のイベント「土一七日屋台」お手伝い）
- ・ 北条鉄道枕木交換
- ・ 薪作り体験
- ・ 北条鉄道長駅でのイベント「夕涼み会」お手伝い
- ・ 宇仁の朝市お手伝い



日付	体験内容		宿泊場所
	午前	午後	
8月19日	加西市到着	エコ教室・オリエンテーション・歓迎会	玉置室長宅
8月20日	コミュニティーバス乗車 大豆畑の雑草刈り	大豆畑の雑草刈 原始人会説明会	原始人会交流館
8月21日	田んぼの稗ひき 木工教室建設資材の選定	甘酒仕込み 猪肉スライス・BBQ	原始人会交流館
8月22日	土一七日屋台手伝い	夕涼み会ミーティング・ピラ配り	原始人会交流館
8月23日	土一七日屋台手伝い	土一七日屋台手伝い	原始人会交流館
8月24日	夕涼み会ミーティング・駅清掃 ふく蔵見学	市長面談 玉丘古墳散策	いこいの村はりま 職員寮
8月25日	北条鉄道枕木交換・車内清掃 自然公園散策	鶉野飛行場 旧市街散策	いこいの村はりま 職員寮
8月26日	ホテルスタッフ体験	ホテルスタッフ体験	いこいの村はりま 職員寮
8月27日	ホテルスタッフ体験	ホテルスタッフ体験 ランドマークタワー散策	いこいの村はりま 職員寮
8月28日	薪作り体験	丸山公園散策 長駅夕涼み会手伝い	いこいの村はりま 職員寮
8月29日	市内散策 (五百羅漢・法華山一条寺)	市内散策 (フラワーセンターぶどう狩り)	山本宮司氏宅
8月30日	宇仁の朝市手伝い	休養	山本宮司氏宅
8月31日	レポート作成	レポート作成	オークタウン加西
9月1日	報告会	打ち上げ	オークタウン加西
9月2日	解散		

活	動	紹	介
---	---	---	---

原始人会での活動（農業体験・土一七日屋台）

インターン二日目からの四日間、原始人会とゆう加西市万願寺地区の活性化を目的に地元の有志で結成された団体にお世話になった。そこではまず農業体験をした。私たちは作業服と麦わら帽子を身につけ、大豆畑の雑草を刈る作業を行った。だんだんと鎌の扱いに慣れ、夢中で無言でもくもくと皆で作業に取り掛かった。作業後に雑草のない大豆畑を見渡すととても清々しかった。

原始人会が毎月土曜日、日曜日、一七日と行っているイベント「土一七日屋台」のお手伝いをした。地元と都市部の交流と年代を越えた人の交流を通じ「万願寺」を広く世間にPRするという原始人会の目的を担う重要なイベントである。土日とお手伝いをしたが、両日ともお客さんが多く盛況していた。そして、笑顔で田舎の雰囲気を楽しんでいる様子が印象的であった。



北条鉄道枕木交換

旧国鉄であり、現在は加西市や兵庫県などが出資する第三セクター方式の鉄道会社、北条鉄道にて枕木交換を行った。朝早くからお昼までかけて、五人で一本しか変えることが出来なかった。枕木交換後は、駅員さんとお話をしながら車内清掃を行い、ローカル線ならではのお客さん目線で温かい雰囲気を持つ北条鉄道の魅力を感じた。

薪作り体験

すでに割られた薪を6kgずつにワイヤーでくくっていくという薪作りの作業をした。地味ではあるが、パズルのようで面白い作業であり、良い雰囲気で行うことが出来た。薪の需要も高いようで、とても良いエコの取り組みであることが理解出来た。



長駅の夕涼み会

長駅にて近所の子どもたちを楽しむ夕涼み会というイベントのお手伝いをした。私たちは紙芝居やゲームを企画し、歌まで歌わせて頂きイベントを盛り上げた。可愛らしい小さなお客さんが想像以上に集まり、子どもの無邪気な笑顔が地域に元気を与えている光景を目の前に、地域づくりに子どもは欠かせない存在であると感じた。



宇仁の朝市手伝い

朝早くから地元の野菜を売る朝市のお手伝いをした。どの野菜も採れたてで安く買えることもあり、朝市の開始時間よりも前に多くのお客さんが訪れていた。宇仁のまちづくりの方々の努力が手作りのレジ一つとっても感じられ、またその努力から広がる地域の人々の交流の輪を感じ、朝からとても爽やかな気分になった。

体 験 の 成 果

行く前まで、加西市は私の市よりも少し田舎というイメージであったが、実際行ってみると、そのイメージよりも田舎だった。確かに駅前辺りは私の市とさほど変わらない。しかし、そこから車で10分20分走ると、もう山や林の中。その土地柄が面白いと感じた。

たくさん参加させて頂いた活動の中でも特に原始人会の活動と長駅の夕涼み会が印象深

く、こんな山奥でこんなにユニークな考えを持ったおっちゃん達が地域おこしに取り組んでいるのだ、またこんな無人駅でもたくさん子どもたちを集めてこんなに楽しいイベントが出来るのだということにとっても感動した。また、これらを主催されていた方々はいつも目をキラキラさせ地域を元気にしたいという熱い思いを持ち、とても素敵で、こういう人々の小さな活動から地域は少しずつ元気になっているのだということを感じた。

地 域 へ の 提 案

今回様々な活動を通して感じたことは、地域がとても元気なことである。しかし、保守的な市民も多く、地域づくりにおいても意識の差が見られ、それに加えて市を十分に観光していない市民も多く見られた。そこで、加西をより元気にするための提案を以下にまとめる。

地域づくりの横のつながりをつくる

加西市の地域活性化において、地区ごとの地域づくりは活発であるが、地区同士での接点がないのが問題点なのではないだろうか。加西市は広大であるので、地区ごとに分かれてイベントを行うのは当然である。しかし、地域づくりの団体同士が交流出来る場を持ち、そのアイデアやイベントの情報を交換し合うという場が一つあるだけで、全ての地区の地域づくりが活気付き、また「加西市」全体としてより地域づくりが盛り上がるのではないだろうか。

おもてなし力を上げる

たくさんの観光スポットが加西にはある。しかし、一つのスポットのだけを目当てに加西市に訪れる観光客がほとんどである。また、インターン中に法華山で道に迷っている方と出会ったことや、参加させて頂いたイベントでは内輪的な雰囲気を持つものも少なくなかった。これでは観光に来た人々も足を運ばなくなってしまうのではないだろうか。そこで、加西市は「おもてなし力」を上げることが必要とされているのではないかと感じた。これは地域づくりの団体の人々を始めとする市民の意識から改善出来るものであろう。また、鉄道においては挨拶を徹底することや、市のボランティアガイドにより力を入れることもしていくべきである。それに加えて一つのスポットに訪れた人に加西市の他の良いところもアピールしてみてもどうだろうか。例えば、駅の近くに駅周辺の観光スポットやグルメを取り上げたパンフレットを置き、北条鉄道を目当てに来た人々に加西のグルメをアピールすることや、また北条鉄道と旧市街を結びつけ若者に人気な町家やレトロ鉄道のイメージを打ち出すことが出来るのではないだろうか。そういった小さな意識の積み重ねが加西市の地域活性化において必要であらう。

お わ り に

日本国内でこんなにも濃くアドベンチャーな二週間を送れるとは思ってもみませんでした。お世話になったたくさんの方々との出会いを通して、本当に充実した夏休みを過ごすことが出来ました。ありがとうございました。ガラス張りの部屋に蚊帳を張って寝泊まりするの



も、猪や鹿が出てこないかワクワクしたり、まむしを食べたりしたことも、たくさんの子どもの笑顔と出会ったことも、たくさんのおいしいご飯そして毎日のようにぶどうを頂けたことも、全て全てに感謝しています。そして、これからも加西市に足を運ぼうと思います。

兵庫県 加西市

加西市の伝説の人

派遣期間： 8月19日～9月2日
体験調査員： 中央大学法学部法律学科3年 片平 枝里



根日女

【 参加動機 】

私が地域づくりインターンに参加したのは、地域ネットワークの重要性を感じていたからだ。昨年、貧困と人身取引について学ぶために訪れたタイの農村で、地域ネットワークを確立することで如何に人身取引を防ぐことができ、貧困の対策をとることができるか学んだ。現在、東京に住んでいる私自身、隣人の職業や名前、さらには顔すら知らない状況にある。これは私に限ったことでなく、都市圏に住んでいる人々の多数が当てはまることであり、そんな状況の中、凶悪な犯罪が増えている日本において必要なのは地域の繋がりではないかと考え、地域の活性化を目的とする地域づくりインターンに参加した。

また、活動内容や関係する団体の名前のインパクトが加西市を選んだ主な理由である。街づくり団体である原始人会のネームインパクトや、ローカル鉄道の枕木交換という日常生活では絶対にできない体験内容に惹かれて加西市を選択した。

【 加西市の概要 】



人口： 48,814 (男性 23,735 女性 25,078)

面積： 150.19 平方キロメートル

気候： 瀬戸内海式気候

産業： 稲作を中心とした農業
(ぶどう、大根、トマト、いちご)

金属製品製造業を中心とした工業

加西市は兵庫県のほぼ中央に位置する小規模都市で、姫路市や加古川市に隣接している。緑豊かな環境で、ショッピングモールや飲食店が多数存在する便利な市街地から、車で10分ほど移動しただけで一面に田んぼと山しかない場所に行くことができる。市独自の川を持っていないため、ため池が多く点在する。また伝説となっている根日女の眠る玉丘古墳をはじめ古墳も多々存在し、ため池と同じくらいの確立で遭遇できる。

日付・宿泊先	体験内容
8月19日(水) 玉置室長宅	午後 エコ教室 夜 歓迎会
20日(木) 原始人会交流館	午前 コミュニティバス試乗、農業体験 午後 農業体験
21日(金) 原始人会交流館	午前 農業体験 午後 農家レストラン準備(猪肉スライス) 夜 バーベキュー
22日(土) 原始人会交流館	午前 土十七日屋台(農家レストラン)手伝い 午後 北条鉄道・長駅掃除、夕涼み会準備
23日(日) 原始人会交流館	午前 午後 土十七日屋台手伝い
24日(月) いこいの村播磨	午前 長駅草刈、福蔵(酒蔵)訪問 午後 市長面談
25日(火) いこいの村播磨	午前 枕木交換、鉄道見学 午後 市内散策
26日(水) いこいの村播磨	午前 午後 ホテルスタッフ体験(いこいの村播)
27日(木) いこいの村播磨	午前 午後 ホテルスタッフ体験(いこいの村播)
28日(金) いこいの村播磨	午前 薪作り、市内散策 午後 夕涼み会
29日(土) 八王子神社、山本宮司宅	午前 市内散策 午後 ぶどう狩り、朝市準備
30日(日) 八王子神社、山本宮司宅	午前 巫女さん体験、朝市手伝い 午後 市内散策
31日(月) オークタウン加西	午前 午後 報告会準備
9月1日(火) オークタウン加西	午前 報告会 午後 自由時間

【 体験内容 】

- ・ 農業体験
- ・ ホテルスタッフ体験
- ・ 枕木交換、鉄道見学
- ・ 夕涼み会参加
- ・ 朝市参加
- ・ 市内散策



【 活動紹介 】

市内散策では地元の子どもたちに五百羅漢を案内してもらい、ボランティアガイドさんに旧市街を説明していただいた。子どもたちの案内はとて和み、ボランティアガイドさんの説明は面白く、楽しく加西市の歴史を巡ることができた。



最初にお世話になった原始人会では農業体験や、自作の野菜や猪肉を使った農家レストランのお手伝いをした。農業体験での慣れない草刈や農業を支える家族の方々を通して、農業を続けることの大変さを感じた。



農家レストランでは猪肉と珍食材を使い、遠くから来たお客さんをもてなすことができ楽しかった。



いこいの村はりまではホテルスタッフ体験をした。地域の方々が忘年会などで利用するというような、地域に根付いたホテルであった。その反面外部からの客が少なく、接客が甘いという問題点も目に付き、田舎の良い点、悪い、両方を感じることができた。



北条鉄道では枕木交換という貴重な体験をした。予想以上の重労働で、5人で1時間かけて1本しか交換できず、自分のひ弱さを痛感した。



また長駅の夕涼み会にて地域の人と交流することができた。子どもたちが元気で素直でとてもかわいかった。紙芝居や歌などの出し物も盛り上がり、楽しいひとときがすごせた。





朝市に参加して、地域の人々と交流する機会もあった。朝市の会場が温泉であったこともあり、お客さんが予想以上に来た。地元の新鮮な野菜や果物を安く手に入れることができるので、心底うらやましいと思った。



またエコ教室でBDF事業について学び、まき作りを体験することで、加西市が行っている環境事業につ

加西市の特産品であるぶどうを狩りにいき、お世話になった八王子神社では憧れの巫女体験をさせて頂き、肉体労働以外でもかなり楽しませてもらった。



【 地域への提案 】

加西市に2週間滞在して、加西市には原始人会の行う農家レストランや五百羅漢、国宝である法華山一乗寺などたくさんの面白い見所があると感じた。しかし見所はたくさんあるが、それぞれの場所が離れていて、さらに車社会の加西市ではバスなどの公共交通手段による移動が不便であり、観光するのがかなり面倒くさい。これらの問題点を改善するために私はまず **観光地や地域づくり団体の結束を高める**ことを提案する。観光シーズンに限り市内観光用バスなどを共同で運営するなど、各団体がもっと協力するべきだと思う。個々の団体の頑張りだけでは限界がある。

また2週間かかわりつづけた方々は地域づくりに積極的で面白い方ばかりだったが、その反面、保守的な考えを持ち地域づくりに反対する人々や、地域づくりに興味を持たず、加西市で育ったが五百羅漢などの観光地に行ったことすらない人々もいた。地域づくりというのは地域に住んでいる人全員で行ってこそ効果があがるものである。住人がその地域について興味を持ち、よく知るようになるために、**小学校や中学校の教育で地域学習を増やす**べきだと思う。遠足で観光地に行ったり、地域清掃で北条鉄道の草刈を児童がするようにしたら、もっと地元へ愛着をもてるはずだ。

【 体験の成果・感想 】

約2週間の加西市でのインターンで最も感じたものは人と人との繋がりであった。参加動機が地域の繋がりを感じたかったので、地域を盛り上げるために頑張っている団体さんや、地域の人々と触れ合えたのは本当に良かった。そんな加西市でも異なる団体同士となると繋がりが希薄であり、その繋がりを深めることで解決できる問題は多い。

人と人との繋がりが大切であると実感できたこのインターンで出会えた加西市の方々や、相方の笠松さんとは、これっきりでなくこれからも長くつきあっていきたい。

島根県邑南町

体験内容（受入レポートから）

祭りへの参加
産直市での販売体験
農業体験（草刈り・草寄せ・稲刈り）
小学校 教育旅行手伝い
邑南町活性プロジェクト会議への参加

報告者

市町村 : 小笠原美穂子（定住企画課商工観光室）
体験調査員：北尾 ゆり子（同志社大学）
 白枝 悠太（大阪大学大学院）
 杉本 陽一（立教大学）
 山岸 夕花（大阪大学大学院）

平成 21 年度 国土交通省 若者の地方体験交流事業 地域づくりインターン 受入レポート

おおなんちょう
島根県邑智郡邑南町

邑南町役場定住企画課商工観光室
担当者 小笠原美穂子

受入地域名及び地域の概要



邑南町は中国山地の中山間地域で広島県との県境に位置し、平成 16 年 10 月 1 日に羽須美村、石見町、瑞穂町の 3 町村の合併により誕生しました。農業を基盤産業とする町で、総面積 419.2 km²、人口 12,383 人、高齢化率 39.8% と高齢者の多い町です。

本町は中国地方最大の江の川の源流に位置し、豊富な森林やゲンジボタルやオオサンショウウオなどの希少種が生息する清流等、豊かな自然環境に恵まれています。それを守る環境と豊富な人材がいます。交通網も整備されており、町域の西南部に浜田自動車道瑞穂インターを有し、広島市内から 1 時間圏内に位置することから、山陰・山陽の結節点としての役割を担っています。

受入組織

担当課 邑南町役場 定住企画課
受入組織 邑南町田舎ツーリズム推進研究会

受入者氏名

北尾ゆり子

同志社大学 3 回生

研究テーマ「ジャーナリズム・日本のメディアの報道姿勢」

受入期間 8 月 1 1 日(火) ~ 8 月 2 7 日(木) 1 7 日間

山岸夕花

大阪大学大学院 1 回生

研究テーマ「地域振興における知的財産の役割」

受入期間 8 月 1 1 日(火) ~ 9 月 1 日(火) 2 2 日間

杉本陽一

立教大学 3 回生

研究テーマ「中央アンデス先住民の農耕文化・小鹿田畑焼き 焼き物から見るワザの伝承と家の継承」

受入期間 8 月 1 1 日(火) ~ 9 月 1 日(火) 2 2 日間

白枝悠太

大阪大学大学院 1 回生

研究テーマ「発電に伴う環境・健康影響の外部性と地域特性を考慮した地域エネルギーシステム最適化の基礎的分析」

受入期間 8 月 1 1 日(火) ~ 9 月 1 日(火) 2 2 日間

受入の目的・ねらい

体験調査員には田舎の生活体験を通じ、地方の良さを見直し、邑南町の素晴らしさを PR してもらう。受入地域では、地域交流を図りながら、体験調査員からの提言により、地域活性化の足がかりにする。また、UIターンにつなげる。

邑南町田舎ツーリズム推進研究会においては、教育ツーリズムのモニターとして位置づけ、農家民泊、農家民宿を中心とした受入をする。

学生でつくる邑南町活性プロジェクトのメンバーとしてプロジェクトチームのあり方や検討、企画を考える。

受入内容

邑南町田舎ツーリズム推進研究会の会員を中心に、普段どおりの生活の中で、4人の調査員の研究テーマを織り込んだプログラムに基づき
 小学生による教育体験旅行の手伝い
 30年以上続いている地域の伝統のまつり「やまんばまつり」への参加・手伝い
 邑南町田舎ツーリズム推進研究会を拠点とした田舎体験、農作業と地域交流

スケジュール

日付	午前	午後	夜	宿泊場所
8月11日(火)		任命式	歓迎会	農家民宿 日高
8月12日(水)	香木の森 シックスブデューズ	オリエンテーション 断魚溪・郷土館・こて絵		農家民宿 日高
8月13日(木)	産直市みずほ販売	産直市みずほ販売		農家民宿 日高
8月14日(金)	やまんばまつり手伝い	やまんばまつり神事	やまんばまつり参加	農家民宿 小田
8月15日(土)	産直市みずほ販売	産直市みずほ販売		農家民宿 小田
8月16日(日)	産直市みずほ販売	産直市みずほ販売		農家民宿 小田
8月17日(月)	移動及び自由行動	垣崎醤油見学		ことぶき のぶしの宿 今ちゃんの家 うえざこ
8月18日(火)	羽須美地域農業体験	羽須美地域農業体験		ことぶき のぶしの宿 今ちゃんの家 うえざこ
8月19日(水)	羽須美地域農業体験	羽須美地域農業体験		ことぶき のぶしの宿 今ちゃんの家 うえざこ
8月20日(木)	移動及びふり返し会議	知夫小学校 受入準備		ツーリズムの宿 石橋
8月21日(金)	知夫小学校 教育旅行手伝い	知夫小学校 教育旅行手伝い		ツーリズムの宿 石橋
8月22日(土)	知夫小学校 教育旅行手伝い	知夫小学校 教育旅行手伝い		ツーリズムの宿 石橋
8月23日(日)	自由行動	自由行動		奥原
8月24日(月)	北尾ゆり子 報告会	学生でつくる邑南町活性 プロジェクト会議		奥原
8月25日(火)	ホームページ企画会議 エネルギー	ホームページ企画会議 交流会準備	役場若手職員との交流会	久喜林間学舎
8月26日(水)	移動	草刈り・草寄せ		農家民宿 にいや
8月27日(木)	稲刈り	稲刈り		農家民宿 にいや
8月28日(金)	こせがれネットワーク	こせがれネットワーク		奥原
8月29日(土)	自由行動	自由行動		奥原
8月30日(日)	研修報告会準備	研修報告会準備		農家民宿 土居ランド
8月31日(月)	研修報告会準備	杉本・白枝・山岸 報告会	送別会	農家民宿 土居ランド
9月1日(火)				

活動内容



体験調査員任命書の伝達と邑南町長との懇話



邑南の自然を満喫。県立自然公園断魚溪散策



地元の伝統のまつり「やまんばんまつり」への参加



産直市みずほでの販売体験



教育ツーリズムでの稲刈り体験の手伝い



石見神楽体験で神楽の衣装を着て記念撮影



学生でつくる邑南町活性プロジェクト会議



プロジェクト会議に集まった学生たち



邑南町で体験したことの体験調査報告会



邑南町長から「邑南町PR大使委嘱状」の授与

昨年との比較

プログラムは、昨年の受入で評判の良かったものに今年の行事等をからめたものとなりました。昨年は男性1名、女性3名であったが、今年は男性2名、女性2名としたので、全体のバランスはよくなりました。
受入側も2年目ということもあり、スムーズに受け入れることができました。

反省点・気を遣った点

受入期間中は農林水産省の子ども農山漁村交流プロジェクトの受入と重なり、結果的には小学生の受入のスタッフとしてプログラムに取り込みましたが、どちらにも気を遣わなくてはならず、大変でした。2年目となると作業内容もう少しワーキングホリデーに近いものにしてもいいかなと思いました。

受入体制の成果・評価等

昨年に引き続き4名のインター生を受入しました。今年は男性2名、女性2名という組み合わせでした。年齢も21歳～25歳と幅広かったせいか、兄妹のような関わり合いで仲良くプログラムをこなし、毎日の体験の様子をブログリレーしてくれました。
大学生たちは、受入先である「邑南町田舎ツーリズム推進研究会」の会員の皆さんからも孫のようによくしてもらい、受入側もすっかり大学生の受入に慣れてきました。
また、「やまんばんまつり」では昨年に引き続き、今年も実行委員会の役員さんから信頼を得て、スタッフとして期待され、祭りを盛り上げてくれました。
30名の地元住民を前に行った体験調査報告会では、様々な提言をしてくれました。
その提言とは、次のとおりです。

- 大学サークル合宿の招致・自転車の貸し出し
- 観光案内の充実・地域産品を利用した商品開発
- ボランティアと地域通貨・長期ワーキングホリデー制度の充実
- 新エネルギーを利用した電動自転車のレンタサイクル・学生を媒体とした都市農村交流 など

学生からの提案の中には、すぐにでも実行に移せそうなものもありました。3週間での成果発表とは思えないくらい内容の充実した発表でした。

今年も報告会終了後、邑南町長から「邑南町PR大使」の委嘱を受けました。
また、昨年立ち上がった「学生でつくる邑南町活性プロジェクト」のメンバーに全員が登録し、8月25日、全国にいるプロジェクトチームのメンバーと今後の活動について熱心に協議しました。
今年のインターン生の受入期間中に昨年のインターン生が邑南町へ短期定住していたので、大学生たちを全面的にサポートしてくれました。
今後、このプロジェクトチームを中心として、邑南町へ若い力が注がれるようになり、元気な地域へと展開していくと思います。

平成 21 年度 地域づくりインターン事業体験調査レポート

派遣地域：島根県邑智郡邑南町

派遣期間：平成 21 年 8 月 11 日（火）～8 月 28 日（金）＜18 日間＞

体験調査員：同志社大学社会学部メディア学科 3 年 北尾ゆり子

1、派遣地域概要

邑南町は、平成 16 年 10 月 1 日に羽須美村、瑞穂町、石見町の 3 町村が合併して新たに誕生した。

島根県中南部の東経 132 度、北緯 34 度に位置し、中国山地の中山間地域で盆地の多い地形である。広島県との県境にあり、広島市内からは一時間圏内で、山陰・山陽の結節点である。総面積は 419.2 平方キロメートル。人口は 12,393 人で、高齢化率が人口の 39.8%である。農業を基幹産業としている。

日本海性気候に属し、かつ山地性の気候で夏に雨が強く、昼夜の温度差が大きい山間地特有の気候といえる。住民の目線にたった行政運営を行い、「夢響きあう元気の郷づくり」実現に向け町づくりを続けている。米や野菜がおいしく、特産品として石見和牛、醤油、地酒、ハーブなどが有名である。

2、体験内容

- ・やまんばまつり手伝い
- ・産業、観光資源等
- ・産直市みずほでの販売実習
- ・羽須美での農家民泊
- ・知夫小学校教育旅行受け入れ
- ・邑南町活性プロジェクト会議
- ・地方紙に関して（大学研究テーマ関連）

3、参加動機

私はこれまで地方の抱える過疎や格差の問題に関し耳にしても、暮らしを知らないので実感が湧かなかった。自然が好きで田舎の生活に興味があったので、現地の生活を体験し、人々との交流を通して直接学び地方のことを理解したいと思った。

またミニコミ誌学生ライターの経験から、机上では得ることのできない、実体験から得られる気づきを大切にしたいと考えた。邑南町を選んだのは、島根県を訪れたことがなく、どんなところかあまり知らなかったこと、「やまんばまつり」の写真をみて興味をひかれたからである。

4、スケジュール

日付	体験内容	滞在先
8月11日	任命式、歓迎会	農家民宿日高
12日	香木の森、シックスプロデュース、断魚溪、こて絵、バレエ見学	〃
13日	やまんばまつり準備、産直市販売、そば打ち体験	〃
14日	やまんばまつり、すっぽん解体見学	農家民宿小田
15日	産直市販売	〃
16日	産直市販売	〃
17日	知夫小受け入れ会議、垣崎醤油見学	農家民泊今ちゃんの家
18日	羽須美地域農業体験	〃
19日	羽須美地域農業体験、あゆのつかみどり手伝い	〃
20日	知夫小受け入れ準備	ツーリズムの宿石橋
21日	知夫小受け入れ（稲刈り・川遊び等）地方紙研究、子供神楽	〃
22日	千丈溪ウォーキング、報告会準備	〃
23日	知夫小見送り、報告会準備	小笠原家

24日	報告会、学生でつくる邑南町活性プロジェクト会議	〃
25日	活性プロジェクト会議、みずほスタイルのお話 役場若手職員との交流会	久喜林間学舎
26日	久喜鉦山、米袋記入作業	農家民宿にいや
27日	草刈り体験、市木散策	〃
28日	町役場あいさつ、インターン終了	

5、活動内容紹介

・やまんばまつり

今年で三十一年目になる「やまんばまつり」にスタッフとして参加した。当日の手伝いなどで出会った地域の方々とのお話やその温かさが心に残った。会場設営を手伝い、神事に参加して火おこしも体験した。

本番では浴衣を着せてもらい、まつりの盛り上げ役として、また、山車の人気投票の集票スタッフとしてステージで紹介され、邑南町の特産品に扮して登場した。大勢の地域の人々に曳かれて山車が運ばれる様子に感動した。やまんばだけでなくアニメのキャラクターの山車もあり、地区ごとに個性があって見えて面白かった。盆踊りに参加し、ステージで披露されていた子どもたちのダンスやあらがね太鼓を見てまつりの活気を五感で感じた。

運営上の予算の問題や苦勞も耳にしたが、これからもすべての世代が楽しめる素敵なまつりを続けて欲しい。



・産業・観光資源（香木の森、シックスプロデュース、断魚溪、千扇溪、すっぽん解体等）



香木の森ではブルーベリーの摘み取りをさせてもらい、独身女性対象の研修制度が行われていることなどを知った。

また、牛舎がなく放牧された牛からとった牛乳を生産し、全国の百貨店などでも販売しているシックスプロデュースの会長から、新しいことに手探りで挑戦を続けていて、地方の雇用を大事にしていることも聞きヒントをもらった。

邑南町の名勝である断魚溪、千丈溪も訪れた。断魚溪では雨にあい、足もとがすべったが、橋の上からの眺めがよく、別の日に参加した千丈溪ウォーキングでは天気に恵まれ、いくつかの滝も見られ自然を満喫し気分転換できた。羽須美からの参加者や、岡山の大学から福祉の実習に来ている学生など、参加者とのおしゃべりも楽しんだ。

すっぽんの解体を見る機会もあり、命をいただくありがたみを強く感じた。刺激が強いかもしれないが食育にも生かせそうだと思う。

・産直市みずほ



道の駅にある産直市みずほで販売の手伝いを三日間行った。レジでの商品の袋詰めや、花売り、試食を配るなどの作業に取り組み、お盆の頃だった為店内は帰省客で混みあい大忙しだった。社員やパート、野菜を出している農家の方とのコミュニケーションが楽しかった。

みずほの専務に経営について話を伺い、取り組みや運営システムについて理解した。野菜がとても安く、農家の小遣い稼ぎ程度と聞き、形がわるい野菜を販売できる点がいいが、もう少し高くしても売れるのではないかと思った。レジで毎回大量のレジ袋を消費するのが気になり、環境に悪いのでエコバッグを推進できないだろうかと考えた。

・羽須美での農家民泊



私がお世話になった農家では、ご主人が農業と過疎の問題に関して熱心に話してくださいました。限界集落や消滅した集落跡も見せてもらい、そこで耕作放棄地も多く見ることで過疎が進んでいることを実感した。

農業体験ではらっきょうの球根を植え、キャベツや白菜の種まきをした。稲刈りは時期的に早く、羽須美ではできなかつたが、市木に戻ってから稲刈りや草刈りの体験をすることができた。農作業は地道に一つずつ種を



植えたりすることや、草刈機で勢いよく草を刈ること、どちらも広い土地で行うには体力のいる仕事だと思った。

魚釣りや投げ網も、羽須美で初めて体験した。出雲市から来た小学生のための鮎のつかみどりイベントの手伝いで、いけすの設営と昼食づくりを手伝った。子どもたちは、普段自分たちの食卓にあがっている魚が活着していることに触れる経験はほとんどないようで、貴重な食育の機会になっていると感じた。

・知夫小学校教育旅行受け入れ（稲刈り、野菜収穫、川遊び、レクリエーション等）



市木小学校との交流の一環で、隠岐の知夫村から九人の小学生を四日間受け入れ、その手伝いをした。到着の晩は、レクリエーションゲームとキャンドルサービスを行い、二日目は稲刈りや野菜のもぎ取り体験、川遊びなど子ども達の安全に配慮しながらも一緒になって楽しめた。



市木の子供神楽では、小学生が神楽の舞を踊り楽器の演奏も行っていた。衣装を着る体験をさせていただいたのだが、私たち大人でもずっしりと重く感じたのでこれを着て踊ることは大変なことだと感じた。今回のように伝統芸能を他の地域の子供達にも伝えることで、両方にとって良い刺激になっていると思った。

・島根県の地方紙



今回の知夫小受け入れなど、全国紙が取材に来ないところにも地方紙は来ていることに気づいた。知夫小の農業体験を取材に来ていた地方紙の記者に、全国紙と地方紙の違いや、地方紙がどのように地域とかかわっているのかを聞いた。ひとつのテーマを突き詰めて継続して取材していくことは、地域に密接にかかわる地方紙のほうが全国紙よりできるのではないかと納得した。全国紙だと記者は数年で派遣先が変わってしまうが、地方紙は支局の数も限られているので地域とより深く関わっていけるのではないだろうか。

記者との会話から新聞が地方の取り組みや行事を取り上げることで、地域を元気にし、都会にも知らせることができる可能性があることを知った。このように地域へ貢献していけるのは、地方紙のもつ可能性で、魅力だと感じた。

・ 邑南町活性プロジェクト会議

昨年学生によって立ち上げられたプロジェクトの会議に、昨年度のインターン生などと共に参加した。名前のとおり邑南町活性化のためのプロジェクトで、一日目は「邑南町のどこに魅力を感じるか」「邑南町に来たきっかけ」を話し、「邑南町を知ってもらうきっかけ作り」の手段を考えた。

二日目は、学生対象の「田舎体験ツアー」のメニューに関して意見を出し合い、企画のコンセプトを「ものづくり」と「暮らしと文化」の二本柱で考えていくことになった。会議ではオブザーバーの町長、課長、旅行社の方などから頂いたアドバイスも大変参考になった。これから更に話し合いを進め、邑南町の活性化に役立てたい。



6、地域への提案

私は邑南町へ以下の六つの提案をした。

・ **大学サークル合宿の招致**... 邑南町には三か所にテニスコートがあり、それを大学のサークルの合宿に活用してもらおう。若い人が邑南町を訪れるきっかけとなり、邑南町のファンを増やすことにつながる。

・ **自転車の貸し出し**... 滞在中の移動手段はほとんど車だった。少し離れた場所に行くには自転車があると便利だと思い、旅行などで滞在する人が町内を気軽に移動できるように、町役場や駅の近く、民宿などで無料から安い料金で貸し出すとよいと思う。

・ **産直市同士の連携** ... 産直市「みずほ」は年々売り上げを伸ばし成長しているが、既存の他の産直市の売り上げが年々減少していることを耳にした。一つの産直市の売り上げが上がっても、他がつぶれるようなことになれば、近くの産直市に野菜を出荷している高齢の生産者は、遠くて出荷できなくなる人も出てくるだろう。そこで産直市同士が連携することが必要だと思う。具体的には他の産直市の場所の案内などを書いたチラシなどを店頭において相互に宣伝するとよいと思う。

・ **邑南町のみやげもの・地域ブランドの確立**... 産直市で休憩時間に土産物を探した際、石見銀山関連などしか見当たらなかった。そこで邑南町ブランドを作り、加工食品や野菜、量産が可能なみやげものを売り出せばいいのではないかと。たとえばジャムなどである。

・ **PR キャラクターの公募**... みんなから愛される邑南町の PR キャラクターを公募するとよいと思う。それをイベントやメディアなどで活用すれば、町の知名度を上げることができると思う。邑南町に生息しているハンザケ（オオサンショウウオ）、イノシシ、サル等で募集し、インパクトがあるものがよいと思う。

・ **隣接地区同士の交流イベントの実施**... 合併を経て地域づくりをしていく上で、地元の人たちの連携・交流が必要だと強く感じた。隣り合う地区同士で、子ども同士の交流イベント（スポーツなど）の実施から始め、交流を推進するといいたいだろう。

7、体験を終えて

邑南町での十八日間はあっという間だったが、豊かな食と自然と、人の温かさを感じることができた。星空はとてもきれいで、プラネタリウム以上の星空が広がっていることに感動した。

羽須美地域で目の当たりにした過疎地の現状、また何人もの地域の方の口から「自分の子どもでさえ引き留めることができない」という悩みを聞き「なんとかしてあげたい、どうしたらいいのだろう」と考えるようになった。地方のよさを知るとともに、抱える問題やその深刻さも実感した。

十月には里帰りして神楽ツアーの手伝いをする予定である。これから多くの人に邑南町のよさを伝えて、プロジェクトの一員として、邑南町が少しでもよくなるよう恩返しをしていけたらと思う。最後に、受け入れ期間中お世話になった役場の方々、泊めていただいた民宿・民泊の方々、出会った方々すべてに感謝の気持ちを表したい。暖かく迎えてくださり本当にありがとうございました。これからも末長くよろしくお願いいたします。



体験調査員氏名: 白枝悠太

所属: 大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻修士課程 1 年

派遣地域: 島根県邑智郡邑南町

派遣期間: 8 月 11 日 ~ 9 月 1 日 (22 日間)

派遣地域の概要: ~ 中山間地域を代表する邑南町 ~



邑南町は、平成 16 年に旧羽須美村、旧瑞穂町、旧石見町の三町村合併により新しく誕生した町であり、「邑南」とは古くから地域全体を表す名称として親しまれているとともに、同町の「夢響きあう元気の郷づくり」というスローガンにも適していることからこの名がついた。島根県の中部に位置し、中山間地域として島根県と広島県の境にある町として、古くから山陰・山陽を結ぶ交流拠点になっている。

山間部に位置しており、かつ中国地方最大級の河川である江の川の源流に位置していることから、非常に豊かな自然に恵まれており、ゲンジボタルやオオサンショウウオなどの希少種も生息する「日本の原風景」が残る土地である。また、住民の方々も非常に温かく、かつ地元を愛する方が多く、独創的で先導的な取組みを積極的に行っている町である。今後、中山間地域を始め日本が抱えるであろう課題にいち早く取り組んでいるトップランナーの地域である。

一方で、中山間地域が抱える課題が見られる地域でもある。町の面積の多くは山林が占めており、総面積 419.2km² に対し、可住地面積が 55.3km² と全体の 13% である。そのため住区は分散しており、中には限界集落になっている場所もある。また、農業が基幹産業であるが、高齢化率が 39.7% と高齢者が多く、担い手不足等の課題もあり、こうした課題は今後日本各地で見られるようになって考えられる。



参加動機: ~ なぜ、この事業に参加し、邑南町に行くことにしたのか? ~



私は島根県出雲市の出身で、大学進学を機に大阪に出ることになった。そのため純粋な都会の学生ではないが、いい意味で都会と田舎の両方を知る立場であると思う。

私が参加したそもその理由は、私が高校生の時に地域開発に疑問を持ったことから始まる。地域が開発によって変化していくことで、思い出の場所、つまり「ふるさと」がなくなっていくように感じたことが、地域に興味をもつきっかけになった。また、駅前のシャッター商店街や高齢化といった地域が抱える課題を島根県は先取りしており、こうした現状を目の当たりにして、なんとか「島根を元気づけたい!」と思うようになった。

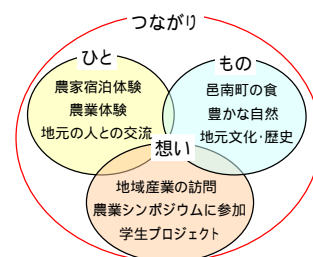
そこで、大学では「いかに環境(自然、ふるさと)を守りつつ、地域が発展していけるか」ということを学び、地域活性化について勉強していた。しかし、「机の上で勉強しているだけでは、本当に地域が抱えている問題の実情が理解できるのか」、と強く思うようになり、今回この事業に参加することで実際に地域の実情を肌で実感したいと思ったことが参加動機である。また、邑南町を希望した理由は、私の出身である島根県であることが第一にある。東西に長い島根県では、なかなか西部や中山間地域に足を運ぶことがなく、私の目的である「島根県の活性化」のために、出身である出雲市以外の実情を感じたいと思ったことが邑南町を希望した理由である。

体験スケジュール: ~ 私の邑南町での22日間 ~

日程	午前	午後	夜	宿泊先
8月11日		着任式	歓迎会	農家民宿日高
8月12日	香木の森見学 シックスプロデュース工場見学	断魚溪散策 みずほ産直市見学 こて絵見学 元気館にNEC練習見学		"
8月13日	やまんば祭り準備	産直市手伝い		"
8月14日	やまんば祭り準備 すっまん調理	やまんば祭り準備	やまんば祭り	農家民宿小田
8月15日	産直市体験	産直市体験		"
8月16日	産直市体験	産直市体験	市木市街散策	"
8月17日	農作業つみとり体験 知夫小受け入れ会議	垣崎醤油見学		農家民泊ことぶき
8月18日	羽須美農家体験	羽須美農家体験	BBQ	"
8月19日	羽須美農家体験	羽須美農家体験		"
8月20日	羽須美農家体験	知夫小学校歓迎会準備	知夫小学校歓迎会	グリーンツーリズムの 宿石橋
8月21日	知夫小学校教育旅行手伝い	知夫小学校教育旅行手伝い	こども石見神楽見学	"
8月22日	千丈溪ウォーキング	知夫小学校送別会準備		"
8月23日	自由行動(大学PJ参加)	自由行動(大学PJ参加)		小笠原家
8月24日	報告会(北尾)	邑南町学生でつくる地域活性化会議		"
8月25日	邑南町学生でつくる 地域活性化会議	役場職員の方による勉強会	職場若手職員との 交流会	久喜林間学舎
8月26日	喜久鉦山見学および移動	草刈体験		民宿こいや
8月27日	農作業体験	農作業体験		"
8月28日	こせがれネットワーク準備	こせがれネットワークシンポジウム	こせがれ交流会	小笠原家
8月29日	自由行動	自由行動	温泉	"
8月30日	報告会準備	報告会準備		土居ランド
8月31日	報告会準備	報告会(杉本、山岸、白枝)	送別会	"
9月1日	町長と役場の方々へ挨拶	解散		

活動紹介・体験成果: ~ 体験から私が学んだこと ~

ここでは、私が邑南町で体験した内容と、そこから学んだことをカテゴリー分けし、報告することにする。邑南町での体験を通じて私は、「ひと」「もの=資源」「想い」と「つながり」を感じた。これらについて詳細に報告していく。



「ひと」を感じた体験



うことができた大切な時間であった。

さらに今回は、体験には直接関係のない近所の方々や、役場の職員の方々との交流の場を設けて頂き、より地域の「生の声」を聞いたのではないかと思います。地元の方々との会話を通じて、改めて「地域づくり」とは「人づくり」であると感ずることができました。

私は今回、ほとんど毎日農家の方々のお世話になった。これは非常に貴重な体験であり、ただ宿に泊まるだけの観光型では味わえない、地元の方との交流をたくさんすることができた。会話の中には、ご自身のことや農業のこと、地域のことが聞くことができ、こうした話は大学の教科書では絶対に分からない内容だった。また、各農家では様々な農業体験をさせて頂き、貴重な体験になったと共に、農業(農作業)を通じて「ひと」と触れ合



「もの=資源」を感じる体験



「地域には地域の魅力がある」という言葉を今回ほど実感したことはなかった。邑南町で私がまず実感したのは、なんと言っても「食」である。豊かな自然環境に恵まれた邑南町では、無農薬で栽培された新鮮な野菜、大自然で育てられた石見牛・石見ポークや乳牛、鮎などの新鮮な川魚やすっぽんといった珍味まで、美味しいものがあふれていた。食べてみれば一目瞭然、その味の違いにただただ驚くばかりであった。こうした「食」に関連して、「豊

かな自然」も資源として挙げられる。山あり、川あり、赤瓦の家並みありと、時間帯や四季折々その姿を変える自然は、まさに「日本の原風景」と言えるすばらしいものであった。また、地元文化や伝統工芸に触れることで、その地域の歴史を感じることができた。特に島根県は古い歴史と地域性をもっており、こうした伝統文化・工芸は後世に伝えていくべき「魅力」であると感じた。



「想い」を感じる体験



今回、地域産業をしておられる方のお話を伺ったり、役場の職員の方や農業シンポジウムでの交流会で農業に対して熱い想いをもっておられる方との会話をしたりすることができた。それぞれ独自の理念や取り組み方をもっておられたが、その中に共通する想いを感じることができた。それは「地域のために」という想いであった。これは邑南町を越えた方との会話にも共通しており、どのようなアプローチであろうと、地域活性化のためには「地域を

愛する気持ち」と「地域を誇る気持ち」が必要なのだと、当たり前のことを改めて感じる事ができた。また、交流会では同年代の方と話をすることができ、貴重な体験になったとともに自分にとって非常に刺激となる時間を過ごすことができた。

「つながり」を感じる体験

以上に述べたような体験を通じ、私は「地域」は「人」で、「地域づくり」は「ひとづくり」であり、「つながり」であると感じた。邑南町の最大の魅力は「つながり」ではないだろうか。この22日間で、邑南町の方々となつなかりを持てたことはもちろん、学生でつくる邑南町活性化プロジェクトでは、邑南町にゆかりのある学生が主体となって邑南町を盛り上げようということで、邑南町を舞台につなかりを持つことができた。そしてなんといっても同じ想いを持つインターン生とこうした出会い、つながりを持てたことが、最大の成果のひとつであったと思う。



地域への提案：～私が感じた地域の問題点をふまえて～

電動自転車のレンタサイクル

邑南町の様に住区が分散しているような地域では、主な移動手段は車であるが、自然豊かな邑南町では車に移動だけではもったいないと思う。しかし山間部に位置するために起伏が激しいので、電動自転車にすることでこうした問題はある程度解消されると考えられる。また、レンタサイクルの付加価値として、車の移動が減少することでCO₂排出が減少することや、電動自転車の充電に太陽光発電を用いることで新エネルギー導入と産業振興の両立のきっかけになるのではないかと。

増える空き家の活用法

空き家が増加する邑南町では、棚田オーナーなどいろいろな取組みがなされているが、農業という視点からだけでなく、例えば建築関係やアート関係の学生や関係者を誘致して、空き家の改装を自由にさせるといった従来とは異なる視点からの募集も必要ではないか。また、こうした取組みが新たな PR になる可能性があるのではないか。

目的別観光マップ

邑南町には観光資源となる魅力が数多くある。こうした魅力を観光客のニーズに合わせて十分に堪能してもらえるよう、目的別にマップを作成することが有効ではないか？例えば基本的な邑南町の地理マップに目的別のマップを重ねることで、自分のニーズを満たす一つのマップが完成するという形で提供する。

大学・学生を媒体とした都市農村交流

地方の大学と都市の大学でそれぞれ求めているフィールドを互いに提供し合い、学生を派遣することで都市と農村の交流を活発化することが出来るのではないか。もしくはそのきっかけになるのではないか。

農業の価値を創造しよう

農業を「かっこよくて、稼げて、食べる3K 産業」にしようということで、農業の価値を創造していく必要がある。

その1 農業ブランド化の推進：農産物をブランド化するために味も重要であるが、それにブランド化のための PR が必要であると感じた。そこで、例えばご当地ブランドとして新たな製品を外部の調理・製菓学生に開発させてみるのはいかがでしょうか。

その2 付加価値を創造しよう：農業の価値を創造するために、他領域を巻き込んで付加価値を創造していく必要ではないか。例えば、農業・食育・スポーツを絡め、「健康」という付加価値を生み出すことで、農業の付加価値を創造していく。

その3 CO2 排出権取引に学ぼう！食料自給率取引！：行政も積極的に農業政策をしていかなければならない。そこで課題となる財源確保と人員確保の方法として、都市の直接関わることができない組織と農村で食料自給率取引をすることで、都市では CSR といった社会貢献ができ、農村では農業に必要な労力を提供してもらうことで、耕作放棄地の再生など食料自給率を上げる。こうした関係を持つことで、農業の価値を高めていくことができるのではないか。

インターンに参加した感想：～ 邑南町での3週間を振り返って～

私は今回、この地域づくりインターンに参加し、邑南町に3週間滞在することで、大学の机の上では分からない貴重な体験をさせて頂いた。また、地元島根県の活性化に関わっていきたいと思う一方で、西部地域や中山間地域にはほとんど来たことがなく、まだまだ知らないことがたくさんあると感じた。

邑南町での生活で私が実感した魅力は、なんといっても「ひと」と「つながり」だった。これらは都会での生活の中で忘れていたものであり、こうした魅力は単なる訪問型観光ではなく、実際に地域で生活する滞在型観光でなければ分からないことだと感じた。こうした魅力をしってもらうためには、邑南町にもっと来てもらえるような「きっかけ」づくりが必要である。今回体験した「想い」を私たちが受け止め、そうした「きっかけ」づくりを学生が担っていく



ことが、今後の地域活性化には欠かせないことであり、お世話になった邑南町への恩返しになると思った。

是非、今回のインターンでつながることが出来た仲間と、また邑南町に帰ってきたいと思います。

平成21年度 若者の地方体験交流支援事業 体験調査レポート

島根県邑智郡 邑南町 / 平成21年8月11日(火) ~ 9月1日(火) 22日間

立教大学観光学部交流文化学科3年 杉本陽一

はじめに 参加動機

昨年度、所属している文化人類学のゼミで、埼玉県秩父市のお祭りのフィールドワーク実習を行った。そこで地域の人たちと交流していく中で、田舎の良さ、例えば人と人の繋がりが色濃く残っていることなどをこの肌で感じ、また、自分とは今まで縁のなかった土地を訪れ、そこに暮らす、言わば自分とは違う生き方の人たちと出会い、関わりあうということが、こんなにも面白いものなのかと感じた。そのような経験のある自分にとって、このインターン事業はとても魅力的だった。また、何をしてもお金でモノを買うという都会の暮らしよりも、自分で何かをつくって生活するというような田舎の暮らしにどこか惹かれるものがあり、田舎での暮らし、農ある暮らしというものを体験してみたいと思っていたことも、このインターン事業に参加したきっかけである。特に、この島根県は日本の中でも良い意味で「本物の田舎」が残る場所だということを知り、ぜひこの目でその田舎の抱える問題や魅力を見てみたいと思った。

邑南町の紹介

この町は平成16年10月1日に石見町・羽須美村・瑞穂町という三町村の合併により誕生した。横に長い島根県の真ん真ん中、南寄りに位置し、町の南側を広島との県境に接する。その地理的な近さゆえに、この地域では昔から、言葉などの文化の面でも経済の面でも広島との結びつきが強い。また、中国山地と石見高原の間に位置するいわゆる中山間地域であり、町の総面積419.22km²のほとんどを山林が占め、その合間を中国地方最大の江の川の源流が流れているという、水資源にも恵まれた自然豊かな町である。その豊かな自然により育まれた農業がこの町の基幹産業であり、米をはじめとした様々な作物が栽培されている。また、この田んぼの広がるこの地を舞台に、古くから神楽が舞われ、現在でも地域の人たちに受け継がれている。平成21年7月1日現在、町の総人口は12,417人で、そのうち高齢者の占める割合は39.7%という、おじいちゃんおばあちゃんの多い町である。



体験スケジュール

日付	体験内容			宿泊場所
	午前	午後	夜	
8/11(火)		任命式 オリエンテーション	歓迎会	農家民宿 日高
12(水)	香木の森・シックスプロデュース 見学	断魚渓ウォーキング 出羽地域巡り		農家民宿 日高
13(木)	やまばまつり準備	産直市みずほ手伝い		農家民宿 日高
14(金)	やまばまつり準備	やまばまつり	やまばまつり	農家民宿 小田
15(土)	産直市みずほ手伝い	産直市みずほ手伝い		農家民宿 小田
16(日)	野菜収穫 産直市みずほ手伝い	産直市みずほ手伝い		農家民宿 小田
17(月)	ふるさと体験旅行 打ち合せ	垣崎醤油見学 羽須美地域巡り		農家民宿 のぶしの宿
18(火)	棚田草刈り	鮎の投網漁体験	ご近所でBBQ会	農家民宿 のぶしの宿
19(水)	農作業手伝い 工芸体験	羽須美名所巡り		農家民宿 のぶしの宿
20(木)	志都岩屋弥山・久喜鉱山 散策	ふるさと体験旅行手伝い (受け入れ準備)	ふるさと体験旅行手伝い (レクリエーション)	ツーリズムの宿 石橋

21 (金)	ふるさと体験旅行手伝い (稲刈り・田舎料理)	ふるさと体験旅行手伝い (川遊び・野菜収穫)	ふるさと体験旅行手伝い (子供神楽鑑賞)	ツーリズムの宿 石橋
22 (土)	千丈溪ウォーキング	ふるさと体験旅行手伝い (お別れ式準備)		ツーリズムの宿 石橋
23 (日)	ふるさと体験旅行手伝い (お別れ式)	田舎ツーリズム事務局 事務作業手伝い		小笠原さん宅
24 (月)	研修報告会 (北尾)	「学生でつくる邑南町活性 プロジェクト」会議		小笠原さん宅
25 (火)	「学生でつくる邑南町活性 プロジェクト」会議	定住企画課 職員の方からのお話	役場職員との交流会	久喜林間学舎
26 (水)	久喜鉱山探検	田んぼ草刈り		農家民宿 にいや
27 (木)	田んぼ草刈り	圃場耕作		農家民宿 にいや
28 (金)	「農家のこせがれネットワーク」 (会場準備)	「農家のこせがれネットワーク」 (設立発表会)	「農家のこせがれネットワーク」 (懇親会)	小笠原さん宅
29 (土)	自由時間	研修報告会準備	いこいの村しまね 入湯	農家民泊 土居ランド
30 (日)	研修報告会準備	研修報告会準備	研修報告会準備	農家民泊 土居ランド
31 (月)	研修報告会準備	研修報告会 (白枝・杉本・山岸)	送別会	農家民泊 土居ランド
9/1 (火)	挨拶回り 及び 自由時間	帰路へ		

主な体験内容

やまんばんまつり

石見地域で30年ほど前から続くやまんばんまつり。この地域に伝わる心優しいやまんばんの伝承をもとにしたこの祭りは、良い意味で手作り感のある、地元の人たちの想いのこもったとてもあったかいお祭りだった。僕ら大学生も祭り本番だけでなく、当日の朝の準備から神事までを参加させていただいた。祭りの夜には、どこにこれだけの人が入ったのかと皆で

驚くほど、会場である小学校の校庭が人でいっぱい賑わっていた。地元の方々とは今日会ったばかりの僕ら大学生にも分け隔てなく接して下さり、また、昨年に引き続き今年の大学生にも大事な任務が与えられ、それぞれ特産品に扮してステージに上がって話したり、子どもたちのダンスに乱入したり、群衆にお餅を振り投げたりと、お祭りを楽しんだ。

ステージにて



山車をバックに



産直市手伝い

ここ産直市みずほでは、3日間ほどお世話になり、裏方で野菜の袋詰めや石見ポークの串焼きの売り子など、一通りお手伝いをした。裏方で作業をしているときには、農家の方々が声をかけて下さったりいろんな野菜をいただいたりと、田舎のあたたかさを感じる1コマもあった。そして、このときに頂いた生トウモロコシの味は一生忘れない。それぐらい

おいしかった。また、この産直市で一番印象に残ったのは、レジの上に並んでいる農家さんたちの写真だ。壁一面に並ぶたくさんの顔に何か魅かれるものがあった。皆さんとても良い顔をされていて、野菜づくりや産直市での販売を楽しんでおられるのだなと感じた。また、お手伝いの合間に専務の方から産直市のお話を伺った。そのお話の中で、「農家のための産直市」という言葉が心に残った。農家の方は普段、直接お客さんとかかわる機会が少ないため、仕事を評価されることもなく、どうやったら売れるのかといった工夫をすることもなかなか無いそう。そこで、地元農家を何とか応援しようと、ここ産直市は自由な発想で商品を卸せる場や、お客さんから直接「おいしい」と評価してもらえる場として、農家の方たちへ開かれているそう。農家さんたちの笑顔の理由が少しだけわかった気がした。

壁一面の笑顔



レジでの手伝い



地場産業見学

地元で八十年前前から醸造業を営む垣崎醤油さんと、地元大学生が起業したことで有名な、酪農業を営むシックスプロデュースさんへ見学に行き、それぞれの会社でお話を伺った。酪農であれば牛、醸造であれば微生物というように、どちらもとことん自然と向き合い、楽しみながら、数々のこだわりを持ってものづくりをされている。まさに職人仕事。また、そのように良いものを作りつづけると同時に、お客さんの元へ届くまでの仕掛けづくりなどにも、常に新しい目をもって取り組んでおられる。そんな“古くて新しい”ものづくりの心に深く共感を覚えた。そして、地元を元気にしたいという想いや、お客さんとの繋がりを大事にする気持ちがお話からひしひしと伝わってきた。そのように、熱い想いをもってものづくりに取り組んでおられる姿を見ていると、何かかとても羨ましいなと感じた。自分もやってみたい。

醤油工場見学



ソフトクリームに舌鼓



ふるさと体験旅行手伝い

小学生を対象に行っている、ふるさと体験旅行のお手伝い。邑南町では宿の方々と役場とが協力し合い、子どもたちの受け入れを盛んに行っている。この夏は隠岐島の知夫小学校から9人の子どもたちがこの町を訪れた。4日間の滞在の間、子どもたちは稲刈り体験や川遊び、神楽鑑賞などを通して邑南町の魅力に触れ、とても楽しそうな様子だった。僕ら大学生もお手伝いという立場ながら、元気いっぱいな彼らに負けることなく、一緒になって楽しんだ場面もあった。しかし、そう遊んでばかりはいられないと、お別れ式には僕らから子どもたちへあるプレゼントをした。皆喜んでくれただろうか。この体験旅行を通して、今回のような子供たちの受け入れは、宿の方をはじめとする地元の方々と役場の方との協力がなくては成し得ないことだと感じた。両者が手を取り合って地域のために頑張っておられる姿を見て、ここは本当に元気な町だなと改めて思った。また、ある宿のお母さんから小学生を受け入れた際の思い出話をお聞きした時に、「ほんにこの谷がぱーっと明るくなったんよ」と笑顔で話しておられたのがとても印象的だった。子供の力ってすごい。

稲刈りに夢中の子供たち



お別れの記念撮影



羽須美地域体験

旧羽須美村の民泊「のぶしの宿」で3日間お世話になった。ここはこれまで他のインターン生とずっと行動を共にしてきたが、ここで初めて自分一人での宿泊となった。初めこそ寂しかったものの、周りを田んぼや里山に囲まれ、のんびりとした空気に包まれた家で過ごしているうちに、寂しいどころか自分の田舎にいるようで、ずっとここに住みたいと思うくらい満たされた時間を過ごせた。午前中はおとうさんの手伝いで棚田の草刈りなどをして汗を流したり、昼はのんびり昼寝をしたり、自転車で家の周りを散策したり、午後は家の前を流れる川で鮎の投網漁をしたり、おかあさんに教えてもらいながら手芸品を作ったり、夜は近所の方々とバーベキューをしながらお酒を飲み交わしたり...と、とても充実した毎日だった。そんな楽しい毎日を過ごした一方で、この地域の問題にも触れた。集落のいたるところにある空き家や耕作放棄地。今後さらに高齢化、過疎化が進んでいけば、それらはもっと増えていく。今でこそ「しゅわい」「大儀い」(この言葉で「しんどい」などという意味)と言いながらも元気に農業に励むおじいちゃんおばあちゃんたちも、いずれは体力的にも無理がくるだろうし、また、移動手段として無くてはならない車の運転もできなくなるときの来る。ふと、この地域の10年後、20年後の姿を想像してみる...今こそ力の有り余る若者の出番ではないか。

家の裏に広がる棚田



近所の方とBBQ



農作業手伝い

宿泊先のいくつかの宿で農作業のお手伝いをした。内容は田んぼの草刈りや畑の耕作、野菜の収穫などだった。生まれて初めての草刈り機や耕運機などの農業機械の操作だったため、はじめはうまく動かせるかどうか緊張したが、草刈りにいっては、もう既に羽須美で経験を積んでいたからか、インターン生4人の中で一番うまいとの評価を宿のおとうさんから頂いた。農家の方にとっては、このように草を刈ったり、畑を耕したり、野菜を収穫するという作業は日常の

1コマであり、身近すぎて新鮮味や面白味を感じることはあまりないのかもしれないが、普段なかなか農業に触れる機会の無い自分にとっては、見聞き体験することが全て新鮮で、非常に楽しく作業を手伝うことができた。しかし、楽しい

とは言っても、なかには力の要るしんどい作業もあるし、それを365日毎日やることを考えると少し骨の折れる仕事だと感じた。ましてや、おじいちゃんおばあちゃんは自分なんかよりももっと大変な作業だと思う。土を耕し、草を刈り、種を植えて、収穫して…。農業の楽しさと同時に、農業の苦勞を少し垣間見た気がした。

冬野菜畑の耕作



田んぼの草刈り



朝イチでナスの収穫



学生でつくる邑南町活性プロジェクト会議

邑南町に昨年インターン生としてお世話になった学生が主体となり、このプロジェクトが発足した。その起ち上げ会議が2日間に渡って行われ、そこに僕ら今年のインターン生も参加することになった。1日目の会議では、役場の方とインターン生をはじめ、島根短大の学生や教授、旅行会社の方、地元の方など多くの人が集まる中で、いろいろな立場からの意見が交わされていた。2日目の会議では学生だけ今後のプロジェクトの展望や具体的な企画等を話し合った。そもそも、このプロジェクトが起ち上がった背景には、昨年度のインターン生がお世話になった邑南町の皆さんに何か恩返しをしたいという想いがあった。今年お世話になった自分も、今、同じ想いでいる。今後、邑南町にお世話になりっぱなしの学生がいかに恩返しをしていくことができるのか、皆で真剣に取り組んでいきたいと思う。



地域への提言

このインターンを終えて一番心に残ったのは、元気溢れるおじいちゃんおばあちゃんの姿だった。この町では高齢化、過疎化がどんどん進み、「限界集落」といった言葉が並べられる一方で、そこに住む方たちにはどこか活気が溢れていた。しかしそうは言っても、今後10年、20年先のことを考えると、多くの問題が見えてくるのもまた事実である。例えば、荒れていく棚田もその一つだが、そうやって昔から綿々と受け継がれてきたものがひとつ、またひとつと失われていくということは、ここに暮らしてきた先人たちの知恵や文化が失われるということでもあり、広い目で見れば日本人全体にとっても大きな損失なのではないかと思う。しかし、それを守り続けるのはそう容易なことではない。ましてや、それがおじいちゃんおばあちゃんとなれば、さらに大変なことだ。そこで、田舎の暮らしや知恵を次の世代に受け継いでいくためにも、おばあちゃんおじいちゃんたちに代わって、ここは力の有り余る若者たちが打って出るときなのではないだろうか。そのような想いから、地域に若者を呼び寄せるために二つの提案をした。

地域通貨×ボランティア この3週間のインターンでの経験から、若い力というのは田舎の農家でかなり重宝がられるものなのだと感じた。もう引っぱり尻！そこで、田舎や地域づくり、農業などに興味のある若者ボランティアを若い力を必要としている農家へと募り、その労働の対価として、町内の産直市や田舎ツーリズムの宿、観光施設などで使用できる「地域通貨」を付与する仕組みをつくるのはどうだろうか。それは、若者を呼ぶ手助けになるし、また、町内の産業の活性化にも繋がる。「地域通貨」がこの町と若者とを繋ぐ役割を果たせたら良いと思う。

農家へ居候(ワーキングホリディ)制度 邑南町では田舎ツーリズムなどの田舎を訪れるきっかけづくりを活発に行っているが、訪れた人がその先にある定住までを考えるのは、なかなか難しいのではないかと感じた。そこで、定住までの第一歩として、一年単位で農家への「居候」の受け入れを充実させてはどうか。それにより、猫の手でも借りたい農家の方と、近年増える農業を志そうと考える若者、両者の想いを一致させることができる。また、長く農家に「居候」させてもらうことで、農業の確実な技術の習得も見込めるし、地域の方との信頼関係を築くこともできるため、より現実的に若者の定住へと繋げることができるのではないだろうか。この町の基幹産業である農業を少しでも生かしたい。

さいごに 感想

ほんの少し前までは名前も知らなかった邑南町が、この3週間のインターンを終えた今ではとても大きな存在となっている。この夏、この町で過ごした毎日を大切にしていきたいと思う。滞在中はたくさんの人に可愛がっていただいた。この出会いに感謝したい。本当にありがとうございました。そして最後に...これからもよろしくお願いたします。

平成 21 年度 地域づくりインターン事業体験調査レポート

派遣地域：島根県邑智郡邑南町

体験期間：平成 21 年 8 月 11 日～9 月 1 日

体験調査員：大阪大学大学院 法学研究科 知的財産法プログラム 1 年 山岸夕花

1. 参加動機

私は、大学院で「地域振興における知的財産の役割」というテーマのもと、各地域の人的・物的資源の活用を、特許法や商標法といった知的財産法の分野で実現し、地域の活性化につなげる方策について研究しています。この研究を進めるにあたり、多くの地域を訪れ、地域振興のための取組みを見聞きたいと思っていますが、短期間の滞在では、地域の方と交流する機会も乏しく、観光だけで終わってしまい、地域の生活や文化など地域のことを深く知ることは難しいです。

そこで、このインターン事業に参加して、実際にその地域の中で暮らし、イベント等を通して地域の人々と交流する中で、地域の現状を知り、地域振興について考えてみたいと思い応募しました。

2. 邑南町の概要

邑南町は中国山地の中山間地域で広島との県境に位置しています。平成 16 年 10 月 1 日に羽須美村、瑞穂町、石見町の 3 町村合併により新しく誕生した町であり、「夢響きあう元気の郷づくり」をテーマとして新しい町づくりを行っています。農業を基幹産業とし、総面積 419.2 km²、人口 12,048 人、高齢化率は約 40% と高齢者の多い町です。

町名の「邑南」は古くから三町村の地域全体を表す名称として親しまれており、また、「邑」には小さな都、人の多く集まるところの意味があり、「南」には人情温かく産物が豊かに実り、和やかで将来に夢と希望を与える明るいイメージがあることから決定しました。



3. スケジュール

日付	午前	午後	夜	宿泊場所
8月11日(火)		任命式	歓迎会	農家民宿 日高
12日(水)	高木の森 シックスプロデュース	断魚溪		農家民宿 日高
13日(木)	やまんばんまつり準備	産直市みずほ販売		農家民宿 日高
14日(金)	やまんばんまつり手伝い	やまんばんまつり神事	やまんばんまつり参加	農家民宿 小田
15日(土)	産直市みずほ販売	産直市みずほ販売		農家民宿 小田
16日(日)	産直市みずほ販売	産直市みずほ販売		農家民宿 小田
17日(月)	知夫小学校 受入打合わせ	垣崎醤油見学	ソフトバレー練習参加	農家民泊 うえざこ
18日(火)	羽須美地域めぐり	団樂	夕食作り手伝い	農家民泊 うえざこ
19日(水)	団樂	農作業手伝い		農家民泊 うえざこ

20日(木)	羽須美地域めぐり・移動	知夫小学校 受入準備		ツーリズムの宿 石橋
21日(金)	知夫小学校教育旅行手伝い	知夫小学校教育旅行手伝い		ツーリズムの宿 石橋
22日(土)	千丈溪ウォーキング	知夫小学校教育旅行手伝い		ツーリズムの宿 石橋
23日(日)	知夫小学校教育旅行手伝い	写真整理		小笠原家
24日(月)	報告会	学生でつくる邑南町活性プロジェクト会議		小笠原家
25日(火)	学生でつくる邑南町活性プロジェクト会議	勉強会	役場若手職員との交流会	久喜林間学舎
26日(水)	久喜鉱山見学	米袋記入		農家民宿 にいや
27日(木)	草刈	自由時間・米袋記入		農家民宿 にいや
28日(金)	こせがれネットワーク準備	こせがれネットワーク	Oh!カフェ	小笠原家
29日(土)	研修報告会準備	研修報告会準備		農家民泊 土居ランド
30日(日)	研修報告会準備	研修報告会準備		農家民泊 土居ランド
31日(月)	研修報告会準備	報告会	送別会	農家民泊 土居ランド
9月1日(火)	お礼の挨拶			

4. 活動紹介

<やまんばまつり>

地域に伝わる「やまんば伝説」にちなんだ伝統あるお祭りです。帰省中の学生や若い夫婦なども多く、子供からお年寄りまでみんなが楽しんでいて、活気に満ちていました。地区ごとに創作した山車の競演があったり、ステージ発表や盆踊りがあったりと、地域住民参加型のお祭りでした。

私の地元では祭りの規模が年々縮小し、人も集まらなくなってきているので、こんなにも多くの人が集まり、みんなが楽しめるお祭りが続いていることをとてもうれやましく感じました。そして、この先もずっと地域住民が交流する場として、みんなに愛されるお祭りであってほしいなと思います。

私たちは準備や運営にも係わらせてもらったことで、やまんばまつりをより楽しむことができたし、わずかながらも祭りを盛り上げることができたのではないかと思います。邑南町の内外から大学生を集い、スタッフとして参加してもらうというのも、やまんばまつりを活気あるお祭りとして維持していく上でいい方法かもしれないなと思います。



<地元企業見学>

私は、地域振興を実現する上で、地域の特産品を生かすということがとても重要だと考えています。そのため、地域の特産品を製造している地元企業の方から、直接お話を聴くことができたことは、貴重な経験となり、学ぶことも多かったです。

どの企業の方も地域の知名度を上げたいという想いから、地元産品を利用した商品開発や、地域の特産品の販売手法の整備を行っており、地域への想いの強さに感激しました。また、私が地域



振興を研究テーマに選んだ理由は、出身地である福井県をもっと知ってもらいたいという思いからだったので、すごく共感できました。地域への想いを抱いていても、自分の力では何もできないのではないかとネガティブに考えがちでしたが、邑南町の地元企業の方の話を聴いて、同じような想いを抱いている人が多いこと、小さなことから広げていくことができることを知り、とても勇気づけられました。

<農業体験（収穫、種まき、稲刈り、米袋書き、草刈り）>

白菜の種まきをしたときは、初めて白菜の種を見て、こんなに小さな種からあんなに大きな白菜ができるかと思うと信じられませんでした。改めて考えてみると、いつも食べている野菜がどんな種からどう生長していくのか、知らないものも多いように思います。

草刈りは、機械の扱いに慣れるまでは戸惑いましたが、しばらくすると自分なりにコツをつかんで最初よりはうまくできるようになりました。自分の周りがどんどん刈り取られていくので楽しかったです。ただ、斜面の草刈りではだんだん腰が痛くなってきて、他のインターン生と交代しながらやりました。私たちは一時的な体験としてやっているから面白いと思うことだけできるし、疲れれば交代することだってできますが、農家の方はそういうわけにはいきません。自分たちで続けていくしかない農家の大変さというものを改めて感じました。また、農家が大変ながらも作り続けてくれている米や野菜の大切さも身にしみて感じました。



<千丈溪ウォーキング>

邑南町で定期的に行われているウォーキングイベントに参加しました。参加者のほとんどが高齢者でしたが、私たちが負けそうなくらい元気な方ばかりでした。

木々の間から漏れる日差しと水面からの涼しさがとても気持ちよく、適度な運動となりました。自然が造りだした渓谷の美しさにも圧倒されました。

ウォーキング中には、参加者の方といろいろ話すことができました。邑南町で暮らすことの不便さについて尋ねると、「車に乗れるから移動は困らないし、特に不便なことなんてないわ。」という答えがすぐに返ってきたので驚きました。私は普段の生活と比べて、コンビニや店が近くになかったりすることに不便さを感じていたので、この答えは予想すらしていないものでした。判断の物差しが人によって異なるのは当然ですが、生活環境によっても大きく変わってくることに気づかされました。



5. 地域への提案

・HPや観光案内パンフレットの充実

邑南町の魅力である、自然の美しさ、食べ物の美味しさや人の温かさは、邑南町に来れば感じてもらえると思います。しかし、邑南町はガイド本ではあまり紹介されておらず、まず観光に来てもらうことが難しいように思います。そこで、邑南町のHPやパンフレットを通して、邑南町を知った人に興味を持ってもらい、観光のきっかけを作ることが大切だと考えます。

まず、邑南町を知らない人、まだ訪れたことのない人に対しては、邑南町のイベント、観光地や四季折々の風景の写真をHPに掲載し、邑南町のイメージを伝えます。また、観光のモデルコースを紹介し、

邑南町に来て何を体験できるのか、何を見ることができるのかという情報を発信し、HPの閲覧者に具体的な観光プランをイメージしてもらいます。邑南町を具体的にイメージすることが出来れば、不安がなくなり観光地として選びやすくなると思います。

そして、邑南町として一冊のパンフレットを作り、観光客が多く立ち寄る場所に設置します。パンフレットは、どちらかといえば、邑南町に来た人や隣接都市に来ている人を対象にします。現在は、観光パンフレットが観光地ごとに存在しており、まとまった情報を載せているものが少なく、場所によって置かれているパンフレットも様々です。そこで、一冊のまとまった観光案内パンフレットを作り、観光客が観光しやすいようにして、邑南町での観光を充実したものに手助けをします。また、情報をまとめることによって、当初の目的地以外の場所にも興味を持ってもらえるようにします。

・新たな観光資源の発掘

邑南町の魅力を強化していくために、現在の観光資源に加えて、新たな観光資源を発掘していくことも必要だと思います。そして、新たな観光資源は、邑南町のことをよく知っている地域住民からの公募で集めます。その理由は、地域の人たちが自分たちの町の魅力を見つめ直すきっかけにもなると思うからです。また、地域の人にとって大事な場所が観光資源となることは素敵なことだと思うからです。その一方で、地域の人たちが見過ごしてしまった魅力をすくいあげるために、観光客など地域の外からの意見も積極的に取り入れていく必要があると思います。

また、冬場はスキー客が多く訪れるようですが、夏場には観光の目玉となるものが不足しているように思います。邑南町の星空は素晴らしいものだったので、夏の流星群と絡めながらツアーなどを企画するのいいかもしれません。自転車で町内を回るというのも気持ちいいと思うので、レンタサイクルを始めるのもいいと思います。山道が多いですが、若い人であればあまり苦にならないでしょうし、自転車で走りやすい道を中心としたサイクリングマップを作れば、より町内を楽しく巡ることができると思います。

6. 感想

今まで地方が抱える問題について、机上の知識としては知っていましたが、邑南町で実際に農家の方から話を聴いたり、自分で体験してみたりする中で、自分が考えていた以上に深刻な問題を抱えているという現状を知りました。過疎などの問題が深刻であり、相互に関連し合っているため、根本的な解決策を考えようとしても途方に暮れ、考えが行き詰ってもどかしい気持ちになったりしました。しかし、邑南町の人たちは地域の現在・未来のために明るく頑張っており、そんな姿を見ると私のほうが励まされるほどでした。地域の現状を知る中で、実際に地域の中で元気に頑張っている人たちに出会えたことが、とても嬉しかったです。

また、地域の魅力を考える上で、地域の外部からの視点を取り入れることの大切さについても知ることができました。地域に暮らす人たちには当たり前になってしまい、見過ごされていることが、その地域外の人にとっては魅力的に映ることが多いことを知りました。地域振興というのはその地域の人々の力だけで実現させるものではなく、地域の枠を越えた交流の成果として実現されるものだと考えるようになりました。

このように、邑南町では自分の考えを深めることができ、新たな気づきも多く、本当に充実した素晴らしい3週間を過ごすことができました。本当にありがとうございました！

岡山県吉備中央町

体験内容（受入レポートから）

町内視察

農作業体験

（とうもろこし等の収穫、野菜・くだものの管理、畑の土づくり）

報告者

市町村　　：根本喜代香（協働推進課）

体験調査員：加納　健太（近畿大学）

河原　孝行（立教大学）

平成 21 年度若者の地方体験交流事業
(地域づくりインターン事業)
受入レポート 岡山県加賀郡吉備中央町

受入期間：平成 21 年 8 月 16 日～8 月 29 日まで(14 日間)

体験調査員：加納健太(近畿大学 3 年生)

河原孝行(立教大学 3 年生)

担当者：協働推進課 根本喜代香

地域の概要

本町は岡山県の中心に位置し、総面積 268.73 平方キロメートル、人口約 14,000 人弱の町です。南は県都岡山市に接し、その岡山市から本町の中心部までは車で約 1 時間、岡山空港からは約 30 分の距離にあります。また、町内に中国横断自動車道岡山米子線の賀陽インターチェンジが設置されています。このような町の位置や交通環境、そして町のほぼ中央にある吉備高原都市は本町の大きな特性となっています。

地形は、中国山地と南部平野の間あたりに、標高 100～500 メートルの高原地帯で、比較的なだらかな丘陵地の合間を宇甘川などの中小小川が旭川、高梁川へ流入しています。

気候はやや内陸性で、県南部と比較して冷涼な地域です。

受入の目的・ねらい

本町は、安全、新鮮、おいしさを提供できる農業を営むとともに、農村環境の多面的な活用を推進し「農業立町」をめざしています。しかしながら、総人口は減少局面を迎えています。が、大首都圏で生活している UJターン志向の若者も少なくありません。

そこで、そのような若者に地域の生活を体験してもらうことにより、地方の現状を理解してもらうとともに、フレッシュな感覚をもつ外部の目から見た地方の取組みへの評価を行ってもらい、今後のまちづくりに活かそうと受入を行いました。

地域においては、若者に刺激され活性化されていく。また、町の問題点に対する提言をいただく。

- (1) 吉備中央町の魅力は何か。
- (2) 町がかかえる問題点は何か。
- (3) 地域の活性化に向けてどうしていったらいいか。

大都市圏の学生等においては、地域の暮らし、活動、産業の体験を通じ、地方の良さを知ってもらう。

一つの町でも地方の暮らしは様々なものがあることを知ってもらうため、宿泊は民泊(ホームステイ)とし、体験内容は農業を産業としている農家の体験と、一般的に生活していける農業、農業公社のように幅広く農業の受入をしているところと三種類に分けました。

受入内容

(1) 体験内容

- ・町内視察
- ・農作業(とうもろこし等の収穫、野菜・くだものの管理、畑の土づくり)体験

(2) 活動の拠点・宿泊形態

農家民泊

スケジュール

日程	時間	体験内容	体験場所
8/16(日)	12:00~	岡山駅迎え	
	13:30~17:00	刈エントーン・県内視察	井倉洞
8/17(月)	9:00~9:30	町長との面談	町役場
	9:30~17:00	町内視察	町内
8/18(火)	7:00~12:00	ぶどう園ビニール取りと枝下ろし	体験農家
	13:00~17:00	〃	体験農家
8/19(水)	5:00~12:00	とうもろこし収穫・選別・配達	体験農家
	14:30~16:30	乗用芝刈機体験	体験農家
8/20(木)	5:00~12:00	とうもろこし収穫・選別・箱詰め	体験農家
	13:00~17:00	〃	体験農家
8/21(金)	9:00~12:00	ぶどう園ビニール取りと枝下ろし	体験農家
	13:00~16:00	ともろこし配達・軽作業	体験農家
8/22(土)	7:00~9:00	とうもろこし選別	体験農家
	9:00~12:00	円城観光・ピオーネ剪定	体験農家
	13:30~18:00	ピオーネ剪定・土壌耕す	体験農家
8/23(日)	10:00~16:00	トフトボール大会(農家チーム対抗戦参加)	新見市
	20:00~22:30	川合神社夏祭り	町内
8/24(月)	8:00~12:00	白菜の芽摘み・苗植え	体験農家
	13:30~18:00	ピオーネの剪定・トラクターで土壌作り	体験農家
8/25(火)	8:30~12:00	白菜の芽摘み・苗植え	体験農家
	13:30~18:00	ピオーネの剪定・キャベツ畑の土壌起こし	体験農家
8/26(水)	9:00~16:30	ブルーベリー収穫・選別 作年度インターンとの交流	農業公社
8/27(木)	8:30~17:00	報告書作成	町役場
8/28(金)	10:00~12:00	報告会	町役場
	12:00~13:30	食事会	町役場
	14:00~17:030	県内視察	倉敷市
8/29(土)	9:00	あいさつ、離町	

活動内容紹介

(1) 町内視察

まず、町の様子を知ってもらおうと、1日かけて町内視察をしました。広い大地や動物たちは都会では見られないためか、少なからず感動があったようです。

町の迎賓館「片山邸」で、昔から伝わる「くさぎなのかけめし」を味わいました。

【くさぎなのかけめし】▶



(2) 農作業体験

ぶどう園のビニール取り・枝下ろし

春先にかけてという、ぶどう園のビニール取りの作業を行いました。長い長いビニールを手元へひっぱりまとめます。雨降りの日には困難な作業です。

また、長く伸びすぎた枝下ろし作業は、「この枝を切っているのかな」と、最初にハサミを入れるのに勇気が必要でした。

【ビニール取り作業】▶



とうもろこし収穫

朝4時半起床。まさかこんなに早くから収穫するとは！朝露に濡れながらの体験でしたが、「パキッ！パキッ！」という収穫の音が心地よく、眠い身体がシャんとするようでした。このとうもろこし、生で食べると、とても甘くジューシーでした。

【とうもろこし収穫】▶



畑の土壌を耕す

広い広い畑を耕しました。片山さん(受け入れ農家)が耕すと管理機はまっすぐ進みます。なのに体験調査員はなぜかジグザグに。植えられているキャベツを傷めないよう、力がはいりました。この頃から、農作物の「かわいらしさ」を感じるようになりました。

【土壌を耕す】▶



ブルーベリー収穫

実った粒の見分け方等を教えていただき、一粒づつ丁寧に摘み取ります。暑い日差しの中の地道な作業。でも時々、味を確認するのが楽しみです。

ここで、昨年度のインターン生と交流ができました。

【昨年度インターン生とブルーベリー収穫】▶



昨年度事業との比較

昨年は、初の取組みであったこともあり、何でもたくさん体験したいという気持ちから、フリーの日も休みなく体験したため、最終的に体を休める時間が不足したようです。

今年は、フリーの日には農家の野球チームに入れてもらって試合に出場するなど、リフレッシュができたようです。

また、体験地域も一つの地域だけでなく、幅広く広げていくことができました。

今回は、受入れ市町村も受入れ農家の方も2年目ということで、市町村はスケジュールの組み方等に悩みが少なく済み、農家では様々なお話を聞くことができたようです。

受入の成果

(1) 受入の成果・評価

インターン生の二人は、町長から、若者の視点から見た吉備中央町の魅力は何か、その魅力をどのように活かしていけばよいか等を調査する「田舎みつめなおし隊」に任命されました。

これらのことをふまえ、農業体験を通じて見えてきたこととして、町内に居たままでは気づかない町の魅力、そして、魅力と表裏一体の問題点、町に関する問題点を掲げ、地域の活性化に向けてどのような対策が必要か、貴重な意見をいただきました。

農業の体験は、自然と向き合うこと。経験がものを言うということを体で感じ、自然との付き合い方も少しながらつかむことができたようです。人間は、日が昇れば起きて働き、働いてお腹が空く頃が丁度正午。そしてまた働き、日暮れとともに家に帰る。こんなに自然体でいられた二週間は若い二人には初めてのことでないでしょうか。

受入家族は若い力に刺激を受け、今まで以上に張り切り、これから新たな交流も始まります。お互いそれぞれ得るものがあったと言えます。

また、昨年のインターンの2人も、それぞれ第二の故郷のように何度となく来町してくれており、受入家庭との交流が続いていることや今年のインターン生と交流の場を持つことができたことも成果の一つではないでしょうか。

(2) 今後の期待・展望

インターン事業は、数回実施しただけではその事業効果は表れません。

しかし、今後もこのような事業を行うことによって、年々、都市と地方の間に広いネットワークが築かれていくことは確実でしょう。インターン生は「農業は、実は魅力的な産業であると肌で感じた」と口にしていました。

この先も、若い学生が様々な体験を通して大地がもたらす恵みを身体で感じ、町の産業が活気づき、新たな可能性が生まれていくことを期待します。

【派遣地域・期間】

岡山県吉備中央町 8月16日～29日

【体験調査員】

近畿大学 理工学部 社会環境工学科 3年生 加納健太

【派遣地域の紹介】

岡山県の中心に位置し、賀陽町と加茂川町が手を組み吉備中央町となる。気候では昼間は暑く、朝夜が寒いのが特徴である。風習としては、昔ながらのお祭りが伝えられている。しかし若者が都会に行き伝える人がいなくなってきており、規模が小さくなってきている。

【体験内容】

町内観光、トウモロコシの収穫体験、地域の人とソフトボール大会、川合祭り体験、種まき、草刈り、土を耕す、ぶどうの剪定・ビニール取り、ブルーベリー収穫体験

	午前	午後
8/16		井倉洞見学
8/17	町長表敬訪問、町内観光	
8/18	ぶどうの上のビニール取り・枝おろし	
8/19	トウモロコシの収穫・選別	草刈り
8/20	トウモロコシの収穫・選別、山陽新聞の取材	味来・きたあかりの箱詰め
8/21	ぶどうの上のビニール取り・枝おろし	美穂の里に納品、封筒にパンフレットを詰める
8/22	トウモロコシの選別、円城観光、ぶどうの剪定、畑を耕す、カボチャ収穫	
8/23	ソフトボール大会、千屋牛の焼き肉、川合神社祭り	
8/24	白菜の成長不足の芽を取る・種植え	ブドウの剪定、トラクターで土を耕す
8/25	土を耕し、ほうれん草の種まき	ブドウの剪定、土を耕す
8/26	ブルーベリー収穫・選別	
8/27	レポートの案を出す	レポート作成
8/28	報告会	倉敷観光
8/29	吉備中央町を去る	

【活動内容】

- ぶどうのビニール取り・枝おろし

吉備高原ファームでぶどうの木の上にかけてあるビニールを取る。風通しを良くする事と、葉に直接日光を当てるためである。また枝おろしでは、日光が当たっていない葉がな

く平等に当たるようにする。



- トウモロコシの収穫・選別

朝の4時半に起床しまだ寒くて、暗い中露に濡れながら収穫を手伝った。おじさんたちは手慣れていて片手でどんどん収穫していく中、ぼくらは両手を使い下手なりに頑張った。選別では、虫が入っていないか、形は悪くないか、自分がもしこれをもらった時に納得できるかを考えながらの作業だった。どうせ自分が食べるのではないからと適当にやるのではなく、地味な作業かもしれないがここが最も重要で見落としやすいポイントではないかと思った。また草刈り体験もした。

- 片山様宅

ピオーネの剪定は、他の家では普通冬にやるものらしいが冬だと枝が硬くなり切りにくいという事で今の時期にした。剪定をしながら枝に虫が入っていないかも確認した。ただ一つの事を何となくやるのでなく、他の事も見られて一人前だと思う。1WAY3JOB、1回の動作で3の仕事をして帰ってくる。例えばこの剪定なら袋に包まれていない形が悪く小さい実を切る。これで3の仕事になる。日々自分ができる最善の策を考えていく。この大切さを改めて肌で体験することができた。

土を耕す・種蒔き作業で簡単に機械を使っているように見えても実際してみると難しいものばかりだった。地道な反復作業があってこそその技術である事がわかった。



白菜の芽の成長が遅れているのを取る。機械で植えるため成長しないのまで植えてしまふからである。この種を植える事もした。これもいろいろな機械を使ってした。



川合神社祭りでは毎年歌舞伎などのわらや竹で作った人形に紙の衣装を着させた「だし」と呼ばれる人形を奉納している。また踊り方がわからなくてもみんな自然と溶け込んで踊れるのも特徴である。



● ブルーベリー収穫体験

何でも取っていい訳でなく、加工にするのかそのまま出荷するのかも違ってくる。また収穫したものは傷があったり小さかったりするので1個1個選別する必要がある。この作業は本当に繊細な作業だと思った。



【参加動機・成果】

一般の会社にインターンシップに行くのが普通だが、これといって体験したいものもなく、迷っている時学校の掲示板で見つけた。普段から農業には興味はあるが、実際それで生きていこうと思うと収入が不安で一步前に踏み出せなかった。というのも田舎が愛媛でみかん畑を経営していて話を聞くと全然もうからないらしい。そんな話を聞いて現在の不況の時代を生き抜く自信がなかった。そんな時にこれを見て是非農業体験してどのように暮らしているのか見たかった。また学校で町づくりの勉強もしているので参考にしたいと思って応募した。岡山県吉備中央町を選んだ理由としては交通費が自腹で遠くまで行きにくかった。また体験内容が農業中心であった。実際この2点から選んだ。始めはこんなあいまいな考え方だったんですが実際体験して、思ってもみなかった新しい発見がたくさん

ありました。まず吉備高原ファームの方々と出会い、農業は会社のように大勢の人が集まって、さらに工場と一緒に経営するのもありなんだと思いました。農業は農業だけで家族で経営するのとばかり思っていた自分には思いもつきませんでした。また話を聞くと脱サラで農業を始める人もいるらしくその人は、喫茶店を運営しながらでした。農業公社では農業をしたい人を集めて教える制度があって、独学で始めるのは難しいと思うのでこのような制度は食料自給率の低い日本には必要な事だと思った。

【提案】

百姓王国と言っても看板が立っているくらいで面白みに欠けると思うので、スタンプラリー制度を導入して子供でも楽しみながら農業見学できたらいいと思う。

加茂川町と賀陽町が合併した割に町民同士の交流が少ないと思うので、スポーツ大会や合併記念祭り、交流推進委員会など設けたらいいと思う。

地域のニーズがあまり満たされていないと思ったので、気軽に意見できるように目安箱を置くのもありではないかと思います。

身障者でも収穫体験できる所があるがそれを町全体でやれば、本当の福祉の町としてたくさん人が集まると思う。そのためには健常者もそうですが体験していただいた方に意見を求めていくといいと思う。

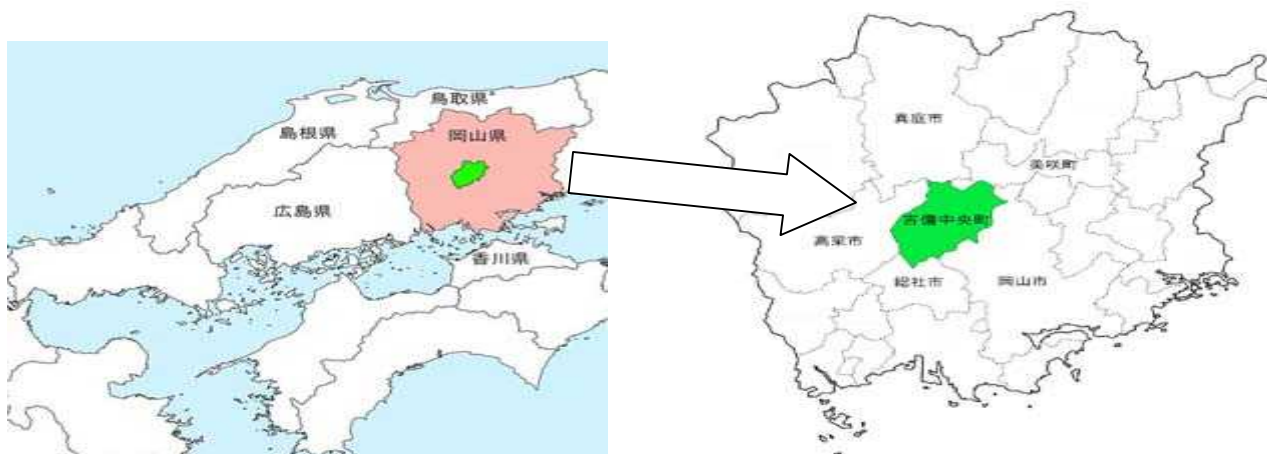
平成21年度 若者の地方体験交流支援事業報告書

岡山県吉備中央町 体験期間 8月16日～8月29日

立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科3年 河原孝行

派遣地域の概要

平成16年10月、賀陽町と加茂川町が合併し吉備中央町が誕生した。吉備中央町は岡山県の中央に位置しており岡山市・総社市・高梁市・真庭市・美咲町に隣接し、いずれも通勤圏内である。地形は中国山地と南部平野の中間にあたり標高100m～500mの高原地帯であり、気候は冷涼。加えて、緑や自然が豊かで過ごしやすい。こうした自然環境を活かし、水稻・果物・高原野菜などを栽培していて、農業を主に基幹産業としおり、『農業立町』を推進している。空気は都会に比べはるかに澄んでいて、全国4位である星空は一見の価値がある。一方で、吉備中央町も全国の農村地域の例にもれず、過疎化が進んでいる。人口13736人(平成20年4月現在)は、昔と比べて減少しており人口流出がとまらない。農業従事者も減っており、後継者不足が懸念されている。(下記の図は吉備中央町HPより)



参加動機

私が地域づくりインターン事業に参加したのは、農業で職業体験ができて、なおかつ自分が専攻する学科のテーマである「まちづくり」を農業主体で考えることは、疲弊している日本の農村地域の課題を見直すことと同義であり非常に有意義であると考えたからである。また、「まちづくり」を大学の講義中、机上で考えるだけでなく、実際にフィールドワークとして肌で体感したいとも考えていたことも一因だった。それは実際に体感しなければ分からない地域なりの実情・課題・疑問点があるはずだという信念による。以上の理由から絞った結果、吉備中央町の募集要項と私の志望する体験事業が多く合致していたので当該地域を希望した次第である。

スケジュール&体験内容

	体験内容	宿泊先
8月16日	鍾乳洞見学	山本陽子様宅
8月17日	町内視察	山本陽子様宅

8月18日	ぶどう農園のビニール取り&枝下ろし	山本陽子様宅
8月19日	トウモロコシの収穫&選別&配達 乗用芝刈り機の試乗	山本陽子様宅
8月20日	トウモロコシの収穫&選別 ジャガイモの梱包	山本陽子様宅
8月21日	ぶどう農園のビニール取り&枝下ろし ジャガイモの配達	山本陽子様宅
8月22日	加茂川円城の見学(岩倉山・円城寺) ピオーネ(ぶどう)の剪定	片山紀彦様宅
8月23日	農業組合対抗ソフトボール大会に参加 優勝 川合神社祭りを 見学	片山紀彦様宅
8月24日	白菜の苗植え ピオーネ(ぶどう)の剪定 トラクターを操縦 し土壌を耕す	片山紀彦様宅
8月25日	ほうれん草の種まき ピオーネ(ぶどう)の剪定 キャベツ畑 の土壌を耕す	片山紀彦様宅
8月26日	ブルーベリー収穫&選別	藤原守様宅
8月27日	報告書作成	鴨崎様宅
8月28日	報告会	鴨崎様宅
8月29日	帰宅	

活動内容紹介



ぶどう農園のビニール取り



ジャガイモの選別



トウモロコシの収穫



トウモロコシの選別

私たちが滞在した期間、農業はそれほど忙しくなかった（農繁期ではなかった）為、作業自体に大変なものはあまりなかった。ただし、トウモロコシの収穫日は朝4時30分起床、5時00分から収穫とハードな日程だった。農家の人は日の出とともに活動を始め、日の入りくらいに仕事が終わるのかなと勝手に思い込んでいたがとんでもなかった。夜明けを待たず、薄暗い中からトウモロコシをポキポキと採り、収穫した後に朝飯というから驚きだった。しかし、それもそのはず。収穫した鮮度の良いものをその日のうちに出荷しようとするなら、そうしなければ間に合わないのだ。

ピオーネ（ぶどう）の剪定や、ぶどう農園のビニール取りは地味な作業だが労の伴う作業だった。ぶどう農園は法面に作られていることが多いため、端から端への移動だけでも大変だった。また、剪定作業と同時に、蛾の幼虫が木に寄生していないか枝を細かくチェックしていくのも骨が折れる仕事だった。しかし、それをしないと木が侵され、全く使い物にならなくなってしまうというので、チェックは怠れないという。



トラクターを操縦して畑を耕す



キャベツ畑を耕す



ブルーベリー収穫



ほうれん草の種まき

トラクターを操縦することは難しそうに見えるが、以外に簡単だった。ただし、切り替えしや方向転換は難しかった。細かい操作はやはり慣れが必要だなと感じた。逆に、右上の写真は手動の機械を使ってキャベツ畑を耕しているところであるが、これは、簡単そうに見えて難しい。登りの斜面は幾らか楽だが、降り斜面はハンドルを持っていかれる。私たちは力で抑えようとするが、おじいさん曰く、「そ

んなに力は要らないよ。それは余分な力が入っとる。」とのこと。ブルーベリー収穫は小さな実を一つ一つ採らねばならず、根気の要る作業だった。ほうれん草の種まきは、なんととっても、真っ直ぐ進まない。おじいさんはスイスイやっていて、傍目から見ると簡単そうなのだが。百見は一行に如かずといったところか。

地域への提案

吉備中央町で2週間、見て・聞いて・感じたことを振り返って、地域活性化を促進するための3つの提案を述べる。

吉備中央町は「農業立町」を推進しているだけあって、農業公社のニューファーマーズ制度・体験農業の受け入れもしっかりしている。これらを利用して新規就農する人々のために奨学金制度を導入する。これは独立してから事業が起動にのるまでを対象とする。ぶどうを育てるにしても木が生長するまで少なくとも2～3年はかかる。それまでの間、生活や自立を補助することを目的とする。農業を目指す若者がどういう農業をしたいか学ぶ制度をつくる。例えば、吉備国際大学に農学部を設置するとか、近くに農業短大・農業専門学校を新設するなど。これらを修了した者はニューファーマーズ制度に優遇される等の政策をとる。メリットとして、若者が集まり斬新敵なアイデアが生まれる。新規就農者が増え、休閑地を有効活用できる。

農業体験は必然的に長期滞在になる。そこで、それを利用しながら滞在型観光できる仕組みをつくる。吉備中央町はどこの町へも訪れやすい。吉備中央町を軸に観光を促すことはできないか。

地域づくりインターンに参加して

正直にいうと、吉備中央町に実際に来るまでは、今回のインターンに参加が決定した後でも農業にはそれほど関心がなかった。しかし、インターンに参加する前と後でこれほど農業に対する姿勢が変わるとは予想していなかった。というのも、今私たちは職業を選択する自由が与えられているわけだが、来る前は農業を職業にするなどと考えたことはただの一度もなかった。小さい頃から農業に関わることもなく生きてきた私にとって、農業を職業になどと考える機会すらなかった訳だ。しかし、来た後では、農業で、特にここ吉備中央町で暮らしを立てるのも一考かな、程度に態度が軟化している。農業体験を通じて、それほど農業というのは悪いものではなく、結果的に虐げられているといえる現状は見直されるべきだと感じた。むしろ、食料危機が懸念される昨今にあっては重要な産業の1つに数えられていいはずだ。

さて、吉備中央町はその地形の利と冷涼な気候を活かして、最適な農作物であるぶどう（主にピオーネ）をメインに栽培し農業立町として成り立っている。しかし近年、若者の農業離れ、人口流出が目立ち、必然的に後継者がいないなどの深刻な問題が増えている。対策として、農業公社が新規就農者を募ったり、農業体験を盛んに受け入れたりする体制を整えている。これはこのまま続けていくべきだと思う。農業は実は魅力的な産業であると肌で感じてもらうことが大切だ。それが、ひいては農業立町である吉備中央町の魅力を認識することにつながるだろう。

最後に、担当だった根元さん、戸田さん、受け入れ先の皆様、大変お世話になりました。吉備中央町で過ごした2週間で僕は忘れることはないでしょう。お陰さまで吉備中央町が大好きになってしまいました。僕に出来る範囲でこれからも吉備中央を応援していきたいです。

徳島県美馬市

体験内容（受入レポートから）

カヤック体験及び教室補助
阿波踊り見学、体験
産直市手伝い
穴吹川筏下り大会への出場
林業体験(間伐作業等)
農業体験(野菜収穫等)
炭焼き、そば打ち体験
各種交流会への参加

報告者

市町村 : 花岡 正昭（ふるさと振興課）
体験調査員：小栗亜也奈（立教大学）
布戸百合子（立教大学）

平成21年度 若者の地方体験交流支援事業

徳島県美馬市受入レポート



担当：美馬市役所ふるさと振興課 花岡 正昭

受入期間	平成21年7月29日(水)～8月14日(金)	17日間
体験調査員	布戸 百合子 立教大学 観光学部	3年
	小栗 亜也奈 立教大学 観光学部	3年

美馬市の概要

美馬市は、人口33,459人(平成21年8月1日現在)で、2005年3月1日に美馬郡内の脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村が合併してできた、豊かな自然と数多くの文化財が残る歴史情緒あふれるまちです。徳島県の西部(県都徳島市から40km)に位置し、西側が三好市、美馬郡つるぎ町と、北側が阿讃山脈の山頂で香川県と、東側が阿波市、吉野川市、名西郡神山町と、南側は那賀郡那賀町と接しています。



市のほぼ中央を東西に四国三郎「吉野川」が流れ、穴吹川など幾多の川が吉野川に流れ込み、その沿岸の平野部が主な可住地となっています。北側の阿讃山脈、南側の剣山をはじめ、ほとんどが山地で、総面積の約8割が森林となっており、清らかな水と豊かな緑に囲まれた自然の美しい地域です。

受入の目的とねらい

美馬市は四国のまほろば・誰もが住みたくなるまちづくりを目指しています。しかし、住み慣れた環境・日々の生活の中においては、自然豊かで素晴らしい生活環境であることを忘れがちです。都市部に住む若者が、今回の地域住民・自然とのふれあい、体験交流を通して感じたことを提言いただき、美馬市のまちづくり・活性化に役立てる事ができればと考えています。また、今回の出会いを通じて、我が美馬市を第二の故郷と感じて頂けたら幸いです。

受入の内容

- ・ カヤック体験及び教室補助
- ・ 阿波踊り見学、体験
- ・ 産直市お手伝い
- ・ ツリーハウス見学
- ・ 各種交流会
- ・ 穴吹川筏下り大会への出場
- ・ 間伐作業等の林業体験
- ・ 野菜収穫等の農業体験
- ・ 炭焼き、そば打ち体験
- ・ 市内及び近隣の観光地等への視察
- ・ 市内各所での民泊

スケジュール

日付	時間	体験内容	実施場所
7月29日(水)	午後	来庁・市長訪問・あいさつ・打ち合わせ	市役所
	19:00	歓迎会	市内
7月30日(木)	9:00	観光農園補助	市内
	10:00	市内視察(観光施設・史跡・うだつ・穴吹川)	市内
7月31日(金)	終日	カヤック体験	吉野川
8月1日(土)	午前	穴吹川筏下り大会筏搬入	穴吹川
	午後	サッカーホームタウンゲーム受付手伝い	鳴門市
	18:30	サッカー観戦	鳴門市
8月2日(日)	10:00	穴吹川筏下り大会出場	穴吹川
	15:00	美馬市青年団交流会	穴吹川
	19:00	AMEMBO 交流会	四国三郎
8月3日(月)	午前	カヤック体験	吉野川
	午後	AMEMBO 運営会議参加	事務所
8月4日(火)	午前	木屋平地域視察・林業体験	木屋平
	午後	剣山登頂	剣山
8月5日(水)	午前	SEGC 環境の森視察	木屋平
	午後	寺町・うだつの町並み見学(ガイド付き)	美馬・脇町
8月6日(木)	終日	徳島県三好市観光	三好市
8月7日(金)	10:00	農業体験	野田ノ井地区
	16:00	地域視察	野田ノ井地区
8月8日(土)	午前	産直市手伝い	野田ノ井地区
	午後	炭焼き体験・そばうち体験	野田ノ井地区
8月9日(日)	午前	休息	美馬
	午後	AMEMBO 手伝い カレー作り	四国三郎
	18:30	阿波踊り体験	四国三郎
8月10日(月)	終日	流しそうめん、竹細工制作	四国三郎
8月11日(火)	終日	ツリーハウス制作見学	美馬
8月12日(水)	10:00	報告書作成	市役所
	17:00	徳島市内阿波踊り見学	徳島市
8月13日(木)	9:00	報告書作成	市役所
	15:00	報告会	市役所
	18:00	送別会	市内
8月14日(金)	9:00	市長訪問、あいさつ	市役所
	10:00	美馬市出発	

活動内容の紹介

筏下り大会出場・カヤック体験



「第23回穴吹川筏下り大会」に選手として出場をしました。四国一の清流を船でなくカヤックでもなく筏で満喫しました。クルー全員で力を合わせて完走。



カヤックは、日本三大暴れ川の一つであり、四国三郎の異名を持つ「吉野川」で体験を行いました。難しいようで、コツをつかむと簡単に操ることができ、体験調査員もカヤック教室のサポートをしたりして、川を身近に感じていま

した。

農林業体験



間伐の必要性を確認



収穫・植え



各地域視察・見学



報告会・交流会



受入に対する苦勞・留意した点

今年度2年目ということで、まず第一に昨年度と同じことをするのではなく、昨年度以上のものにしたいと考えました。

しかし、今年度予定していたイベントが急遽中止になったことにより、受入期間の変更を余儀なくされました。このことにより、体験調査員決定から受入開始までの期間がほとんど無くなってしまい、とまどいました。しかし、昨年度もお手伝いいただいた実行委員の積極的なサポートによって、無事受入準備ができました。そして、お客さんとしてではなく、地域の一員として捉え共に行動し、考えられるようにということを心がけました。

受入に対する評価・成果

限られた時間の中で、準備を行い受入を開始したことで、お互いに準備不足という点が多少あり、その中でスケジュール的に短期間であったにも関わらずメニューを詰め込みすぎたという反省点がありました。しかし、体験調査員と共に事業の推進は図られたと思います。

詳細については、まず受入側である実際に体験調査員と触れ合った市民からは、「若い感覚を持った人と共に様々な取り組みをすることで、地域の「良い点」「悪い点」の再発見ができた」という感想もいただいています。これは、普段の生活の中では感じられないものだと思います。

また、受入を行った自治体としても、事業を通して地域の人との更なる連携も図ることができ、また報告会で提言いただいた点についても、真摯に受け止めこれからのまちづくりの改善点として、取り組んで行くことができたと考えています。

体験調査員については、本当に驚くような「田舎」だったと思いますが、しかしそこには「人」が住み、多種多様な形で生活しているということを少しは肌で感じてもらえたと思います。短期間ではありましたが、本当に様々な事を体験し、学んでいただけたのではないかと考えています。

全体的に、この事業を通じて体験調査員とともに活動し、考え・交流し、楽しめたことにより少なからず地域の一時的な活性化は図れたと考えます。やはり、何をするにしても「人」がいないとできない中で、地域・年齢・習慣を越えて一時的ではあるが同じ美馬に住むものとしての繋がりが生まれたことが一番の成果だと考えています。

今後の期待・展望

今回の事業はきっかけの一つだと思います。このきっかけをどう活かしていくかということが一番大切です。昨年度の提言について本当に検証できたかということ、施策への反映や行政運営への活用等が不足していたと思います。今回の提言も含めて、「四国のまほろば美馬市」を目指し、市民と共に誰もが住みやすいまちづくりを進めていきたいと思っています。

また、昨年度2人、今年度2人の「美馬市サポーター」ができたと思っています。4人のサポーターは、普段の生活において人と人との繋がりの中から美馬市を発信し続けてもらえると思っています。

そして、このきっかけをもとに、誰もが住みたくなるまちづくりを継続し、短期間ではなく定住したいという若者が出てくることを期待します。

平成21年度 国土交通省 若者の地方体験交流支援事業
地域づくりインターン 体験調査レポート

立教大学交流文化学科3年 小栗亜也奈
派遣地域：徳島県美馬市
派遣期間：7月29日～8月14日



1. 美馬市概要

2005年に脇町・美馬町・穴吹町・木屋平村が合併してできた。

基本情報

- ・人口：33459人（平成21年8月1日現在）
- ・面積：367.38km²
- ・将来像：四国のまほろば美馬市～誰もが住みたくなるまちを目指して～
*「まほろば」とはすばらしいところ、住みよいところを表す古語。
- ・気候：瀬戸内型気候であり、年間を通じて比較的温暖。

2. 体験内容

- ・市内視察
- ・カヤック体験
- ・ツリーハウス制作
- ・筏下り大会への参加
- ・農業体験
- ・林業体験
- ・阿波踊り体験
- ・サッカー観戦（地元チームの応援）
- ・産直市手伝い



3. スケジュール

日付	体験内容	宿泊先
7月 29日（水）	美馬市到着後、美馬市長に着任挨拶 歓迎会	藤川邸

30日(木)	市内視察	藤川邸
31日(金)	AMEMBO にてカヤック手伝い カヤック体験	藤川邸
8月 1日(土)	筏搬入手伝い 四国ダービー(サッカー観戦)	浪越邸
2日(日)	筏下り大会参加 青年団交流会 BBQ	四国三郎の郷
3日(月)	カヤック体験	浪越邸
4日(火)	木屋平地区視察 林業体験、剣山登山	平成荘
5日(水)	SGEC 環境配慮の森視察 寺町周辺、うだつの町並み散策	武内邸
6日(木)	休日	小笠邸
7日(金)	野田ノ井地区にて農業体験	梶浦邸
8日(土)	産直市手伝い 炭焼き体験、そば打ち体験	松本邸
9日(日)	AMEMBO 手伝い(カレーライス作り) 阿波踊り体験	藤川邸
10日(月)	AMEMBO 手伝い(流しそうめん) 竹とんぼ作り	高本邸
11日(火)	休日	高田邸
12日(水)	報告書作成 阿波踊り(徳島市)	藤川邸
13日(木)	報告会 送別会	藤川邸
14日(金)	帰宅	

4、体験内容

1. カヤック体験

吉野川でのカヤック体験。
とても難しそうにみえましたが、
意外とすぐに乗れるようになりました。



筏下り大会

穴吹川での筏下り大会。青年団の方と
一緒に参加させてもらいました。結果
は31位でしたが特別賞を頂きました。



農業体験

ピーマンの収穫とレタスの苗の植え替え
をさせていただきました。ほんの少ししか
手伝っていないのにすごく大変で、普段何気
なく食べている野菜がこうした農家の人た
ちの苦勞でできていることがわかりました。



林業体験

木屋平地区で林業体験をしました。
実際にチェーンソーで木を切ったり
重機にのせていただいたり、間伐を
行うことで森を守っているというこ
とを初めて知りました。



阿波踊り

美馬市での阿波踊り体験に加え、徳島市で
の阿波踊りにも連れて行っていただきました。
様々な連があって非常におもしろかつ
たです。とても小さな子供も踊っているの
で簡単なのかと思いきや、実際少し踊っ
てみるととても難しかったです。

5、参加動機

私は出身が名古屋で、今は関東の大学に通っています。そのため、昔から周りにあまり自然がない環境で育ってきました。そのためか、自然に対する憧れが非常に強いです。今回、この事業を知ったときに、自然がたくさんあふれている、いわゆる田舎とよばれる地域が、自然とどのように共生して地域づくりをおこなっているのか、非常に興味をもち、参加してみようと思いました。

6、地域への提案

17日間様々な体験をさせていただいて、美馬市には都会の人々が憧れるような理想の夏休みがあると感じました。そんな理想の夏休みが待っている美馬市となるために、私たちが考える改善点は以下の7点です。観光対象年齢層の拡大、宿泊施設の確保、交通手段の整備、PRにもっと力を入れる、インドアのプログラムの内容の充実、木屋平地区へのアクセスの利便化、中山間部におけるプログラムの充実です。実際に色々な体験をさせていただいて、観光の内容が元気で体力のある若者向けのものが多いと感じました。もう少し幅広い年代の人が楽しめるプログラムを作ることで、さらに観光客を誘致することができると思います。また、宿泊施設もキャンプ場や現在すすめている民泊ネットワークに加え、例えばうだつの町並みの空いている家を改築して民宿にするなど、滞在拠点となるような宿泊施設を確保することが大事だと思います。さらに、美馬市は4町村が合併していて非常に広いので、観光客にとっては移動手段が問題となります。そこで、観光ルートを作り周遊バスを作ることによって、観光しやすい環境を作ることが大事だと思います。また、PR力不足も課題だと思います。美馬市には、四国一の清流の穴吹川や、吉野川など素晴らしい自然がたくさんあるのに、あまり知られていないのが現状です。穴吹川をブランド化することができれば、非常に強みになると思います。さらに、観光のプログラムが、カヤックや川遊びなど外がメインのものが多いので、それに加えて、インドアのプログラムの内容を充実させることで、雨の日の対策にもなるのではないのでしょうか。また、木屋平地区へ向かう道は非常に狭く、今後観光客を誘致していくうえで、観光バスも入れるような道の整備など、アクセスの利便化を図ることが求められると思います。また、美馬市は川だけではなく、山もたくさんあります。その山間部でもっと様々な観光プログラムを作ることで、さらに魅力的な観光地となるのではないのでしょうか。

7、最後に

17日間、毎日毎日初めて体験することばかりで、本当に充実した日々を送ることができました。美馬市の皆様、本当にありがとうございました。今回、宿泊先が様々で、色々な方にお世話になりました。そのため、たくさんの人と出会い、話をすることができ、それがとても楽しかったです。これからもよろしく願います。

地域づくりインターンシップ体験調査員レポート

派遣地域 徳島県美馬市

派遣期間 7月29日～8月14日(17日間)

立教大学観光学部交流文化学科 3年 布戸 百合子

派遣地域の概要



美馬市は 2005 年に脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村の三町一村が合併して出来た、徳島の北西に位置する市である。総人口は 32,459 人(2009 年 8 月)、市の中央を流れる吉野川、穴吹川をはじめとする川、剣山や竜王山などの山、木屋平地区の森林など自然に恵まれており、総面積の八割を森林が占める。また「うだつがあがる」という言葉の語源となったうだつの町並みや寺町、壇の塚穴など歴史や文化においても多彩な特色を持つ市であると言える。

気候は瀬戸内型気候に属するために比較的温暖であるが平野部と山間部は寒暖の差が激しく、山間部では涼しい気候を利用した夏季の蘭の育成なども見られた。

今もなお、四国遍路の風習「お接待」が息づいており、住民の方々は訪問者を手厚くもてなし非常に親切である。

体験内容

・ツリーハウス見学 ・カヤックや自然教室のお手伝い ・カヤック体験 ・美馬市内および近隣の観光視察 ・四国ダービー観戦 ・筏下り大会参加 ・うだつの町並み視察 ・林業体験 ・剣山登頂 ・SGEC 環境配慮の森視察・農業体験・産直市のお手伝い ・炭焼き体験 ・阿波踊り体験 ・徳島市内阿波踊りの視察・民泊での宿泊

スケジュール

	日付	午前の活動	午後の活動	宿泊先
1日目	7月29日	移動	・市長室にて着任挨拶 ・ツリーハウス見学 ・歓迎会	藤川さん宅
2日目	7月30日	美馬市内観光視察 ・ AMEMBO 観光農園・四国三郎 ・ 郡里廃寺跡・寺町・段の塚穴 ・ 脇町キャンプ場・恋人峠 ・ 寺町・うだつの町並み ・ 穴吹川		藤川さん宅
3日目	7月31日	カヤック教室手伝い	AMEMBO にて会議	藤川さん宅
4日目	8月1日	筏の搬入	四国ダービー観戦	浪越さん宅
5日目	8月2日	筏下り大会参加	青年団交流会	四国三郎の

			郷	
6日目	8月3日	カヤック体験		浪越さん宅
7日目	8月4日	林業体験	剣山登頂	平成荘
8日目	8月5日	環境配慮の森視察	寺町、壇の塚穴視察 うだつの町並み視察	武内さん宅
9日目	8月6日	三好市観光視察 ・かずら橋・秘湯温泉・祖谷そば・小便小僧		小笠さん宅
10日目	8月7日	農業体験 ・野田の井周辺視察 ・観光農業見学		梶浦さん宅
11日目	8月8日	産直市のお手伝い	炭焼き体験 そば打ち体験	松本さん宅
12日目	8月9日	資料の整理 話し合い	カレー作り 阿波踊り体験	藤川さん宅
13日目	8月10日	流しそうめんお手伝い	竹とんぼ教室お手伝い	高本さん宅
14日目	8月11日	ツリーハウス制作見学	夕食会	高田さん宅
15日目	8月12日	報告書作成	徳島市内阿波踊り視察	藤川さん宅
16日目	8月13日	打ち合わせ	活動報告	藤川さん宅
17日目	8月14日	お礼のご挨拶	帰宅	-

活動紹介

AMEBOでの活動

【AMEMBOとは】



AMEMBOは美馬市地域づくりインターンの主な受け入れ先である。「元気なまちづくりを考え、参加し、全国に誇れる活動・場を創造しよう！」を合言葉に、市民が主体となり他県にはない雄大な自然を生かした美馬市の町づくりを推進することを目的に活動している。

『三代代が自然の中で、共に学び、育む場を創る事による野生化計画の推進』のために吉野川でのカヤック教室や森林でのツリーハウス作製など自然を生かした多彩なプログラムを用意、探求している。

【カヤック教室】

AMEMBOでは、四国三郎として有名な吉野川でのカヤック教室が行われている。私たちは美馬市に滞在するなかで三回ほどカヤックに乗る機会をいただいた。カヤック教室では吉野川の本流だけではなく脇の小川や、岩場に行くこともできる。カヤックで上流までさかのぼる教室のなかで、外から眺めているだけでは分からない吉野川の様々な表情や魅力を、身を持って体験することができた。またカヤック教室を目的に香川や大阪など他県からの団体客も訪れており、他の県にも吉野川の魅力が知られていることが分かった。高齢者や小学生も参加し、上流までのカヤッキングを楽しんでいたのが印象的であった。

【ツリーハウス】

AMEMBO ではツリーハウスの森にツリーハウスの建設を行っている。私たちが滞在している間にも二組のグループの子供たちがツリーハウスの建設をプログラムに組んだキャンプに参加していた。子供の力だけは難しいツリーハウス建設であるが、AMEMBO の方々が子供たちの意見を取り入れ、子供たちに出来る作業を作ることで子供たちも非常に楽しんでツリーハウス建設に参加していた。

右：カヤック体験



下：林業体験



木屋平地区での活動（林業体験・剣山登頂・環境配慮の森視察）

木屋平地区では林業体験と環境配慮の森の視察を行った。林業体験ではなかなか体験する機会のないチェーンソーでの間伐や重機での作業を体験させていただいた。また環境配慮の森には訪れた人が森林の大切さを楽しみながら理解できる工夫が多く凝らされていた。さらに剣山にも登頂し、美馬市の森林の豊かさをたっぷりと知ることが出来た2日間となった。

うだつの町並み見学・史跡巡り

うだつの町並みとは旧脇町が藍による商業で栄えた江戸時代から明治、大正頃の家屋の町並みであり、重要伝統的建造物地区として保存されている。430メートルにもおよび歴史的建造物が軒を連ねる様はそれだけでも壮観であるが、ボランティアガイドの方が丁寧に説明をしてくださったお蔭で、一つ一つの家の建築された目的や時代などが見えてきたことで何倍も楽しい、深みのある見学ができた。

寺町や壇の塚穴、郡里廃寺跡も市役所の方々に案内をしていただき、美馬市には古墳時代から近代に至るまで様々な歴史的財産があることがわかった。

野田ノ井地区滞在・農業体験

野田ノ井地区ではピーマンの収穫やレタスの芽の植え替えなどの農業体験と産直市のお手伝いをさせていただいた。私はレタスの芽を初めて見たのであるがとても小さく、驚き、普段は見る事のない野菜や土に触れることはとても勉強になった。都会の隅の小さな畑ではなく、空が近く心地よい山間で行う農作業は清々しかった。



左：野田ノ井で農業体験

右：うだつの町並みにて



参加動機

私は観光地として有名である横浜で生まれ育ったために今まで「観光事業というのは簡単なものだ」とどこかで思っていた。しかし大学で観光学を専門に勉強するようになり、その地域の魅力を生かし観光で成功する難しさと大切さを痛切に感じるようになった。そこで地域づくりインターンの活動内容を確認した際、地域の魅力である川などの、自然を生かした活動内容が多い美馬市に興味を抱き、希望させていただいた。

体験の成果

今回の発表で私たちは大きな提案を一つ、その提案を更に分けた細かな提案を7つした。それらが美馬の方々にとって全く新しい視点からの意見となったとは思えず、悔しさと反省が残る結果となってしまったことを非常に残念に思う。しかし発表の場に集まった様々な団体の方がお互いの補うべき点や長所に気付くことやそれを共有する機会になった点はよかったと思う。

提案

大きな提案：地域で一貫したコンセプトの設定

私たちの考えたコンセプトの例：「理想の夏休みが待っている美馬市」

私が美馬市で過ごす中で強く感じたことは、美馬市には、もし親戚がいるといった条件がなければ体験できないが、私たちが心の中で憧れる田舎の夏休みの要素が全て詰まっているという点である。ゲーム「ぼくのなつやすみ」や映画「サマーウォーズ」の舞台のような田舎の夏休みは都会に住む人々の憧れの対象である。美馬市には山、森、川、キャンプ場などレジャーを楽しむ場所が多くあり、吉野川や清流穴吹川は特に優れた資源である。さらに自然だけではなく、民泊システムによって「田舎のおじいちゃんおばあちゃんの家像」そのままの大きく、伝統的な家に泊まることができ、憧れの夏休みの要素を全て体験することが出来る。

さらにそれらの要素を美馬市に訪れる観光客がくまなく楽しめるように提案した細かな提案が、1.対象年齢層の拡大 2.宿泊施設の確保 3.交通手段の整備 4.PRの強化 5.インドアのプログラムの強化 6.木屋平地区へのアクセス利便化 7.中山間部におけるプログラムの充実の7点である。これらは現在の美馬市にはアウトドアや民泊など、若くアクティブな層の観光客に向けたプログラムや宿はあるものの、お年寄りや小さな子ども、その母親に向けたプログラムや宿、雨天時の対策などが十分ではないために家族みんなで訪れることが難しいのではないかという点に起因するものが多い。

最後に

美馬市の皆様、17間本当にありがとうございました。美馬の方は皆様本当に暖かく、親切で、地方に親戚のいない私にとって美馬市は本当に第二のふるさとであると勝手に思っております。皆様に出会い、かけがえのない経験を得ることが出来たことを本当に感謝しております。ありがとうございました。また美馬に帰ってくることもあると思います。そのときはどうぞまた娘や妹のように私を迎えてやってください。

長崎県南島原市

体験内容（受入レポートから）

市内及び島原半島の観光資源視察
農業体験（野菜の収穫、トラクター操縦など）
漁業体験（タコつぼ漁など）
民泊体験（農家、林業宅への民泊）
市内のお盆体験（精霊流し、お墓参りなど）
市内の遺跡視察（原城跡、日野江城跡など）
市内イベントへの参加（スタッフとして、準備・運営など）

報告者

市町村　　：塩土　敬治（企画振興課）
体験調査員：川野　陽子（京都大学）
 ：鈴間　公子（立教大学）



平成21年度 若者の地方体験交流支援事業 (地域づくりインターン事業) 受入レポート

担当：長崎県南島原市役所 企画振興課 塩土 敬治

受入期間 平成21年8月10日(月)～平成21年8月25日(火)15日間
体験調査員 川野 陽子 京都大学農学部 森林学科 3年
鈴間 公子 立教大学観光学部 交流文化学科 3年
受入協力 民泊受入先：南島原ひまわり観光協会

【南島原市の概要】

南島原市は、長崎県の南部、島原半島の南東部に位置し、北部は島原市、西部は雲仙市と接しており、有明海をはさんで熊本県天草地域に面しています。

本市は、千メートルを越える雲仙山麓から南へ広がる肥沃で豊かな地下水を含む大地を有し、魚介類豊富な有明海及び橘湾に広く面する海岸線を持っており、気候は温暖で、適度な降雨量もあり、日照時間にも恵まれております。

また、本市には、日本で初めてヨーロッパの中等教育機関「セミナリヨ」が設置されました。その卒業生である「天正遣欧少年使節」が日本で初めてヨーロッパへ旅立ち、数多くのものを持ち帰り、当時は、国際交流の最先端の地として栄え、その後、幕府のキリシタン弾圧や重税から起きた一揆「島原の乱」は広く知られているところで、キリスト教と深く係わりのある地でもあります。

そのようなことから、ユネスコの世界遺産登録の国内候補暫定リストに、「長崎の教会群とキリスト関連遺産」が追加掲載され、その関連遺産に南島原市内の「原城跡」、「日野江城跡」、「吉利支丹墓碑」の3カ所も含まれました。

また、日本最初の国立公園である雲仙天草国立公園及び島原半島県立公園に指定されており、雄大な山々と美しい海を併せ持った風光明媚な地域です。

島原半島全域では、平成21年8月23日に島原半島ジオパークが、世界ジオパーク国内第1号に決定されました。

【受入目的】

本市においては、若者人口の流失により、自治会活動や地域活動の減少など、本市の基盤となる地域力の低下が進みつつあります。その対応策として、民泊・体験型観光や田舎暮らし推進事業の展開により、都市との交流を足がかりとし、民泊・体験型観光 短期滞在 長期滞在 移住といった流れを創りだす取り組みを行っております。

しかしながら、その事業内容については内部にて模索している状態であります。よって、本事業を通じて外部から見た本市の特徴や他の地域と比較して特化した点など、新たな感覚や視点での評価をしていただくことを目的としております。

【体験の内容】

- ・ 市内及び島原半島の観光資源視察
- ・ 農業体験（野菜の収穫、トラクター操縦など）
- ・ 漁業体験（タコつぼ漁など）
- ・ 民泊体験（農家、林業宅への民泊）
- ・ 市内のお盆体験（精霊流し、お墓参りなど）
- ・ 市内の遺跡視察（原城跡、日野江城跡など）
- ・ 市内イベントへの参加（スタッフとして、準備・運営など）

【体験スケジュール】

日程	時間帯	体 験 内 容	宿泊先
8/10（月）	午前		真砂（ホテル）
	午後	南島原市到着、歓迎会	
8/11（火）	午前	市内視察（民俗資料館など）	民泊（木下家）
	午後	地域見学（甲地区）	
8/12（水）	午前	農業体験（キュウリ発育確認、トラクター操縦）	民泊（木下家）
	午後	地域住民との卓球大会参加	
8/13（木）	午前	ひよつづる（わかめ麺）製造体験、新聞取材	民泊（菅崎家）
	午後	お墓参り、農業体験（野菜収穫）	
8/14（金）	午前	まんじゅう、スイカ、水汲み	民泊（菅崎家）
	午後	雲仙岳視察、農地見学	
8/15（土）	午前	イルカウォッチング、原城跡視察	雲仙館（旅館）
	午後	島原市内観光視察、精霊流し見学	
8/16（日）	午前	レポート作成	民泊（松尾家）
	午後	農業体験（農薬散布見学）	
8/17（月）	午前	農業体験（アスパラ袋詰め、選果場見学）	民泊（松尾家）
	午後	農業体験（アスパラ収穫）草履作り	
8/18（火）	午前	タコ壺漁見学、	民泊（松尾家）
	午後	長崎市観光視察	
8/19（水）	午前	日野江城跡発掘調査体験等	民泊（安達家）
	午後	農業体験（落花生収穫等）	
8/20（木）	午前	農業体験（オクラ収穫等）TV取材	民泊（安達家）
	午後	オクラを青果市場へ出荷	
8/21（金）	午前	青果市場せり見学	民泊（森永家）
	午後	雲仙普賢岳災害関係施設視察、MY箸作り	
8/22（土）	午前	林業体験（間伐作業等）	民泊（森永家）
	午後	ありえ浜んこら祭参加（スタッフとして）	
8/23（日）	午前	レポート作成	エコパーク論所原

	午後	レポート作成	(ケビン)
8/24(月)	午前	レポート作成、せりの換金	エコパーク論所原
	午後	報告会、送別会	(ケビン)
8/25(火)	午前	関係者への挨拶・調査員出発	
	午後		

【活動の紹介：抜粋】



トラクター操縦体験



地域住民(小学生との卓球大会)



アスパラ収穫



タコ壺漁



イルカウォッチング



収穫したオクラを前に



普賢岳災害校舎（旧大野木場小学校）



民泊受入先家族一緒に

【受入成果と今後】

本市としましては、今年で2回目のインターン事業になりますが、担当者が人事異動で変わり今回初めてこの事業に携わりました。当初は数多い派遣先の中で凄く交通の便が悪い当市への申込はあるのだろうかと不安もありましたが、多数の申込をいただき、びっくりいたしました。私自身初めてのことで調査員のお二人には、数多くのご不便をかけたのではないかと思います。

体験プログラムについては、1つでも多くの物を見て、体験していただきたいとの思いから、プログラムを詰め込みすぎて、お二人には慣れない土地、慣れない環境で生活を行なう中で、非常に疲れたのではないかと考えております。その反面、私たちにとっては、多くのご意見や沢山のアドバイスをいただくことができ、とても充実したものになりました。

今回の事業により、調査員が気づき感じられた事は、私たちにとってはごく当たり前のことでしたが、しかし、今回、それがいかに重要なことであるのかを再認識することが出来ました。今回のアドバイスを今後の地域づくりへ活かしていきたいと思っております。

調査員のお二人とは今後も連絡を取り合いながら、いろんな意見を伺い、都市における南島原市特派員としてご協力いただくようお願いしております。都市に強力な特派員ができたことは、南島原市にとってとても大きな収穫となりました。

長崎県 南島原市 地域づくりインターン報告書

2009年8月10日～25日

京都大学 農学部 森林科学科 3年 川野陽子



市の概要

南島原市は長崎県の南に位置し、島原湾に面している。面積は 170k m²、現在の人口は 53,590 人である。アコウとヒマワリがそれぞれ市の木と花である。平成 18 年に深江、布津、有家、西有家、北有馬、南有馬、口之津、加津佐の 8 つの町が合併し、南島原市となった。市には山と海の両方があり、農業・漁業とも盛んに行われ、自然に恵まれている。また、深江などは平成 3 年の雲仙普賢岳噴火により被害を受けた地域でもある。

特産物はジャガイモをはじめとする農産物や若布やアラカブ（カサゴ）などの水産物、島原手延べそうめんである。

平成 19 年 1 月に長崎の教会群とキリスト教関連遺産 26ヶ所が世界遺産暫定一覧表に登録された。そのうち 3ヶ所(原城跡、日之江城跡、切利支丹墓碑)が南島原市にある。また、島原半島には、雲仙火山など様々な地球科学的現象を観察できる箇所があるため、雲仙市、島原市とともに、ジオパークとして世界初の地質学的世界遺産を生み出そうという活動が行われ、先日正式に認定された。このように南島原市は世界遺産登録を目指し、観光地、民泊の整備に取り組んでいる。

参加動機 今、地方の過疎化や農業従事者の高齢化等が問題視されてきている一方、農業の重要性が再認識され始めている。情報としての理解だけでなく、現在の地方のあり方や第一次産業の現状を、実際に見て自分自身で経験し、考えてみたいと思った。都会で生まれ育った私が、地域の人々との交流や田舎暮らしを体験により、新しい視点から地域の魅力と問題点を考え出したいと思った。また、自分がどういった貢献ができるのかを試したいと思った。

山と海を併せ持つ地域ということで農業、漁業、林業の体験ができ、さらに地域の祭の運営、市内視察、民泊といった体験内容が豊富な地域を選んだ。



体験内容・スケジュール

- ・ 民泊 ・ 地域暮らし体験 ・ 農業 ・ 漁業 ・ 林業 ・ 特産品製造
- ・ 伝統行事見学 ・ 市内観光資源視察 ・ 近隣都市視察 ・ 地域の祭運営 etc

日程	午前	午後	宿泊先
8/10(月)	長崎市内観光	市内到着、市役所訪問、歓迎会	原城温泉 真砂
11(火)	民俗資料館、ひまわり畑、白浜見学	地域見学(甲地区)	木下家
12(水)	キュウリ作業、トラクター運転	地域住民との卓球大会	木下家
13(木)	特産品ひよつづる製造体験	お墓参り、野菜収穫	菅崎家
14(金)	饅頭作り、スイカ収穫、水汲み	雲仙岳観光、農地見学	菅崎家
15(土)	イルカ、原城跡、西望公園視察	島原市内観光、精霊船見学	旅館 雲仙館
16(日)	レポート作成	農業散布見学	松尾家
17(月)	アスパラ袋詰め、選果場見学	布草履作り、アスパラ収穫	松尾家
18(火)	タコ壺漁体験、	長崎市内観光	松尾家
19(水)	日野江城跡発掘調査、鮎帰りの滝	落花生収穫、牛見学	安達家
20(木)	オクラ収穫、袋詰め、TV取材	オクラを市場へ出荷	安達家
21(金)	せり見学	被災校舎見学、My箸作り、木の香、魚	森永家
22(土)	間伐見学、丸太切断、雲仙温泉	ありえ浜んこら祭参加	森永家
23(日)	レポート作成	レポート作成	エコパーク論所原
24(月)	せりの換金	報告会、送別会	エコパーク論所原
25(火)	市役所訪問、長崎市へ	帰宅	

* 活動紹介・農業体験 *



キュウリがまっすぐ育つように、茎を網に立て掛けて栽培している畑で、網と茎を固定する**テープ付け**を体験。

トラクターの運転(右上図) なかなかややこしい操作で、指示を受けながら歩くスピードで運転した。

収穫・スイカ(右下図)、アスパラ、オクラ、ゴーヤ、落花生、ナス、コショウなど

選別、袋詰め、ラベル付け・アスパラ、オクラ(左図)

市場へ出荷、選果場見学、せり見学、換金。



体験や農家の方とお話を通して、仕事の進み具合や収穫量が気象や生物の影響により左右されること、規定が厳しいこと、結果がでるまでに長期間必要なことなど、その大変さを知った。昼間を避けても、真夏に外やハウスで作業をするのはきついことだった。傷のつきやすい作物を1つ1つ丁寧に扱う作業は、集中力と技術力が必要であり、初心者が簡単にできることではないことを実感した。収穫したうち、虫食いや大きさが規定外のものを選別し商品にできるものは1/3だった。それらを大きさ別に袋詰めし、ラベルを付けて出荷する。翌日のせりにつけられた値段はスーパーで売られている値段の1/4だった。そこから手数料も引かれる。収穫から換金までを通して体験できたことで、労働に見合う給料ではないことを感じた。私たちが手伝うことで農家の方には手間と時間をかけてしまったが、こういった体験は日ごろ農業に接することのない人にとって、食についての理解が深められる大変意義のあるものだ。

* 活動紹介・タコ壺漁！ *

10m おきに 150 壺を回収。15 匹のタコが捕れた。壺に潜むタコ、壺から出てくるタコ、逃げるタコ(右図)、泳ぐタコを観察できた。小型漁船に乗れたことや、タコが餌として壺に入れていた魚も見られて楽しかった。体験型観光として商業化する場合、体験内容(タコの試食、タコの壺から水槽への移動)を増やせばなお良いと思った。



* 活動紹介・林業体験！ *



ヒノキ林内作業(左図) **My 箸作り** **木粉の香りあてゲーム**

林内では、間伐の必要性と手法を実際に作業をしながら説明してもらった。間伐が最近行われた箇所と放置されていた箇所との比較ができ、林床のコケやシダ類の違いに興味を沸かした。歩道の整備されていない林内は進みづらく危険だった。1本の細い木を間伐するのに時間もかかり、うまく倒れない場合もあった。この林の材木が商品になるのは半世紀後で、今の手入れは子孫のために行っているのだという。

* 活動紹介・特産品ひよつづつ作り！ *

長崎漁師生産組合にて製造見学、体験(右図)。ひよつづつとは、地元特産物ワカメでできた麺類である。この名前は、南島原の方言に由来する。特産物利用の成功例である。



* 活動紹介・日之江城跡 発掘調査！ *



日之江城は有馬氏の城であり、世界遺産登録を目指している箇所。文献は残るが絵図などが残っていないため、周辺ルートの解明が今回の目的である。発掘調査をしている方は、退職された方が多く発掘調査の楽しさなどを生き生きと語ってくださった。そこで生涯学習としても有効だと感じた。掘ると(左図)、土器の小片などが意外と多く見つけれ面白かった。

* 紹介活動・観光資源の紹介と見解 *



口之津歴史民俗資料館 この地域の多岐にわたる貴重な文化財や、日本全体の歴史に係る文化財が保存されている。展示物に近寄れること、写真撮影可能なこと、物によっては触れることができることにも、価値があると思った。館長さんの分かりやすい説明により理解が深まった。丁寧な解説があることで来場者の関心や満足度も高まると思う。ガイドの重要性を知った。今後の継続したガイドの育成が求められる。

ひまわり畑 観光資源として、1番強力だと思う。市と市民とが協力してひまわり畑を作ることで市のイメージアップにも繋がる。この広大で魅力的なひまわり畑を、原城跡や海岸、資料館などの史跡やその他観光スポットを結ぶように点在させる「**ひまわりドライブウェイ**」を提案したい。



イルカウォッチング 野生のイルカを間近で見られる体験は貴重である。何頭ものイルカの数に感激した。イルカについての紹介や、近海についての説明などがあれば、さらに満足のいく体験となると思う。問題点として、たくさんの船がエンジンや歓声といった大きな音をたてながらイルカを追い回すことには、自然や生物への配慮が足りないと感じた。ある程度の距離を保つことや、隻数の制限をすべきではないだろうか。また、船酔いで苦しむ観光客が見られたが、ビニール袋や休憩室などの設置が不十分であった。起こりうる多様な事象の想定が必要であろう。



原城跡 (左図) 日本を鎖国に導いた島原の乱の主戦場。有名世界遺産暫定リストに含まれるように、日本を代表する文化財である。原城文化センターでは、乱に関する歴史、キリシタン文化について学べた。原城跡内の整備、ガイド育成が求められる。

精霊流し・お墓の飾りつけ・お祭り 伝統行事としてこれまで続けてきたことに加え、地域の人々が一団となってこのお祭りを作り上げていることに意義を感じた。他の都道府県ではあまり見られない、大量の花火とバクチクを使うここの独特の祭りの模様は一見の価値がある。

鮎掃りの滝 (右図) 岩でできた自然の滑り台や、ある程度の深さのある場所など、楽しめた。周りの美しい緑や水の透明度も魅力である。地域の人々の隠れ家的な避暑地であり、観光地化する場合、規制(人数、環境への配慮、安全面)が必要であると思う。



第9回ありえ浜んこら祭 来場者、イベントへの参加者ともに年齢層に偏りがそれほどない点、地域の人々との交流がある点、浜という地元の環境を活かしている点が評価でき、地域のお祭りとしては比較的成功していると思った。地域の人との交流が盛んに行われていることが、私の地元ではそのような機会があまりないため羨ましく感じた。今後、外部からの観光客を増やしていく場合、地元の人が参加しにくくなる状況を避ける必要があるだろう。大きくしすぎる必要はないと感じたが、市内でいくつか行われているお祭りを統合することで、有家町周辺だけのお祭りではなく、南島原市のお祭りを作れることもできると思う。その際、盆踊りや出し物で8つの町それぞれの特色を出せる機会となれば良いと思う。

~ 全体的な観光資源についての提案 ~

設備(トイレ、休憩所)の充実。どこの観光資源でも、観光客を迎え入れるという設備や体制が未完成であると感じた。観光地として市を盛り上げるには、施設や人材の完備が重要。

タクシーやレンタカー会社の紹介。価値のある観光資源はあるものの、交通の便が悪く外部の観光客にとって動きにくい。タクシーやレンタカー会社の紹介がスムーズにできる、広報やネットワークづくりが求められる。

* 民泊! * ~良かったところ~

温かい家族と一緒に過ごせたことに加え、**地域の人**が集まる機会が何度もあり、たくさんの人と交流できた。書物やメディアという情報からの理解ではなく、地域で実際に農業に携わっているとお話をすることで、理解できることがあった。



また、畑仕事、水汲み、布草履作り（右上図）料理といったように、そこでの**地域暮らし**を体験できた。自家製グリーンピースのうぐいす餡の饅頭（右下図）自家製ジャガイモのコロケなどなど、自家製作物がたくさん登場した。自給自足を成り立



たせているご家庭にも滞在することができた。さらに、ブタのたたきやしし肉など**初めての味**にも出会った。**魚介類、農作物が新鮮**で、本当に美味しかった。

地元の人ならではの**詳しい案内**により、スムーズにその土地を理解し楽しめた。

~改善ポイント~

毎日のご馳走と歓迎で大変有難く美味しいものばかりだったが、捨てられる程の量が用意されるのは、少々もったいない気がした。また、ティッシュペーパー、ゴミ箱、机などの**備品**が滞在する部屋に完備されていると滞在しやすくなる。歓迎して下さるあまり、なくなってしまう**プライベートな時間**の確保も、長期滞在ではより大切になる。生活時間が大きく異なる家族がいる場合、**騒音や生活空間**の考慮も必要である。初めての顔合わせで、インターンのことを知らない家族がいて驚かれるということがあったが、事前の**家族全員の理解**が求められる。



~提案点~

民泊を受け入れる側の研修や交流会。それぞれの家での取り組みや、体験プランなどの意見交換で、より民泊が有意義なものとなるだろう。民泊先の創意工夫や民泊先同士の協力によって、民泊がよりよくなるだろう。また、地域の交流や活性化にも繋がる。

学生の体験学習、バカンスプラン、農家育成プランなどというように、**対象者別のプラン**作り。体験内容を**オプション**として**選択**できるシステムも有用だろう。

事前に受け入れ家族の希望調査を行っての**民泊者と受け入れ家族のマッチング**や、どうしても合わない場合に受け入れ先を**変更できるシステム**作り。

移動手段の設置。民泊者が利用できるバイクや自転車があれば、動きやすい。

日本の田舎を体験したいという**外国人**は多い。日本らしさや、田舎ならではの人の温かさを知ってほしいと思う。

感想

南島原市には美味しい食べ物、ひまわり、歴史、貴重な史跡、地元の人々が地域を思う気持ち、そして人との繋がりと**いう魅力**がたくさんある。この地域を知れたこと、温かく、陽気な人たちに多く出会えたことを本当に嬉しく思う。初めは、それまでお会いしたことのない方々がそんなにも私たちを歓迎して下さることに驚いた。また、市役所の方々と市民の方々との繋がりが強いので、これからの地域発展の可能性も大きいと感じた。こういった人との関わり合いが、田舎の良さであると思う。都会で育ってきた人たちに、この田舎の良さをぜひ紹介したい。

民泊先のご家族、市役所の方々がそれぞれに、たくさんの体験をご用意して下さったことで、充実した時間を過ごすことができた。近所付き合いの濃さ、周辺の自然環境、車での移動などといった田舎のあり方が、とても新鮮で毎日たくさんの発見があった。今回体験させていただいた様々な体験は、第一次産業について、地域のあり方について、深く考える機会となり大変貴重なものとなった。民泊先のご家族、市役所の方々、地域の方々には、大変感謝している。また南島原市を訪れて、皆様にお会いしたい。

南島原市 地域づくりインターン報告書

2009年8月10日～25日

2009年8月24日

市の概要

立教大学 観光学部 交流文化学科 3年生 鈴間公子

南島原市は長崎県の南に位置し、島原湾に面している。面積は170平方km、今日の人口は53,590人である。“あこうの木”と“ひまわり”がそれぞれ市の木と花である。平成18年に深江、布津、有家、西有家、北有馬、南有馬、口之津、加津佐の8つの町が合併し、南島原市になった。市には山と海の両方があり、農業・漁業ともさかに行われ、自然に恵まれている。また、深江などは平成3年に起こった雲仙普賢岳の噴火で被害にあった地域でもある。特産物はじゃが芋をはじめとする農産物や島原手延べそうめん、アラカブ(カサゴ)などの水産物が挙げられる。

平成19年1月に長崎の教会群とキリスト教関連遺産が世界遺産暫定一覧表に登録された。その26ヶ所のうち3ヶ所(原城跡、日野江城跡、切利支丹墓碑)が南島原市にある。また、島原半島には、雲仙火山など様々な地球科学的現象を観察できる箇所があるため、雲仙市、島原市とともに、ジオパークとして世界初の地質学的世界遺産を生み出そうという活動が行われ、先日正式に認定された。このように南島原市は世界遺産登録を目指し、観光地、民泊の整備に取り組んでいる。

参加動機

自分も福井県という田舎を出て、都市の暮らしと田舎の暮らしを双方に体感しながら差異の大きさに戸惑いを覚えたり、考えさせられる機会が多々ある。地方には若者の減少・高齢化や不便さなどの問題点がある中で、田舎の良さを改めて感じることもある。「田舎の暮らし」というものを自分の地元とはまた違った、別の視点で考え、どういった形で地域の活性化を促していこうという動きがあるのかを学びたいと思いこの事業に参加した。

スケジュール

日程	時間帯	体験内容	宿泊先
8/10(月)	午前	長崎市内観光	真砂
	午後	南島原市到着、歓迎会	
8/11(火)	午前	市内視察(民俗資料館など)	木下家
	午後	地域見学(甲地区)	
8/12(水)	午前	農業体験(キュウリ、トラクター)	木下家
	午後	地域住民との卓球大会	
8/13(木)	午前	ひよっつる製造体験	菅崎家
	午後	お墓参り、農業体験(野菜採り)	
8/14(金)	午前	まんじゅう、スイカ、水汲み	菅崎家
	午後	雲仙岳観光、農地見学	
8/15(土)	午前	イルカウォッチング、原城跡視察	雲仙館

	午後	島原市内観光、精霊船見学	
8/16(日)	午前	レポート作成	松尾家
	午後	農薬散布見学	
8/17(月)	午前	アスパラ袋詰め、選果場見学	松尾家
	午後	草履作り、アスパラ収穫	
8/18(火)	午前	タコ壺漁見学、	松尾家
	午後	長崎市観光	
8/19(水)	午前	日野江城跡発掘調査、鮎帰りの滝	安達家
	午後	落花生収穫、牛の見学	
8/20(木)	午前	オクラ収穫、袋詰め、ひまわり TV	安達家
	午後	オクラを市場へ出荷	
8/21(金)	午前	せり見学	森永家
	午後	旧大野木場小被災校舎見学、魚やさん	
8/22(土)	午前	ヒノキ林見学、丸太切断	森永家
	午後	ありえ浜んこら祭	
8/23(日)	午前	レポート作成	エコパーク論所原
	午後	レポート作成	
8/24(月)	午前	せりの換金	エコパーク論所原
	午後	報告会、送別会	
8/25(火)	午前	長崎市へ	
	午後	帰宅	

*** 観光資源について ***

11 日 **口之津歴史民族資料館・白浜・あこうの木・ひまわり畑**

館長さんの分かりやすい説明により理解が深り、来場者の関心や満足感も高まる。今後のガイドの育成が重要。

15 日 **イルカウォッチング**：自然や生物への配慮。何十匹ものイルカの群れの見学は、子供から高齢者まで楽しめる感動があった。しかし、イルカの群れを何艘もの船がエンジンから騒音をたて追いかけてまわす光景が少し奇怪であった。エコ・ツーリズムが謳われる今日、自然や生き物のことを考えた営業が、環境にも観光客にも良い影響を与えるであろう。見南島原市の海に生息する生き物などの資料館の設置も考えてみてはどうか。

船酔いなどで苦しむ観光客が見られたが、ビニール袋や休憩室などの設置が不十分であった。起こりうる事象の想定が必要。レストハウスなどの来場者の方への心遣いを。

精霊流し：私の地元の福井の海岸沿いでは、お盆に藁で作った小さな船を海に流す風習がある。南島原市の精霊流しにも少し似たようなものを感じたが、お盆の時期にお墓の前で花火をしたり、精霊流

しの際に花火や爆竹を激しく使う風習はやはり、南島原市、または長崎特有のものだろう。近年、お盆に地元帰るのもなかなか難しくなっているが、その文化や風習が代々受け継がれてほしい。

18日 **タコつば漁体験**：商業化する場合、体験内容（たこの試食、軍手着用後たこの移動など）が増えれば良い。

19日 **日野江城跡（発掘調査見学）**：日野江城発掘調査の生涯学習。発掘調査のアルバイトは、定年後の方々にとってのいきがいのひとつになっている。

鮎帰りの滝：鮎帰りの滝は地域の人々の隠れ家的な避暑地。観光地化する場合、規制が必要。

21日 **災害校舎（旧大野木場小学校）大野木場砂防みらい館、みずなし本陣**

22日 **第9回ありえ浜んこら祭**

市民祭りとして良いお祭りだが、さらに協調や地域の活性化に向けて、8つの町が交わるような企画を増やすべき。ありえ浜んこら祭に向けて、各町でのだしものや、対抗戦などの何かしらのイベントを作るのはどうか。ダンスや盆踊りも各町で練習する期間を祭りまでに設けるのも一つの交流になる。外部からの観光客増加は難しく思えた。ビーチバレー大会は、外部の方を呼び込むのに適していると思えたが、午前中で終わってしまうために、最後まで滞在するのが難しい。夕方からのステージでのイベントもゲストを呼ぶなどの、地域の交流と外部的視野のバランスを考えた祭り作りが必要。

観光地としての今後

- ・設備（トイレ、休憩所）の充実。どこの観光資源においても、観光客を迎え入れるという設備や、体制が少し未完成であるように感じた。「観光地」として市を盛り上げるには、施設や人材の完備を。
- ・タクシーやレンタカー会社の紹介。交通の便が悪く、外部の観光客にとって動きにくい。タクシーやレンタカー会社の広報やネットワークづくり。

「民泊」について 良かった点

< **アットホームな雰囲気・地域交流** >：民泊先だけでなく地域の人にも温かく歓迎して下さった。地域のネットワークは強みになるだろう。また、地域の子供たちとの卓球大会において少人数ながら、学年問わず教えあって仲良く卓球に励んでいることが微笑ましかった。

< **新鮮な食材** >：農業体験（収穫から出荷まで）やとれたての食材が食べ物の大切さを伝える。

< **地元の案内** >：地元の人であるが故に、外部の者にとって知らない町でもスムーズに回れるという利点。案内マップなどの情報誌よりもより分かりやすい情報。実際の現地の方との会話による理解

改善点

< **予算内での食事を** >：歓迎されたことで毎日のご馳走だったが、商業化を考えると、考慮することも必要である。

< **プライベートな時間の確保** >：研修などではない民泊の場合、プランの中に予定をつめすぎない。お客様の希望を優先すべきだが、市内観光をする日と農業体験をする日は分けるなど余裕のあるプランを。体験の他に自由時間を設ける必要性。生活時間が極度に異なる家族は部屋の位置などを調節すべき。

< **家族全員の理解が必要** >：初めての顔合わせで、インターンのことを知らない家族がいて驚かれた。今回は受け入れてもらったが、そうでない場合もあるだろう。受入れの名前の確認も必要。

提案点

<受け入れ前に簡単な研修・民泊を受け入れる側の交流>：民泊を受け入れる側の研修や交流会。お互いの家ではどのようなことをするかなどを話し合う機会によって、より民泊における設備の統一や規定が作りやすくなる。また、南島原市の中での地域の交流の一つとして、地域の活性化に繋がる。

<事前に受け入れ家族の希望要項などを調査>：ペット、たばこ、子供、受け入れ先の年齢など。

<対象者別のプラン作り>：対象者別のプラン...ex

1. 学生の研修プラン “ 修学旅行、研修旅行としての民泊プラン ”

・農業体験、林業体験、口之津資料館、普賢岳災害跡地や原城跡などの教育的な研修プランを企画。田舎暮らしの中で改めて大切にしていきたい、多くの子供たちがもっと経験できたらいいなと気づかされることがたくさんあった。田舎暮らしというものは、今後の社会を築く子供たちにとっても実りある経験になるのではないかな。

2. “ 大人向け田舎暮らしプラン ” “ 農家になりたい方育成プラン ”

・農業体験や近くの温泉へ行くなど。基本的には、お客様が滞在でまず何をしたいのかを募り、プラン。これから農家になりたい方に1つの作物を選んでもらい、ロングステイで農業を学ぶプラン。

<各家庭にレンタカーやレンタバイクや自転車の設置>：観光客が動きやすくなる。



オクラの収穫（安達家）



オクラのセリ（西ありえ市場）



<感想>

民泊（菅崎家）

タコ壺漁体験

地域の形や町づくりに関して地域の人々の繋がり、そして市役所の方々と市民の人との交流の豊かさに驚かされた。地域を作りあげていこうという市役所や住民の人々の姿勢に活気を感じた。

今回は地域づくりインターンということで何か自分にも考えられることや、お手伝いができればと参加させていただいたが、地域への貢献というよりも自分にとって実りあることが多かった。その中で南島原市の方々から、「ありがとう、楽しかった。」などという有難い言葉をたくさんいただいた。様々な人々の流れや交流により、地域がより生き生きしたものになり笑顔が増えていくことを望みたい。お世話になった方々、本当に有難うございました。

